

「少年の生活意識と行動」の実態調査

報告書



令和8年3月

小牧市少年センター
(小牧市こども政策課)

目 次

第1章 調査実施の概要	1
調査の目的 調査の内容 調査の方法	
第2章 調査結果	
I 6年間の調査結果からみられる少年の意識傾向と変化等	
1 家庭生活に関すること	2
2 スマートフォンに関すること	3
3 本人に関すること	4
4 家庭・家族に関すること	5
5 学校や勉強に関すること	6
6 地域に関すること	7
7 将来に関すること	9
8 少年非行や社会認識に関すること	9
9 ヤングケアラーに関すること	10
II 調査項目ごとの結果と考察	
1 家庭生活に関すること	12
問1 就寝時刻 問2 勉強時間 問3 通塾日数	
問4 趣味の時間 問5 読書量 問6 休日の過ごし方	
2 スマートフォン（以下スマホ）に関すること	15
問7 スマホの所持率 問8 スマホの所持開始時期	
問9 スマホの利用時間 問10 スマホの夜間利用	
問11 スマホでの出会い 問12 インターネットの利用方法 問13 SNSへの投稿	
3 本人に関すること	18
問14 悩みごとの内容 問15 悩みごとの相談相手	
問16 友人の数 問17 友達関係	
問18 ネット上の友人の数 問19 ネット上の友達関係 問20 自分にとって大切なこと	
4 家庭・家族に関すること	22
問21 家族として大切なこと 問22 家にいるときの気持ち	
問23 注意をしてくれる相手 問24 注意の内容	
問25 お手伝いの内容	
5 学校や勉強に関すること	24
問26 先生との信頼関係 問27 教えてもらいたい先生 問28 不登校への思い	
問29 不登校の理由 問30 学校のきまりや規則 問31 勉強する理由	
6 地域に関すること	27
問32 自分のまちへの愛着 問33 地域の安心度	
問34 安心して外出できない理由 問35 隣人の認知度 問36 声かけの頻度	
問37 行事への参加 問38 行事への協力	
問39 大切にしたい地域行事 問40 理想の地域	
7 将来に関すること	32
問41 希望の仕事 問42 夢への努力	
8 少年非行や社会認識に関すること	33
問43 非行の理由 問44 非行の防止策 問45 社会の問題点	
9 ヤングケアラーに関すること	34
問46 ヤングケアラーへの認知 問47 ヤングケアラーへの該当	
問48 お世話の内容 問49 お世話の日数 問50 お世話の時間	
問51 お世話をすることへの辛さ 問52 助けてほしいこと、必要な支援	
第3章 調査資料	
質問用紙QRコード	38

第1章 調査実施の概要

I 調査の目的

大きく変化する社会情勢や4年近くに渡るコロナウイルス感染症の影響で、少年を取り巻く生活環境や人との関わり方なども大きく変化してきました。その中でSNSを発端とするトラブルや性被害、不登校の増加などの様々な問題が生じています。

時代の流れとともに変化する少年たちの生活意識や行動の実態を把握するためのこの調査は、学校・地域を中心に小牧市全体で取り組んでいる青少年健全育成活動をより一層充実させるための資料として活用してもらうことを目的としています。

調査対象年齢は、小学校5年生、中学校2年生、高等学校1年生とし、性別・年齢による特質と経年変化に注目することとしました。調査内容は、本人、家庭・家族、学校や勉強、地域等に関することなど、少年の生活全般に関わるものとし、少年の意識や行動の傾向を幅広い視点から把握することを意図しました。また、3年前から新たに設問に加えた「SNSへの投稿」「ヤングケアラー」については、引き続きその実態の把握に努めました。

この調査結果から、少年の生活意識と行動傾向の変化を的確に把握し、少年たちを見守る大人が、少年たちの気持ちに寄り添いながら自信をもって適切な支援やアドバイスができるようになることを期待します。

II 調査の内容・・・第3章 調査資料 参照

III 調査の方法

1 調査対象者

小牧市内の小学校5年生（1または2学級）、中学校2年生（それぞれ2学級）、高等学校1年生（小牧高校6学級、小牧南高校6学級、小牧工科高校2学級、誉高校3学級）の男女

2 標本数

調査Ⅰ、調査Ⅱとも各学年300名程度

3 抽出方法

各学校の各学年から指定数の学級で調査（学校による選択）

4 調査方法

市内の小学校、中学校、高等学校に依頼し、Web（小牧市LoGoフォーム）上の質問項目への直接入力方式

5 実施時期

令和7年9～10月 調査実施（令和7年10月3日 回答完了）

6 処理方法

LoGoフォームのデータをEXCELデータに変換し、少年センターで処理する。

（各項目について学年・男女別、学年別、男女別の集計処理を行う）

本報告書の調査結果は、学年別集計表を中心に、学年・男女別集計も参考に考察する。

7 回答数及び処理数

調査Ⅰ	小5年	281名（男子138名、女子143名）
	中2年	251名（男子129名、女子122名）
	高1年	282名（男子163名、女子119名）
	合計	814名（男子430名、女子384名）
調査Ⅱ	小5年	280名（男子146名、女子134名）
	中2年	257名（男子132名、女子125名）
	高1年	288名（男子157名、女子131名）
	合計	825名（男子435名、女子390名）

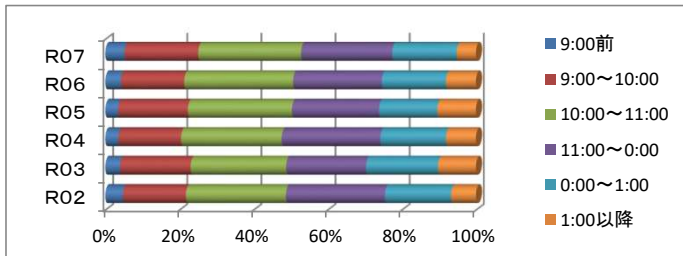
第2章 調査結果

I 6年間(令和2年度～令和7年度)の調査結果からみられる少年の意識の傾向と変化等

* 各設問のグラフは、小学校・中学校・高校の児童・生徒合計割合(%)の6年間の推移を示したものです。文中の[]内の数値は、02年度→03年度→04年度→05年度→06年度→07年度の調査の割合(%)を示したものです。

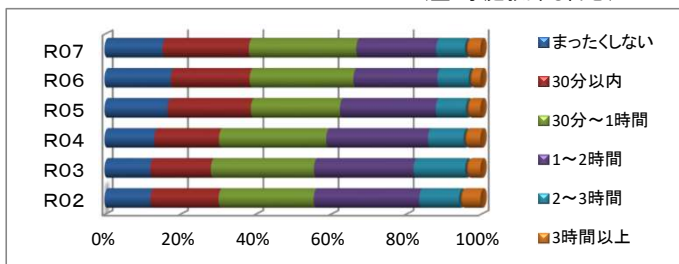
1 家庭生活に関すること

問1 ふだん(月曜日～金曜日)、何時ごろに寝ていますか。



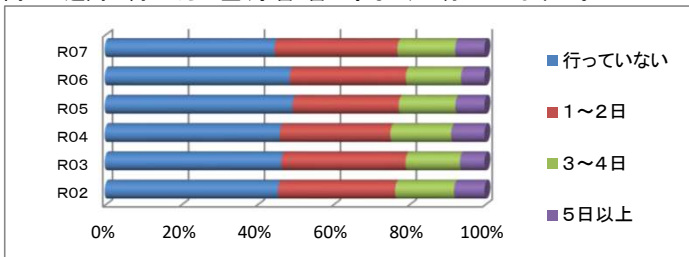
令和4年度まで午後11時までに就寝する子どもの割合が50%を下回っていたが、令和5年度から50%を上回り、今年も53%と昨年度の51%より増えている。午前0時以降に就寝する子どもの割合は[24→30→26→26→25→23%]と推移しているが、その中で1時以降と回答した割合は、令和5年度10%だったのに対して本年度は5%と半分の割合になっており、全体的にわずかではあるが就寝時間が早くなっている。

問2 ふだん(月～金)学校の授業以外に、どれくらい勉強しますか。(塾・家庭教師も含む)



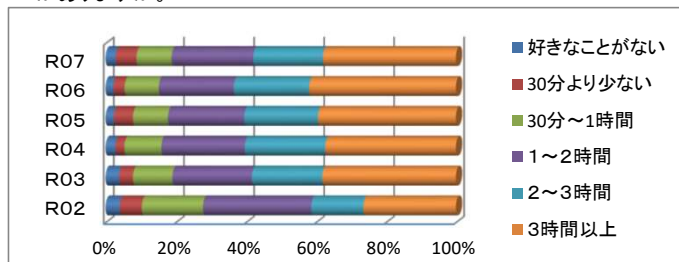
平日勉強を、「まったくしない」「30分以内」「30分～1時間」と回答した割合の合計は[56→59→62→66→67%]と推移し、勉強時間が1時間以下と回答した割合は増加傾向にある。その中で「まったくしない」と回答した割合は令和2年以降増加傾向にあったが、昨年度の18%をピークに、今年度久しぶりに15%と減少に転じた。それでも学校の授業以外での勉強時間が十分確保されているとは言えず、「2時間～3時間」「3時間以上」と回答した割合はわずか12%にとどまっている。

問3 1週間に何日くらい塾(学習・習い事など)へ行っていますか。



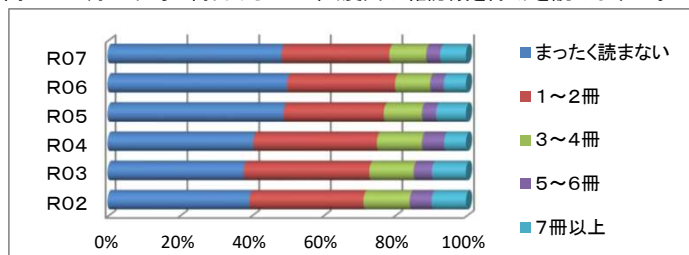
塾へ「行っていない」と回答した子どもの割合は[45→45→46→49→48→45%]と推移しており、昨年度より3ポイント減少したものの、この6年間で大きな変化はなかった。逆に3日以上と回答した割合も[23→20→25→22→21→23%]と年度によって多少の増減はあるものの大きな変化は見られなかった。

問4 ふだん(月～金)、1日あたりどれくらい家で好きなこと(趣味)をする時間がありますか。



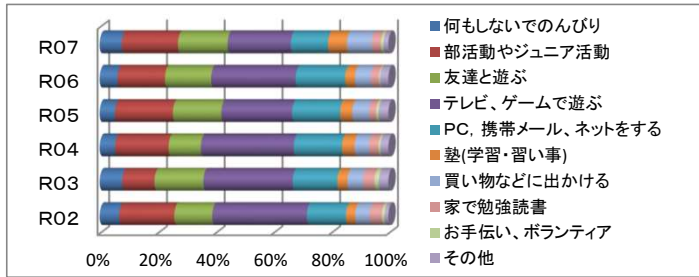
家で好きなことをする時間が「1時間以上ある」と回答した子どもの割合は[71→81→84→82→85→81%]と、コロナウイルス感染症の影響により変化した家庭・学校をはじめとする生活様式が定着したためか、高い割合で推移している。中でも3時間以上と回答した割合は[26→38→37→39→42→38%]と令和3年度以降特に高い割合で推移しており、子どもたちが比較的余裕をもった生活を送れていることがうかがえる。

問5 1か月に平均で何冊ぐらいの本(漫画や雑誌類を除く)を読みますか。



本を「まったく読まない」と回答した割合は[39→38→40→49→50→48%]と推移し、2年前からおおよそ半数の子どもが本を全く読まないという状況が続いている。一方本年度も月に3冊以上本を読む子どもが21%、7冊以上読む子どもが7%ほどいる。デジタル化が進む中での読書の重要性を再確認し、今まで以上に読書教育の充実を図りたい。

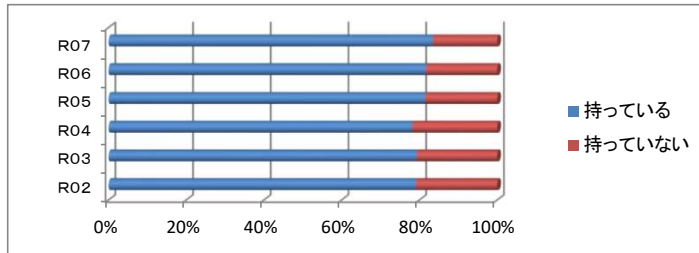
問6 休みの日の過ごし方で、一番多いものはどれですか。



休みの過ごし方で最も多いのは「テレビ、ゲームで遊ぶ」で、[33→31→32→25→29→22%]と推移しており、令和2年のコロナ禍の33%をピークに減少傾向にある。その分令和2年度に11%と大きく減少した「部活動やジュニア活動に参加する」が20%と増えている。また、「友達と出かける」「買い物に出かける」と回答した割合も増加傾向にあり、子どもたちが活動的になってきたことがうかがえる。

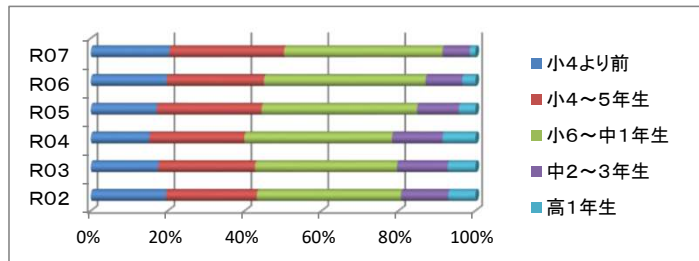
2 スマートフォンに関すること

問7 自分専用のスマートフォンを持っていますか。



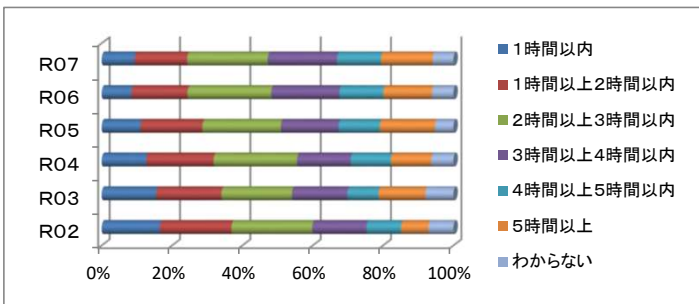
自分の専用のスマートフォンを「持っている」と回答した割合は、[76→75→71→80→82→84%]と推移し、所持率が昨年度よりさらに高くなった。スマートフォンはこれからの生活に必要な不可欠なツールとなっているため、早いうちから十分使いこなせるようになることは大切だが、正しい使い方を身に付けられるよう家庭、学校、社会全体で働きかけていくことが今後さらに重要になってくる。

問8 スマートフォンを持ったのは、いつごろからですか。



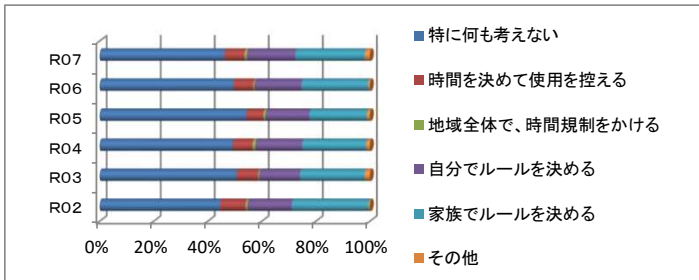
スマートフォンを所持した年齢は、「小6～中1年生」が最も多くその割合は[37→37→38→40→42→41%]となっており、今年度中学校1年までにスマートフォンを所持したと回答した割合は、所持者全体の約92%となっている。「小4より前」「小4～5年生」を合わせた割合は[43→42→39→44→45→50%]となっており、スマホを所持し始める年齢が下がってきていることがわかる。

問9 ふだん(月～金)、1日あたりどれくらいスマートフォンを使っていますか。



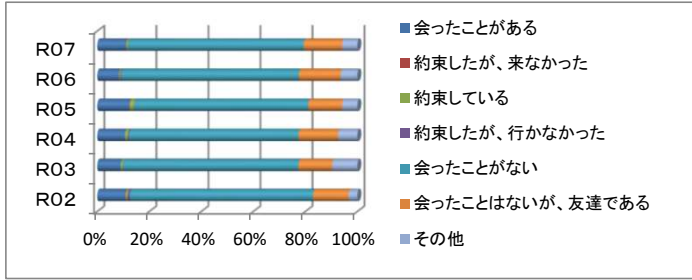
スマートフォンの利用時間を1時間以内にとどめている割合は[16→15→13→11→8→9%]と低くなっている。逆に3時間以上利用するという割合は、[33→38→38→44→46→47%]と推移し、令和2年度から14ポイントも増加している。このことから、近年子どもたちのスマートフォンの長時間利用が常態化してきていることがわかる。その中でも15%の子どもが毎日5時間以上利用していると回答し、スマートフォンへの依存性が心配される。

問10 スマートフォンなどを夜間に利用することについてどう思いますか。



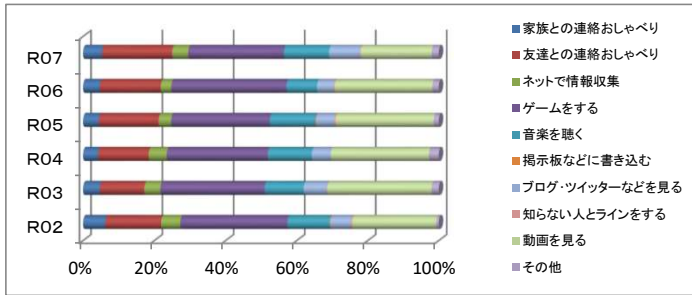
スマートフォンを夜間に利用することに関して、「特に何も考えない」と回答した割合は、[44→50→49→54→49→46%]と推移し、令和5年度をピークに減少傾向にある。「時間を決めて使用を控える」と回答した割合の推移は[9→8→7→6→7→8%]となっており、主体的に夜間の利用に制限を設けている割合は低い傾向にある。それでも「家庭でルールを決める」と回答した割合が26%ほどあり、スマートフォンの利用についての約束事を話し合っている家庭も比較的多いことがわかる。

問11 スマートフォンを通して知り合った人と会ったことがありますか。



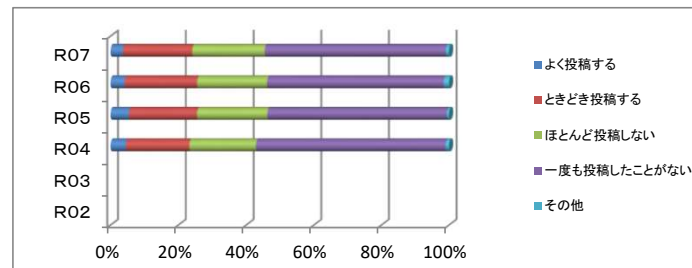
「スマートフォンで知り合った人と会ったことがありますか」という問いに対して、「会ったことがない」と回答した割合は[70→67→65→67→68→68%]と推移しており、多くの子どもたちがネット上で知り合った人にある程度警戒感を持っていることがわかる。しかし、「会ったことがある」と回答した割合が[11→9→11→12→8→11%]とわずかではあるが増加に転じていることが心配である。

問12 インターネットが一番多く利用していることは何ですか。



インターネットの利用に関して、多いのは「ゲームをする」「動画を見る」であるが、両方を合わせた割合の推移を見てみると[53→59→56→55→59→47%]となっており、本年度は昨年と比べると12ポイントも減少している。一方「友達との連絡・おしゃべり」と回答した割合は[16→12→14→17→17→20%]と推移し、コロナ禍であった令和3年度から8ポイント増加している。コロナによる行動制限がなくなり、友達と触れ合う時間が増えたことも増加の要因の一つとなっていると考えられる。

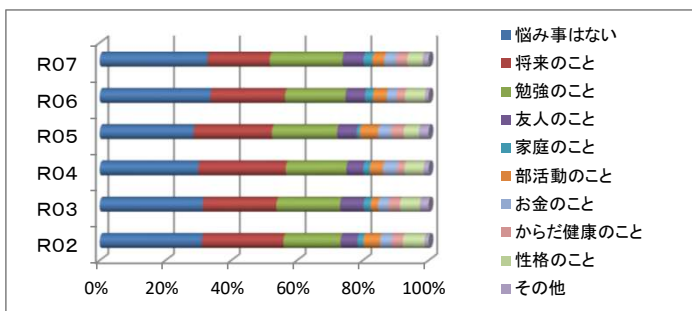
問13 インターネットのSNSに自分のプロフィールや写真・動画などを投稿したことがありますか。



「自分のプロフィールをSNSに投稿したことがあるか」という問いに対して、「ほとんど投稿しない」を含め一度でも投稿したことのある割合は、全体の46%で昨年度と同じだった。その中で「よく投稿する」「ときどき投稿する」と回答した割合は[23→26→26→24%]で推移し、SNSの危険性が問題視されている中でも毎年一定程度いることがわかる。SNSの危険性についての理解を深めさせ、事件・事故に巻き込まれないようにする指導を継続的に行っていく必要がある。

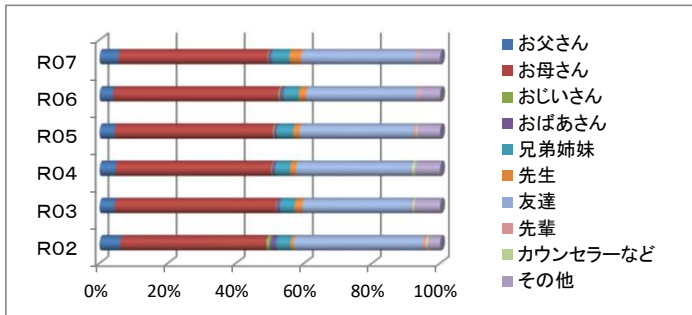
3 本人に関すること

問14 今、あなたが一番悩んでいることはどんなことですか。



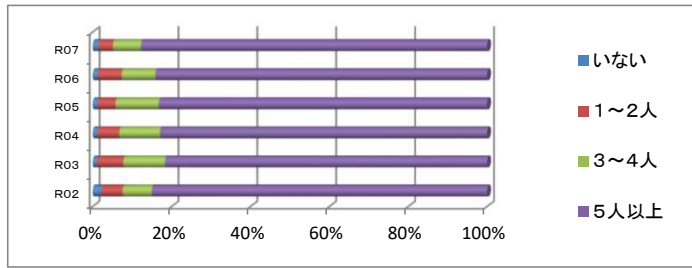
悩み事で一番多いのは「勉強のこと」で[17→19→18→20→18→22%]で、昨年まで一番多かった「将来のこと」は[25→22→26→24→22→19%]と推移し、この6年間ではじめて「勉強のこと」が「将来のこと」を上回った。その他の項目については毎年多少の増減はあるものの大きな割合の変化はなかった。学校が正常化してきた中で、勉強のことが最も身近な問題として捉えられるようになったと考えられる。

問15 悩みごとを一番相談するのはだれですか。



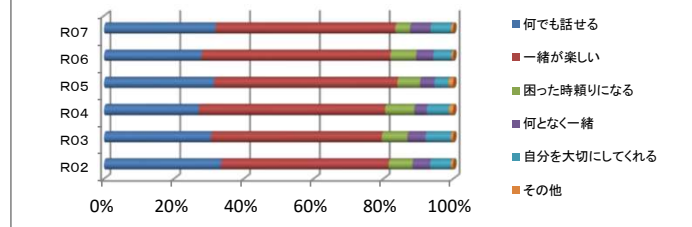
悩み事を相談する相手として最も割合が高かったのは「お母さん」で、[43→46→45→46→47→44%]と、毎年高い割合を保っている。一方「お父さん」と回答した割合は、一緒に過ごしたり話をしたりする時間が短いためか[6→4→5→4→4→6%]となっており、低い割合で推移している。母親に次いで多いのは「友達」で、経年変化でも[38→32→33→33→31→34%]と高い割合を維持している。一方「おじいさん」「おばあさん」と答えた割合は近年1%前後ほどしかなく、これは祖父母と同居している家庭が少なくなったことも大きな要因の一つだと考えられる。

問16 友達(顔を見て話ができる)は何人くらいいますか。



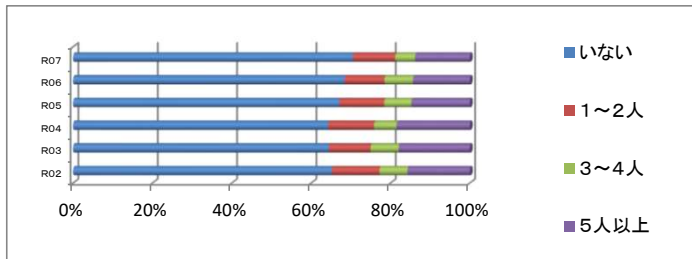
「友だちが5人以上いる」と回答した割合は[83→81→82→83→83→88%]で推移し、本年度88%とこの6年間で最も高くなった。それに「1~4人」と回答した割合を加えるとおよそ99%前後となり、ほとんどの子どもたちが人数の多い少ないはあるものの、仲の良い友達がいることがわかる。しかし「いない」と回答した割合は[2→1→1→1→1→1%]と割合としては高くないものの0%になる事はない。全体から見るとごくわずかではあるが、人との関りが苦手な子どもたちを孤立させることがないようにサポートしていく必要がある。

問17 あなたと友達の関係について、一番当てはまるものはどれですか。



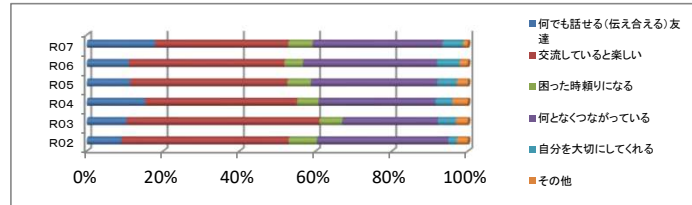
友達との関係については、「一緒に楽しい」と回答した割合が最も高く、[48→48→52→52→53→52%]と、常に50%前後を維持している。2番目に多いのは「なんでも話せる」と回答した割合で[33→30→27→31→27→32%]と推移し、昨年度より5ポイントほど増えている。「困ったときに頼りになる」が昨年度の7%から4%に減少したが、「なんとなく一緒に」「自分を大切にしてくれる」5%から6%に微増した。

問18 ネット上で知り合った友達は何人くらいいますか。



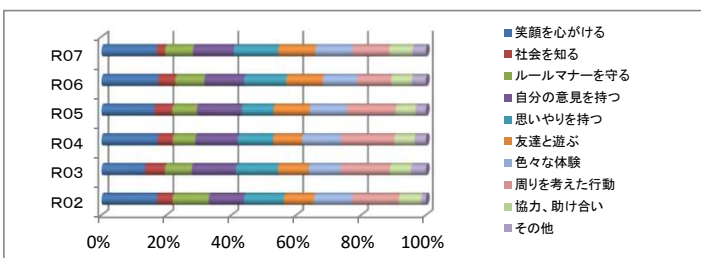
「ネットで知り合った友達が一人でもいる」と回答した割合の推移は、[32→34→34→32→30→30%]となっており昨年度からの変化はなかった。その中で「5人以上」と回答した割合も、[15→17→17→14→14→14%]と推移し、昨年度と同じ14%だった。最近増加しているSNSを通しての性被害や誹謗中傷などのトラブルへの危機感からか、「いない」と回答した割合は昨年度から増加傾向にあり昨年度の66%から71%に増えている。ネットで知り合った友達と安易に交流したり会ったりすることがないよう心がけさせたい。

問19 あなたとネット上の友達の関係について、一番当てはまるものはどれですか。



ネット上の友達との関係については、「交流していると楽しい」と回答した割合が最も高く、経年変化は[50→40→41→41→35%]と推移し、本年度は昨年度より6ポイント減少している。2番目に割合が高かったのは「何となくつながっている」で、昨年度とほぼ同じ34%と大きな変化はなかった。本年度は「なんでも話せる(伝え合える)友達」回答した割合が昨年度の11%から18%へと大きく増えた。

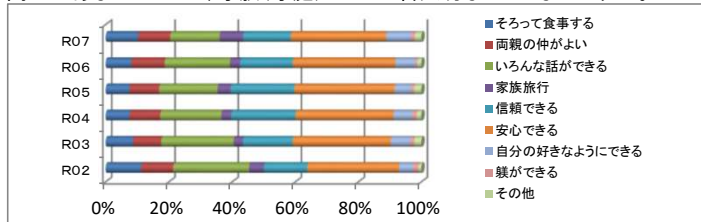
問20 今の自分にとって、一番大切なことはなんですか。



「今の自分にとって一番大切なこと」として割合が高かったのは、「笑顔をはがける」(17%)「思いやりを持つ」(14%)「自分の意見を持つ」(13%)で、令和2年度以降多少の順位の変動はあるものの、この3つの項目が毎年上位に入っている。またこの3つ以外の項目の割合にも大きな変動はなかったが、「周りを考えた行動」と回答した割合は、最も高かった令和4年の16%をピークに減少傾向にあり、昨年度は10%、本年度は11%だった。

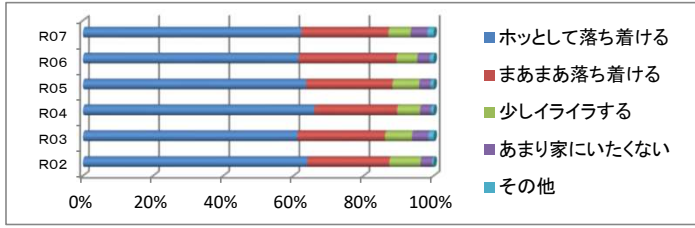
4 家庭・家族に関すること

問21 あなたにとって、家族(家庭)として一番大切なことはなんですか。



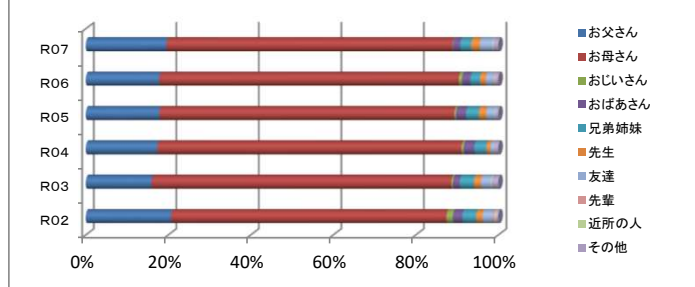
「家族(家庭)として一番大切なこと」は、「安心できる」と回答した割合が毎年最も高く、[29→31→31→32→32→30%]で推移している。次に多かった「いろんな話ができる」は、昨年度の21%から16%へ減少した。「信頼できる」と回答した割合も昨年度の17%から16%に減少した。「両親の仲がいい」「そろって食事をする」と回答する子どもも毎年10%前後いる。今年度は「自分の好きなようにできる」と回答した割合が、最も低かった令和2年の4%から8%に増えている。

問22 あなたが家にいるときの気持ちに一番近いのはどれですか。



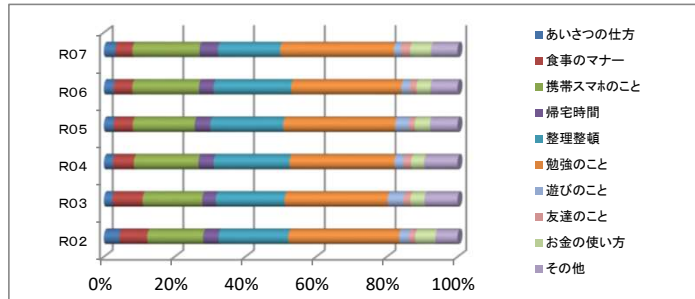
家にいる時の気持ちとして、「落ち着ける」「まあまあ落ち着ける」を合わせた割合の推移は[86→86→89→88→89→87%]となっており、多くの子どもたちにとって家庭が落ち着ける場所になっていることがわかる。それでも「少しイライラする」と回答した割合が6%、「あまり家にいたくない」と回答した割合が5%ほどおり、家庭へのサポートが必要な子どもたちが毎年一定程度いることがわかる。

問23 あなたの生活や行動を一番注意してくれるのはだれですか。



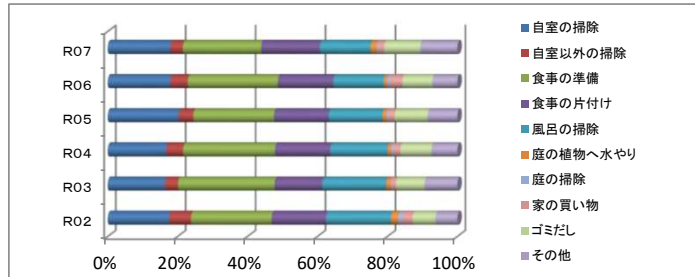
「一番注意してくれるのはだれか」という問いに対して「お母さん」と回答した割合が最も高く、経年変化は[66→72→73→71→72→69%]となっている。それに対して「お父さん」と回答した割合の推移は[20→16→17→18→18→20%]となっており、今年度わずかに増えたものの母親と比べ大きな差がある。また、「兄弟姉妹」「先生」と回答した割合は毎年約1~3%程度と非常に少ない割合となっている。「近所の人」と回答した割合は毎年1%にも満たず、地域の大人たちが近所の子どもたちを注意することがほとんどなくなったことがわかる。

問24 あなたが両親から一番注意を受けることはなんですか。



両親から注意を受けることとして毎年一番多いのは「勉強のここと」で、次いで「携帯・スマホのここと」(19%)「整理整頓」(18%)という順になっており、この6年間で初めてわずかな差ではあるが「携帯・スマホのここと」が「整理整頓」を上回った。スマホが普及し始めた平成25年の調査では、「携帯・スマホのここと」で注意される割合がわずか3%ほどであったことを考えると、家庭でのスマホの使い方が大きな問題になっていることがわかる。それ以外の項目については年度によって多少の増減はあるものの同じような割合で推移している。

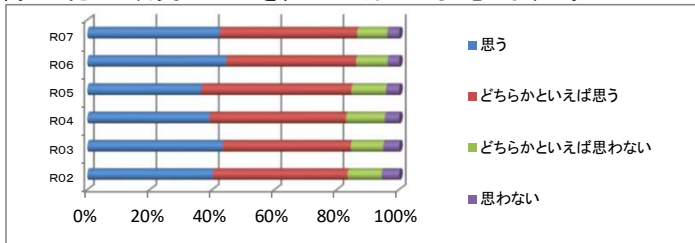
問25 あなたが一番行っているお手伝い(家事)はなんですか。



子どもたちがしているお手伝いで、毎年多いのは「食事の準備」「食事の片付け」で、2つを合わせた割合の推移は[38→41→42→39→41→39%]となっている。その他の項目は毎年多少の順位の入替わりがあるものの、割合的には大きな変化は見られなかった。「その他」が今年度10%ほどいたが、記述されていた内容で多かったのは「洗濯関係の手伝い」だった。多くの子どもたちが、家族の一員としてなんらかのお手伝いをし、家族の一員としての役割を担っていることがわかる。

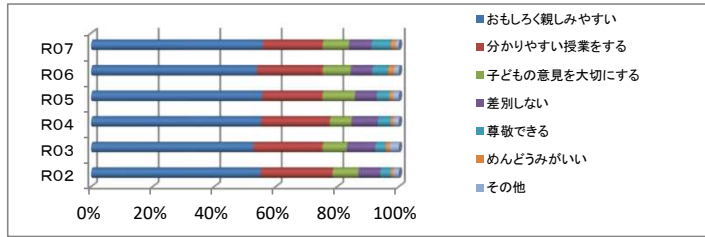
5 学校や勉強に関すること

問26 先生は、あなたのことをわかっていてと思いますか。



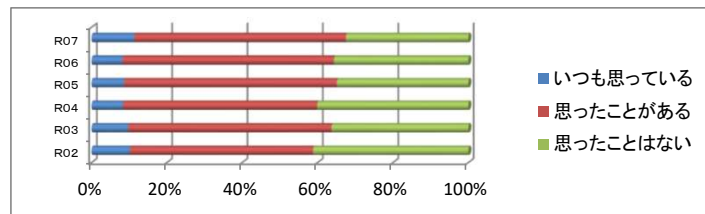
「先生は自分のことをわかっていてと思いますか」という問いに対して、「思う」「どちらかといえば思う」と回答した割合の合計の推移は、[83→84→83→84→86→87%]となっており、多くの子どもたちが学校の先生と良好な人間関係を築けていることがわかる。それでも「どちらかといえば思わない」「思わない」と回答する子どもが毎年13~17%程度いるので、少しでも減らせるよう一人一人をより深く理解し、日々温かい声かけができるよう心がけたい。

問27 どんな先生に一番教えてもらいたいですか。



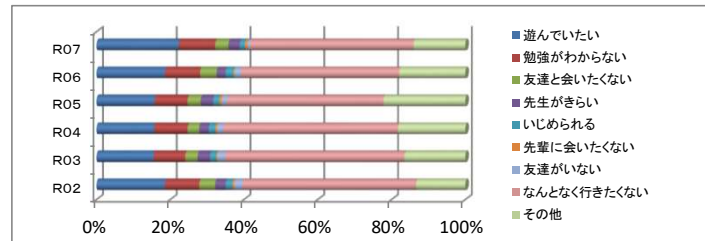
教えてもらいたい先生は、「おもしろく親しみやすい先生」と答えた割合が56%と最も多く、経年変化でも[55→52→55→55→53→56%]となっている。2番目に多かったのが「分かりやすい授業をする先生」(20%)、3番目に多かったのが「子どもの意見を大切にする先生」(9%)となっており割合に大きな変化はなかった。「差別しない先生」と回答した割合は[7→9→9→7→7→7]とそれほど高くない割合で推移しているが、先生に差別されていると感じている子どもが毎年一定数いることがわかる。

問28 学校に行きたくないと思ったことはありますか。



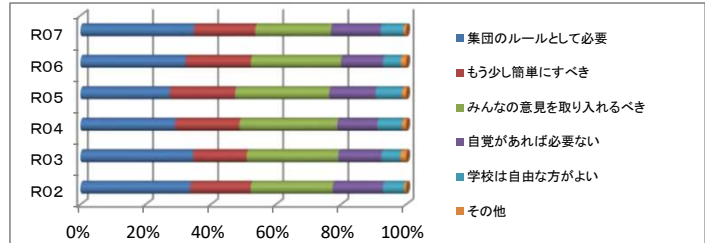
学校に行きたくない「いつも思っている」「思ったことがある」と答えた割合の合計は、[58→63→59→65→64→68%]と推移し、令和2年と比べると10ポイントほど増加している。学校の授業・部活動・行事などの全てが通常状態に戻って2年がたち、学校生活の中での負荷が大きくなり疲れを感じる場面が多くなっていることも、増加の一因となっていると考えられる。

問29 学校へ行きたくない理由の一番はなんですか。



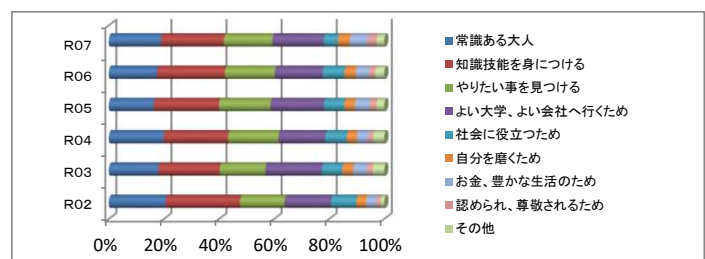
学校に行きたくない理由として最も割合が高かったのは、「なんとなく行きたくない」で、経年変化は[46→48→47→42→42→44%]と推移している。次に多かったのが「遊んでいたい」で、その割合は[18→15→16→16→18→22%]と推移し、コロナ禍で比較的時間に余裕があった時期と比べ、学校生活が通常に戻ったことにより増加傾向にある。「勉強がわからない」と回答した割合も毎年9～10%いるので、学習の遅れが不登校につながらないように配慮する必要がある。

問30 学校の「きまり」や「規則」について、あなたの考えに一番近いのはどれですか。



学校のきまりや規則については、「集団のルールとしては必要」と回答した割合が[33→34→29→28→32→35%]と推移し、この6年間で最も高い割合となっている。令和4年(30%)・5年度(29%)に最も高かった「みんなの意見を取り入れるべき」は今年度23%と減少し、この6年間で最も低い割合となった。一方「自覚があれば必要ない」「学校は自由なほうがよい」と回答も昨年度より4ポイント高い22%ほどいたが、気持ちよく学校生活を送るためにはある程度の「きまり」や「規則」が必要だと感じている子どもが増えている。

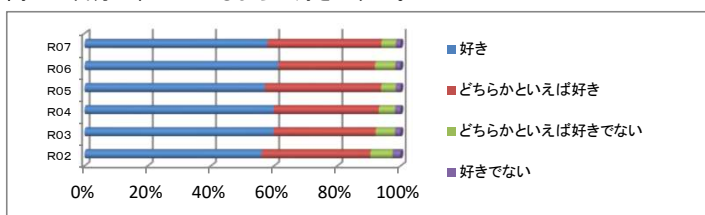
問31 どうして勉強しなければならないと思いますか。



勉強しなければならない理由として回答した割合が高かったのは、「知識技能を身につける」(23%)「常識ある大人」(19%)「よい大学、よい会社に行くため」(19%)「やりたい事を見つける」(18%)という順になり多少の順位の入替わりはあるもののそれぞれの割合に大きな変化はなかった。「社会に役立つため」と回答した割合は「9→7→8→7→8→5%」と推移し、この6年間で最も低い割合となった。

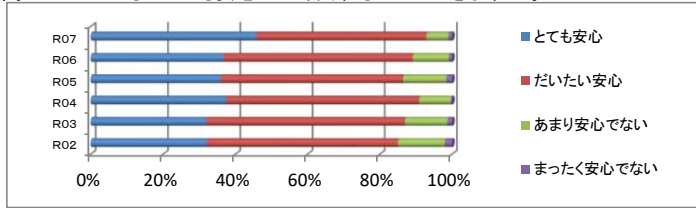
6 地域に関すること

問32 自分の住んでいるまちは好きですか。



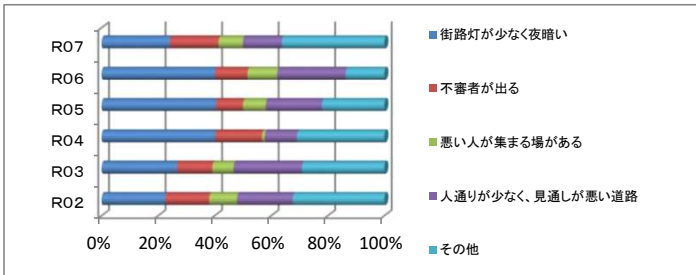
自分の住んでいるまちを「好き」「どちらかといえば好き」と回答した割合の合計は、[90→92→93→94→92→94%]と推移しており、令和2年度以降90%以上をキープしている。その中でも「好き」と回答した割合が今年度も58%おり、昨年度より2ポイント減少したものの高い割合を維持している。子どもたちの自分が住んでいるまちへの満足度が非常に高い状態が続いていることがわかる。

問33 いつでもどこでも安心して外出することができますか。



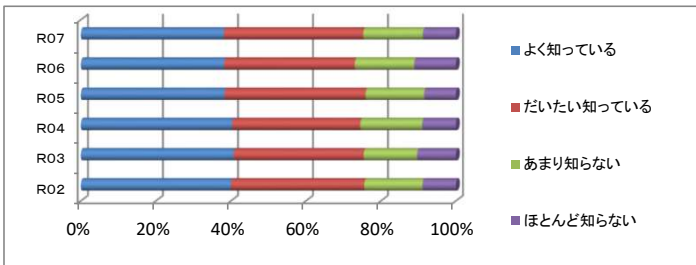
「安心して外出することができますか」という問いに対して「とても安心」「だいたい安心」と回答した割合は、[83→86→90→86→89→94%]と推移し、今年度この6年間で最も高い割合となった。一方「まったく安心でない」「あまり安心でない」と感じている子どもの割合は令和2年度の13%から6%へと減少した。コロナ感染症の恐怖から解放され、行動範囲の広がりや夜間外出の機会も増えているにもかかわらず、安心して外出している子どもが多いことがわかる。

問34 安心して外出することができない理由の一番はなんですか。



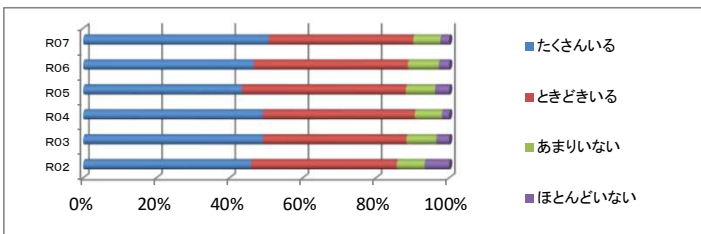
安心して外出できない理由として最も多かった理由は「街路灯が少なく夜暗い」で、その割合の推移は[22→26→40→40→39→24%]となっている。夜間の外出が増えたコロナ禍明けの令和4年度40%前後と高い割合になっていたが、今年度は24%と大きく減少している。昨年度大きく割合を増やした「人通りが少なく見通しが悪い道路」と回答した割合も昨年度の24%から14%へと大きく割合を減らしている。

問35 隣に住んでいる人を知っていますか。



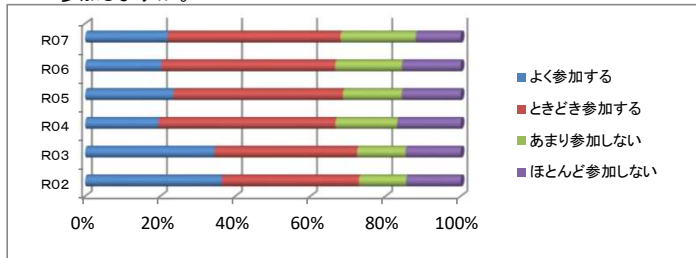
隣に住んでいる人を「よく知っている」「だいたい知っている」と回答した割合は、[75→75→74→76→73→75%]で推移し、多少の増減はあるものの多くの子どもたちは隣に住んでいる人と何らかの関わりを持っていることがわかる。一方「ほとんど知らない」と回答した割合の推移は[9→10→9→9→11→9%]となっており、毎年1割程度いることがわかる。近所とのかかわりが少ない新興住宅街やマンションなどに居住している子どもを中心に、あいさつ運動や地域行事などを通して近隣の人たちとのふれあいを大切にしていきたい。

問36 あなたにいつも「おはよう」「こんにちは」などと声をかけてくれる人はいますか。



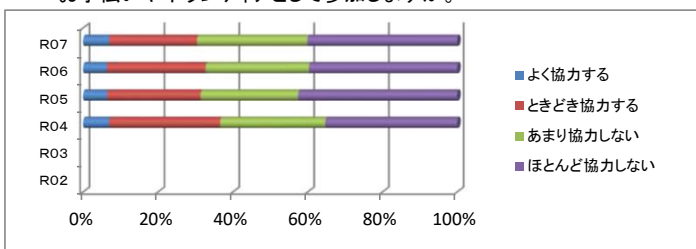
声をかけてくれる人がいるかという問いに対して、「たくさんいる」と回答した割合は[48→45→49→43→46→51%]と推移し、今年度は昨年度と比べて5ポイントほど増えた。「とくとききいる」と回答した割合を加えるとおよそ85～90%の子どもたちが、地域の人に何らかの声かけをしてもらっていることがわかる一方「あまりいない」「ほとんどいない」と回答した割合は、今年度も10%程度いたので、今後も学校・地域を中心にあいさつ運動などを積極的に進め、子どもたちの地域の方々との関係性を高めていきたい。

問37 地域で行われている行事(盆踊り・お祭り・清掃活動・防災訓練など)に参加しますか。



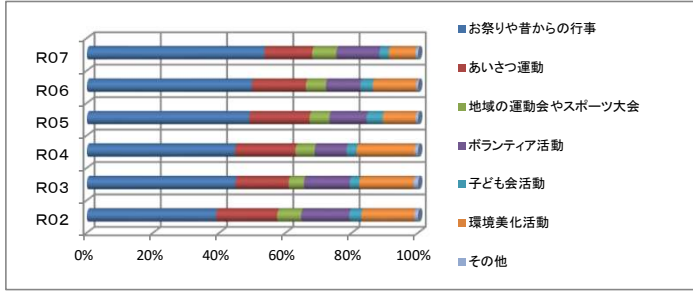
地域で行われる行事に「よく参加する」「とくときき参加する」と回答した割合の合計は、[72→72→67→69→67→68%]と推移し、コロナ禍が明けてもなかなか増加傾向に転じていかなかった。令和2年の調査では「よく参加する」と回答した割合が36%いたのが、今年度は昨年度の20%からわずかに増加したものの22%にとどまっている。一方「ほとんど参加しない」と回答した割合は、この6年で17%と最も多かった令和4年度と比べると12%に減少している。

問38 地域で行われている行事(盆踊り・お祭り・清掃活動・防災訓練など)にお手伝いやボランティアとして参加しますか。



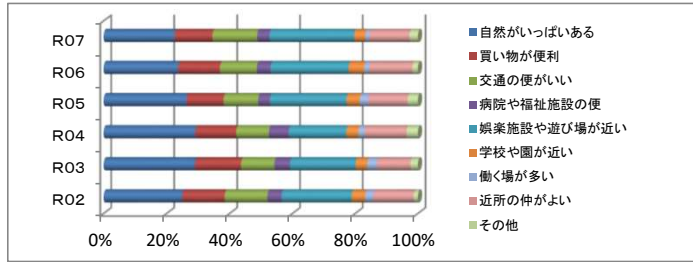
地域行事にお手伝いやボランティアとして「よく協力する」「時々協力する」を合わせた割合は[36→31→33→30%]と推移し、令和4年度に新しく設問に加えて以降最も低い割合となった。多くの地域行事がコロナ禍前と同じように行われ、ボランティア活動も再開したにもかかわらず、お手伝いやボランティアとして参加する子どもがなかなか増えていかない状況が続いている。

問39 地域をよくするために、一番大切にしたい活動はなんですか。



地域をよくするために大切にしたい活動として、「お祭りや昔からの行事」と回答した割合が[39→45→44→49→49→54%]と毎年最も高く、各地域のお祭りや盆踊りが賑わっていたことからその重要性がうかがえる。2番目以降は毎年多少の入れ替わりはあるものの、「あいさつ運動」「ボランティア活動」「環境美化活動」と回答する割合が高く、実際に子どもたちが参加したり、何らかの形で関わったりしているものが多かった。

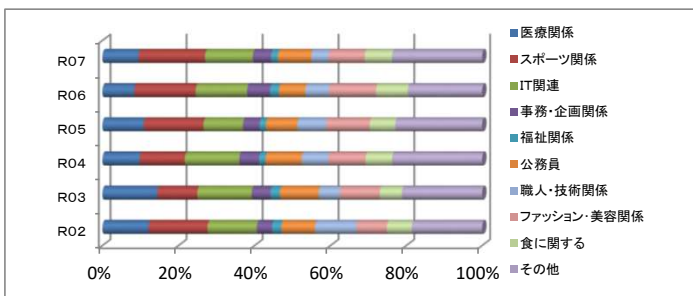
問40 あなたは、どんなところに一番住みたいですか。



「どんなところに住みたいか」という問いに対して一番多かったのは「娯楽施設や遊び場が近い」で、その割合は[22→21→18→24→25→27%]と推移している。一昨年まで最も多かった「自然がいっぱいあるところ」と回答した割合は23%となっており減少傾向にある。3番目以降は「交通の便がいい」(14%)「近所の仲がよい」(13%)「買い物が便利」(12%)の順になっており、この6年間で多少の順位の入替わりはあるものの、その割合に大きな変化はなかった。

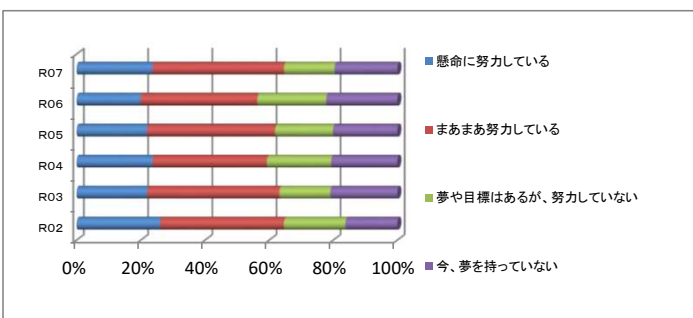
7 将来に関すること

問41 将来、一番つきたいと思っている仕事はなんですか。



将来つきたいと思っている職業は毎年僅差で上位の入替わりがあるが、今年度も「スポーツ関係」と回答した割合が18%と最も高かった。2番目に多かったのは、「IT関係」が13%、3番目の「ファッション・美容関係」と「医療関係」がともに9%だった。今年度は昨年度と大きな変化は見られなかったが、世の中の動きや流行などによって、子どもたちが将来就きたいと思う職業の傾向が変化している。また、「その他」と回答した割合が昨年度の19%から24%に増え、より具体的に就きたい仕事について考えている子どもも多い。

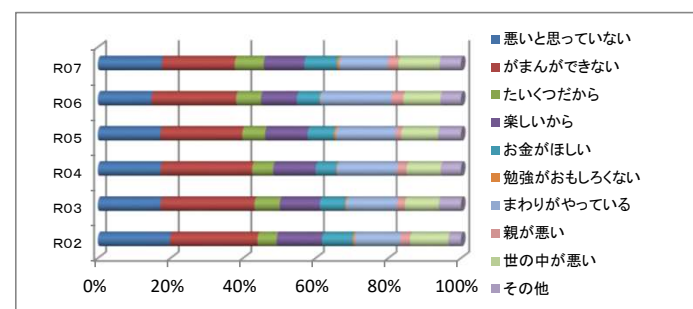
問42 あなたは将来の夢や目標のために、今、努力していますか。



「懸命に努力している」「まあまあ努力している」を合わせた割合の推移は[64→63→59→62→56→65%]となっており、大きく減少した昨年度より9ポイント増加している。「今、夢を持っていない」と回答した割合の推移は[16→21→21→20→22→20%]となっており、毎年2割程度の子どもたちがなかなか夢を持っていないことがわかる。努力するためには具体的な夢や目標が必要なので、自分の将来について考えるキャリア教育の充実を図ることも大切だと考えられる。

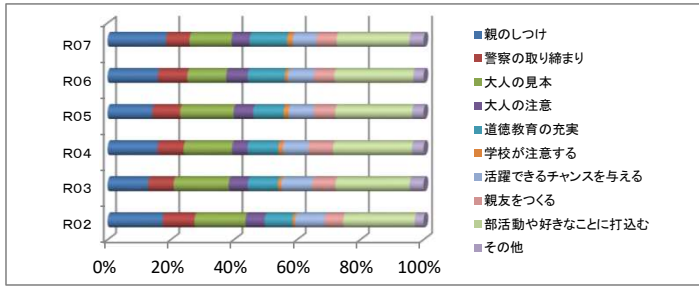
8 少年非行や社会認識に関すること

問43 万引き、タバコ、シンナー、危険ドラッグ、薬物などの悪いこと(非行)をする一番の理由はなんだと思いますか。



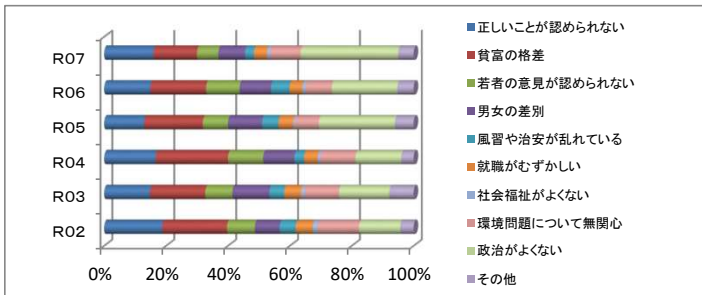
悪いことをする理由として、毎年一番多いのは「がまんができない」と回答した割合だが、今年度はこの6年間で最も低い20%となっている。次に多かった「悪いと思っていない」と回答した割合は18%で、昨年度2番目だった「まわりがやっている」からの12%を6ポイント上回った。一方「親が悪い」「世の中が悪い」と本人以外に問題があると答えた割合の合計はそれほど多くない11~14%の間で推移し、子どもたちは悪いことをする理由を親や社会のせいではなく、本人自身の問題として捉える傾向がある。

問44 悪いことをしないようにするために、一番大切なことはなんでしょうか。



悪いことをしないようにするために大切なこととして「部活動や好きなことに打ち込む」と回答した割合が最も高く23%だった。今年度も2番目に多かったのは「親のしつけ」の19%で昨年度より3ポイント増えている。「大人の見本」は13%で3番目になっている。悪いことをしないためには、生きがいや夢中になれるものを見つけるのと同時に親や周りの大人の協力も必要だと考えていることがわかる。意外と多かったのが「道徳教育の充実」と回答した割合で[9→9→10→10→12→12%]と推移している。近年の社会全体のモラルの低下を問題視し、道徳教育の必要性を感じている子どももいることがわかる。

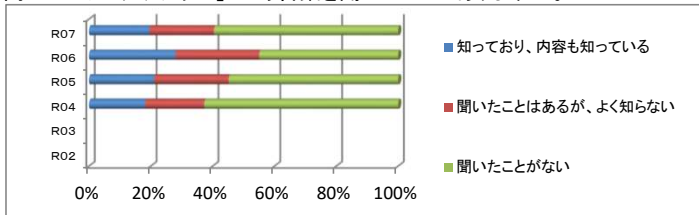
問45 日本の社会をみて、あなたが一番の問題だと思うことはどんなことですか。



日本の社会で問題だと思うこととして、年度によって多少の順位変動はあるものの、「政治が良くない」「正しいことが認められない」「貧富の格差」と回答する割合が高い。その中で今年度最も割合が高かったのは「政治がよくない」で、その推移は[13→16→15→25→21→32%]となっており、令和2年度から19ポイントも増加している。「貧富の格差」「正しいことが認められない」「男女の差別」と回答した割合は大きな変化は見られなかった。テレビや新聞・ネットなどのメディアや世論の影響が毎年調査結果に影響していると考えられる。

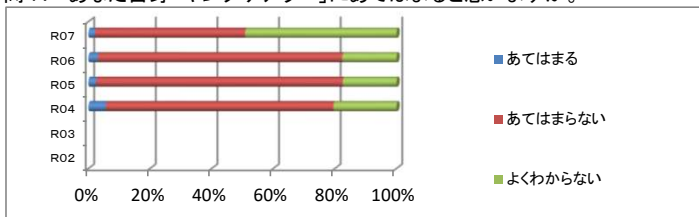
9 ヤングケアラーに関すること

問46 「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがありますか。



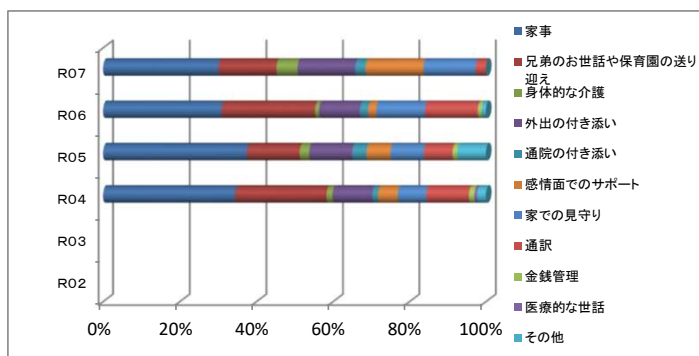
ヤングケアラーという言葉を知ったことがあるかについて、「知り、内容も知っている」と回答した割合は[18→21→28→20%]と推移し、昨年度と比べると8ポイント減少している。逆に「聞いたことがない」と回答した割合は[62→54→45→60%]と今年度増加に転じ、昨年度より認知度が下がっている。これは最近一時期のようにヤングケアラーのことについてマスメディアなどがあまり取り上げなくなったことも影響していると考えられる。

問47 あなた自身「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。



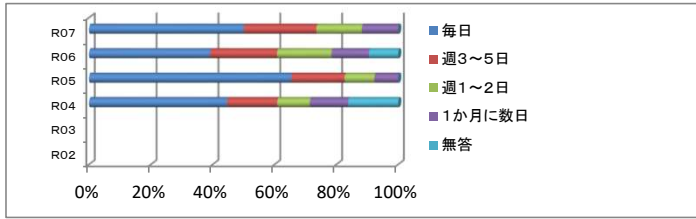
ヤングケアラーにあてはまるかどうかについて、「あてはまる」と回答した割合は[6→3→3→2%]で推移し、昨年度と大きな変化はなかった。「よくわからない」と回答した割合は[20→18→18→49%]と推移し今年度大きく増加した。逆に「あてはまらない」と回答した割合は[72→80→79→49%]と推移し今年度大きく減少した。ヤングケアラーについての認知度の低下が、「よくわからない」と回答した割合を押し上げていると考えられる。

問48 行っているお世話の内容



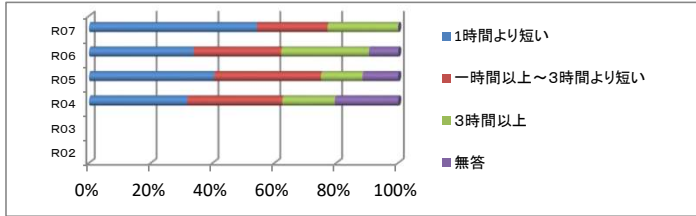
行っているお世話の内容として一番多かったのは、昨年同様「家事」の30%で、次いで同じ15%の割合の「兄弟のお世話や保育園の送り迎え」「外出の付き添い」「感情面でのサポート」と続いた。昨年度3番目に多かった「通訳」は、5番目となり割合も昨年度の23%から3%へと大きく減少した。このことから今年度アンケート実施者にヤングケアラーに該当する外国籍の子どもが少なかったことが想像できる。

問49 お世話をしている日数



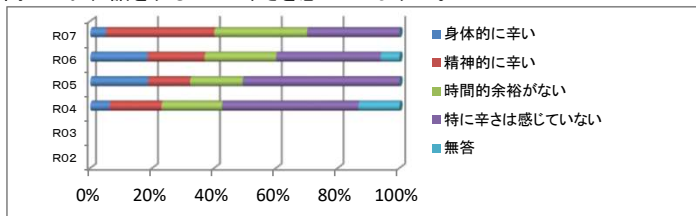
お世話をしている日数について、「毎日」と回答した割合は[45→65→39→50%]と推移し、昨年度と比べると11ポイント増加した。また、「週3~5日」も2ポイント増加した分、「週1~2日」と回答した割合は3ポイントほど減少した。「週3~5日」と「毎日」お世話している割合を合わせると74%にのぼり、家庭でのヤングケアラーとしての役割が、勉強や学校生活に影響している子どもがいることがわかる。

問50 一日にお世話をしている時間



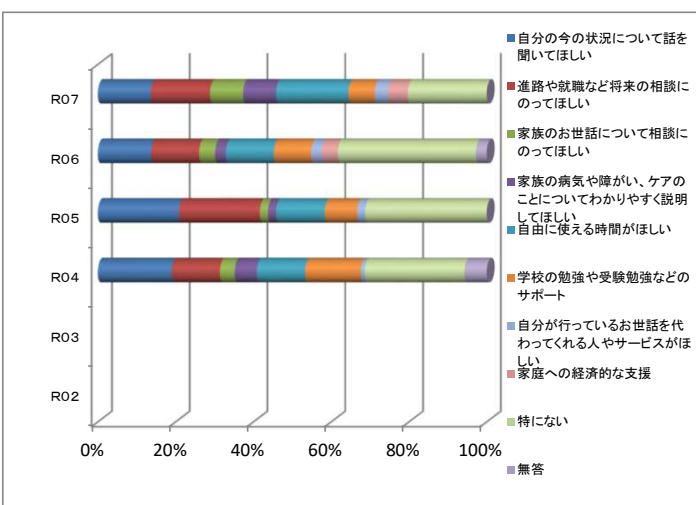
一日にお世話をしている時間について、「3時間以上」と回答した割合は[17→14→28→23%]と推移し、昨年度からわずかではあるが減少している。一方「1時間より短い」は20ポイント昨年度より増加し54%、「1時間から3時間より短い」は5ポイント昨年度より減少し23%となっている。昨年度と比べると全体的にお世話をしている時間は短くなっている。

問51 お世話をすることに辛さを感じていますか。



お世話をすることに辛さを感じているかについて、今年度は「精神的に辛い」が昨年度より14ポイント増加し、35%と最も高かった。昨年度まで割合が一番高かった「特につらさは感じていない」と回答した割合の推移は[44→51→39→30%]となっており、昨年度と比べると9ポイントも減少している。「時間に余裕がない」も昨年度より3ポイントほど増えた30%となっており、お世話することに負担を感じている子どもが増えていることがわかる。一方「身体的に辛い」と回答した割合は昨年度の21%から5%へと大きく減少している。

問52 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。



学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援があるかについて、「自由に使える時間がほしい」「進学や就職など将来の相談にのってほしい」「自分の今の状況について話を聞いてほしい」と回答した割合が昨年度同様に多かった。「学校の勉強や受験勉強などのサポート」と回答した割合は昨年度より6ポイントほど減少した。昨年度46%と割合の高かった「特になし」は20%へ大きく減少した。こういったことから、ヤングケアラーの子どもたちはなかなか声に出すことはできないが、何らかの助けや支援を必要としていることがわかる。

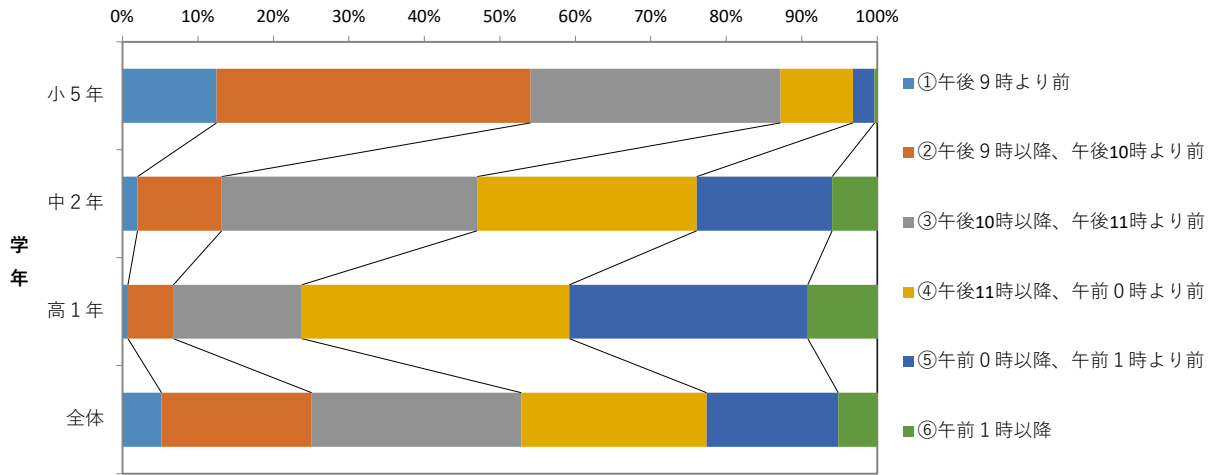
II 調査項目ごとの結果と考察

※考察の割合の数字は分かりやすいよう10分の1の位で四捨五入した整数で表してあります。

※表の数字は100分の1の位で四捨五入してあるため、合計が100%にならないものもあります。

1 家庭生活に関すること

問1 ふだん（月曜日から金曜日）、何時ごろに寝ますか。



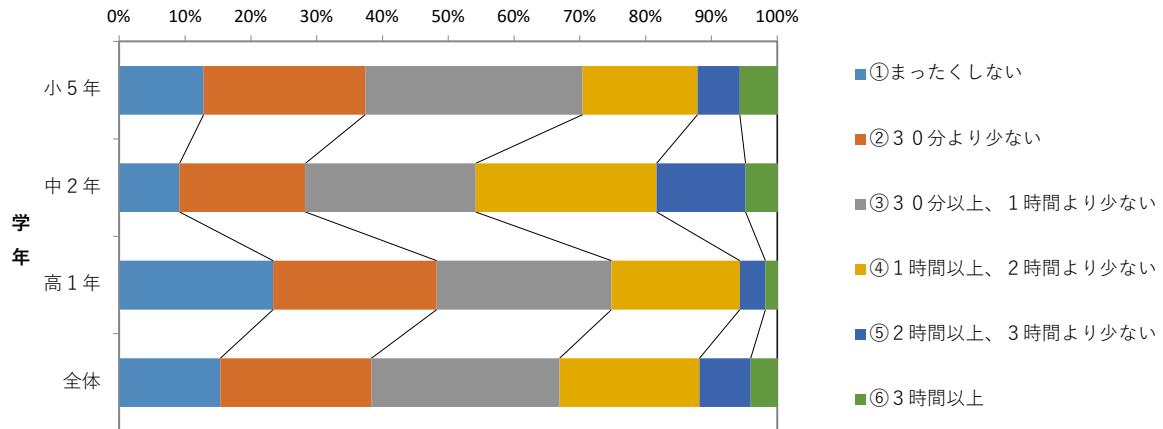
(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
小5年	12.5	41.6	33.1	9.6	2.8	0.4	100.0
中2年	2.0	11.2	33.9	29.1	17.9	6.0	100.0
高1年	0.7	6.0	17.0	35.5	31.6	9.2	100.0
全体	5.2	19.9	27.8	24.6	17.4	5.2	100.0

就寝時刻は、小5年は「午後11時より前」と回答した割合が87%（昨年90%）いるのに対し、中2年は47%（昨年40%）、高1年はわずか24%（昨年23%）しかいない。「午前0時以降」に就寝すると回答した割合は、小5年3%（昨年4%）、中2年24%（昨年7%）、高1年41%（昨年44%）となっており、昨年度と比べると全ての学年でわずかではあるが減少している。男女別にみると、中2年、高1年は女子の就寝時刻が遅く、特に高1年では「午前0時以降」に寝る割合が、男子の35%に対して女子は49%と全体の約半数にのぼる。睡眠不足は日常生活や学習活動にも悪影響を及ぼすので改善を図る必要がある。

問2 学校の授業時間以外に、ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらい勉強していますか。

（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。）

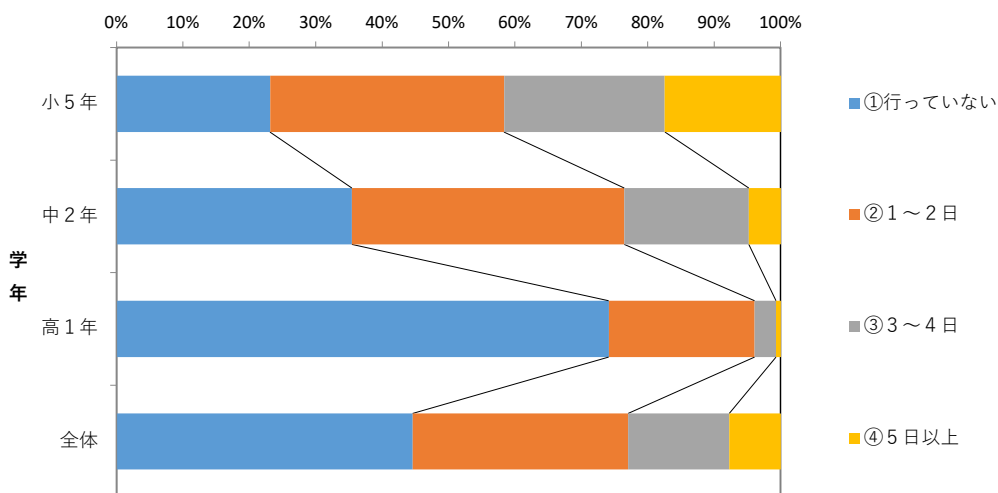


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
小5年	12.8	24.6	33.1	17.4	6.4	5.7	100.0
中2年	9.2	19.1	25.9	27.5	13.5	4.8	100.0
高1年	23.4	24.8	26.6	19.5	3.9	1.8	100.0
全体	15.4	23.0	28.6	21.3	7.7	4.1	100.0

1日あたりの勉強時間で「まったくしない」「30分より少ない」と答えた割合の合計は、小5年37%（昨年35%）、中2年28%（昨年30%）、高1年48%（昨年49%）で、小5年がわずかではあるが昨年度より増えている。これに「30分以上、1時間より少ない」割合を加えると、小5年は71%（昨年67%）、中2年は54%（昨年53%）、高1年は75%（昨年77%）となった。このような学校の授業以外ではあまり勉強をしていない実態から基礎学力の定着が心配される。「3時間以上」学習していると回答した割合は、小5年6%（昨年4%）、中2年5%（昨年同様）、高1年2%（昨年1%）とほんのわずかしかなかった。

問3 1週間に何日くらい塾（学習・習い事など）へ行っていますか。

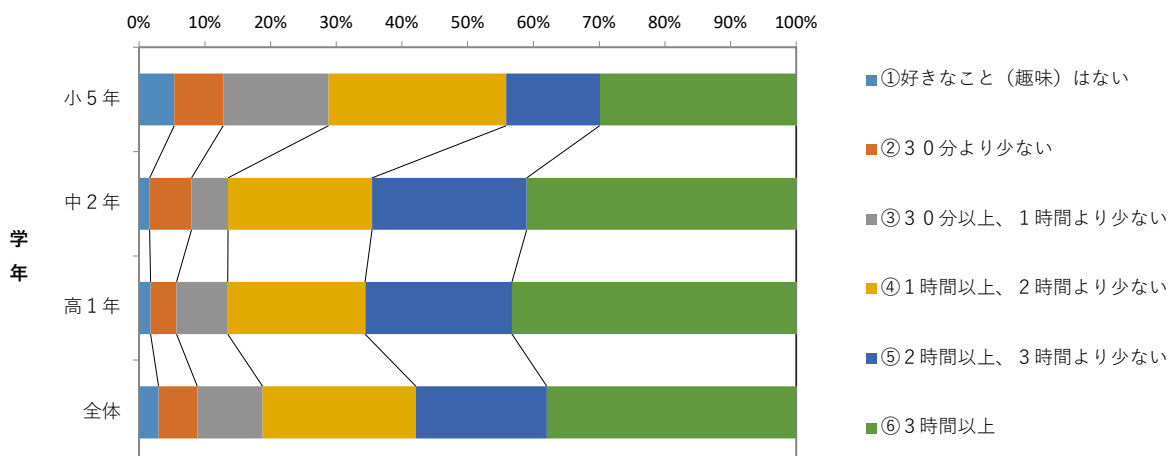


(単位：%)

	①	②	③	④	合計
小5年	23.1	35.2	24.2	17.4	100.0
中2年	35.5	41.0	18.7	4.8	100.0
高1年	74.1	22.0	3.2	0.7	100.0
全体	44.6	32.4	15.2	7.7	100.0

塾や習い事に1日でも通っていると回答した割合は、小5年77%（昨年68%）、中2年65%（昨年同様）、高1年26%（昨年21%）となっている。今年度は小5年が9ポイント、高1年が5ポイント昨年より増加している。その中で週3日以上塾や習い事に行っているのは、小5年42%（昨年33%）、中2年24%（昨年26%）、高1年4%（昨年3%）で、小学生の割合が昨年度と比べると9ポイント増えている。また、週3日以上塾や習い事に通っている割合を男女別で見ると、男子の51%に対して女子は60%と9ポイントほど高くなっている。

問4 ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらい家で好きなこと（趣味）をする時間がありますか。

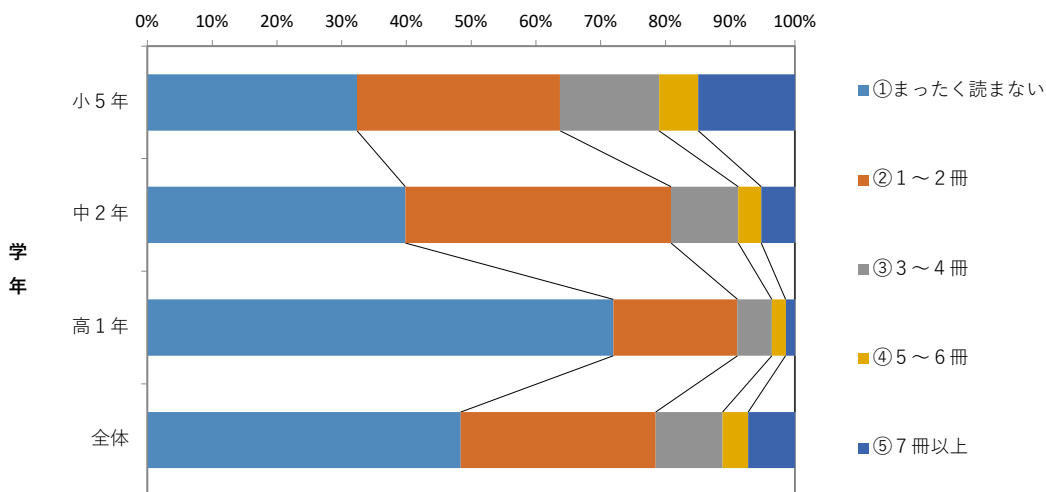


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
小5年	5.3	7.5	16.0	27.0	14.2	29.9	100.0
中2年	1.6	6.4	5.6	21.9	23.5	41.0	100.0
高1年	1.8	3.9	7.8	20.9	22.3	43.3	100.0
全体	2.9	5.9	10.0	23.3	19.9	38.0	100.0

家で好きなことをする時間が「1時間以上ある」と回答した割合は、小5年71%（昨年78%）、中2年86%（昨年90%）、高1年87%（昨年同様）となっており、小5年と中2年で昨年度よりわずかに減少したものの高い割合を維持しており、子どもたちが比較的余裕のある生活ができていていることがわかる。一方学校生活や日常生活が充実してきたためか「3時間以上」と回答した割合は、小5年30%（昨年32%）、中2年41%（昨年50%）、高1年43%（昨年45%）と昨年度よりどの学年においても減少している。また、全体からすると3%とほんのわずかではあるが、「好きなこと（趣味）はない」と回答した子どもたちがいることを理解しておく必要がある。

問5 1か月に平均で何冊ぐらいの本（漫画や雑誌類を除く）を読みますか。

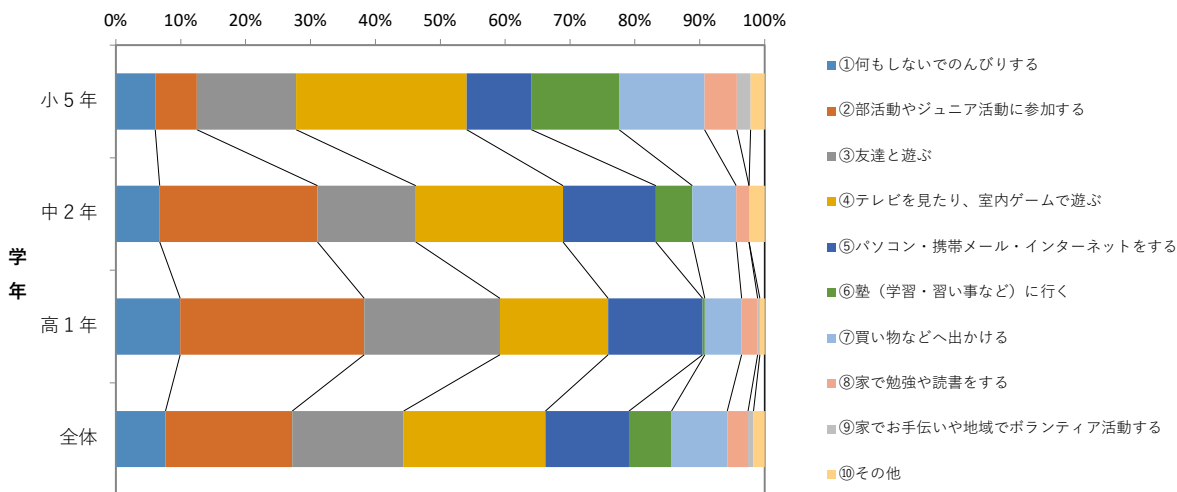


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	合計
小5年	32.4	31.3	15.3	6.0	14.9	100.0
中2年	39.8	41.0	10.4	3.6	5.2	100.0
高1年	72.0	19.1	5.3	2.1	1.4	100.0
全体	48.4	30.1	10.3	3.9	7.2	100.0

本を「まったく読まない」と回答した割合は、小5年32%（昨年33%）、中2年40%（昨年47%）、高1年72%（昨年69%）となっており、学年が上がるにつれ本を読まない割合が増えている。今年度は、本を「まったく読まない」割合が昨年度より小5年、中2年では減っているが、高1年では増えている。男女別で見ると、小5年男子35%：女子30%、中2年男子47%：女子33%、高1年男子73%：女子71%と、いずれの学年も女子より男子の方が本を読まない割合が高い。「5冊以上」と回答した割合は小5年で21%、中2年で9%、高1年に至ってはわずか4%となっており、たくさん本を読む子どもは年々減っている。読書は会話力、文章力、集中力、語彙力、知識が身につくだけでなく、視野を広げ感受性も豊かにするので、読書教育や啓発活動、環境整備に力を入れ、読書離れに歯止めをかけていきたい。

問6 休みの日の過ごし方で、一番多いものはどれですか。



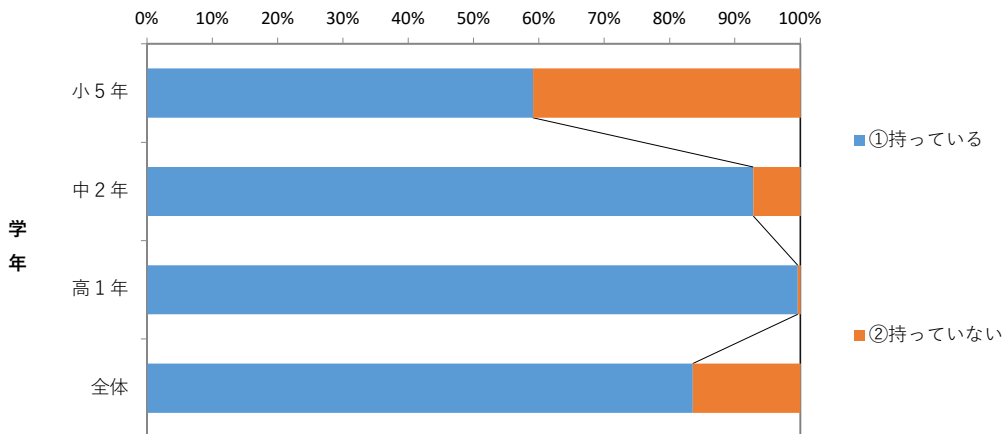
(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計
小5年	6.0	6.4	15.3	26.3	10.0	13.5	13.2	5.0	2.1	2.1	100.0
中2年	6.8	24.3	15.1	22.7	14.3	5.6	6.8	2.0	0.0	2.4	100.0
高1年	9.9	28.4	20.9	16.7	14.5	0.4	5.7	2.5	0.4	0.7	100.0
全体	7.6	19.5	17.2	21.9	12.9	6.5	8.6	3.2	0.9	1.7	100.0

休みの日の過ごし方で22%（昨年29%）と全体の中で最も多かったのは「テレビを見たり、室内ゲームで遊ぶ」と回答した割合だったが、学年別で見ると小5年が26%（昨年40%）、中2年が23%（昨年26%）、高1年が17%（昨年21%）となっており、特に小5年での減少幅が大きかった。2番目に高かった「部活やジュニア活動に参加する」と回答した割合は全体で20%（昨年16%）で、学年別では中2年が24%（昨年15%）、高1年が年28%（昨年27%）となっており、小5年の6%（昨年同様）と大きな差があった。「パソコン・携帯メール・インターネットをする」も昨年度の17%から13%へ減少し、「部活動やジュニア活動に参加する」が16%から20%、「買い物などへ出かける」が5%から9%へ増加するなど、家の外で過ごす時間が増えている。

2 スマートフォンに関すること

問7 自分専用のスマートフォンを持っていますか。

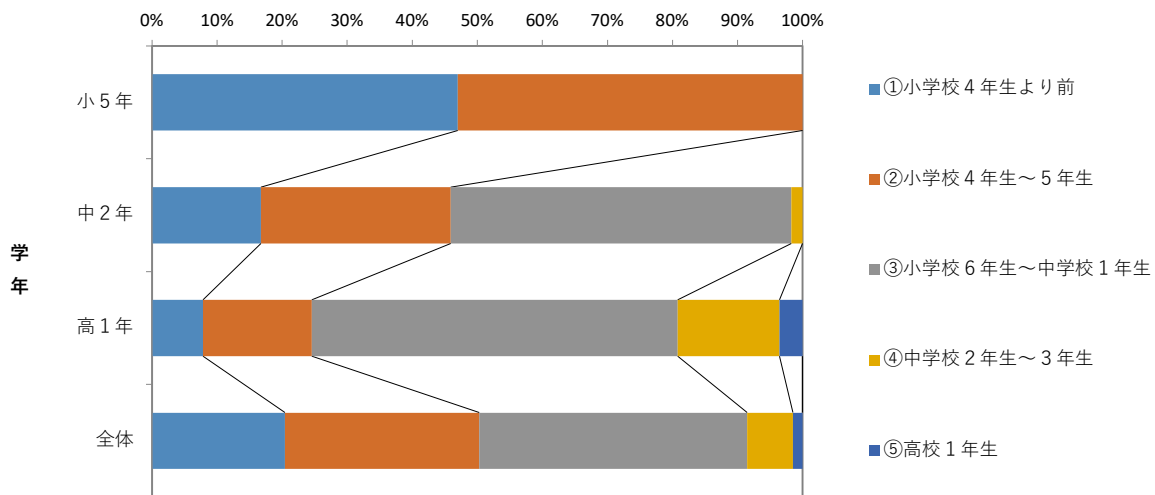


(単位: %)

	①	②	合計
小5年	59.1	40.9	100.0
中2年	92.8	7.2	100.0
高1年	99.6	0.4	100.0
全体	83.5	16.5	100.0

スマートフォンの所持率は、全体で84% (昨年82%) で、昨年度より2ポイント増加している。学年別で見ても小5年59% (昨年53%)、中2年93% (昨年同様)、高1年100% (昨年99%) となっており、特に今年是小5年の所持率が上がっている。男女別に見ると、小5年男子57% (昨年47%)、小5年女子61% (昨年58%)、中2年男子91% (昨年92%)、中2年女子95% (昨年93%)、高1年男子99% (昨年100%)、高1年女子100% (昨年99%) となり、全学年で所持率は女子のほうが高くなっている。スマートフォンを持っていないと回答した人数は、小5年は281名中115名、中2年は251名中18名、高1年は282名中1名だった。

問8 【問7で①を選んだ人】スマートフォンを持ったのは、いつごろからですか。



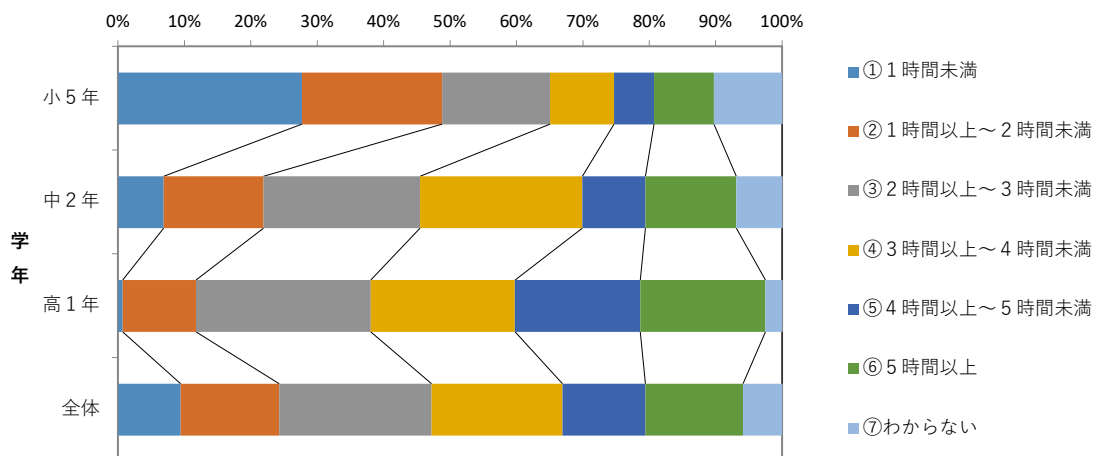
(単位: %)

	①	②	③	④	⑤	合計
小5年	47.0	53.0	0.0	0.0	0.0	100.0
中2年	16.7	29.2	52.4	1.7	0.0	100.0
高1年	7.8	16.7	56.2	15.7	3.6	100.0
全体	20.4	29.9	41.2	7.1	1.5	100.0

スマートフォンを所持した時期は、小5年では「小学校4年生～5年生」と回答した割合が最も高く53% (昨年45%) だった。中2年、高1年は「小学校6年生～中学校1年生の間」と回答した割合がそれぞれ53% (昨年57%)、56% (昨年51%) と最も高かった。小学校4年生より前に所持した割合を見てみると、小5年が47% (昨年54%)、中2年が17% (昨年14%)、高1年が8% (昨年7%) となっており、小5年が最も早くから持ちはじめていることがわかった。スマートフォンは今後生活していくうえで必要不可欠のものとなっているので、持ち始める時期に正しい使い方をしっかりと身に付けさせておく必要がある。

問9 【問7で①を選んだ人】

ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいスマートフォンを使っていますか。

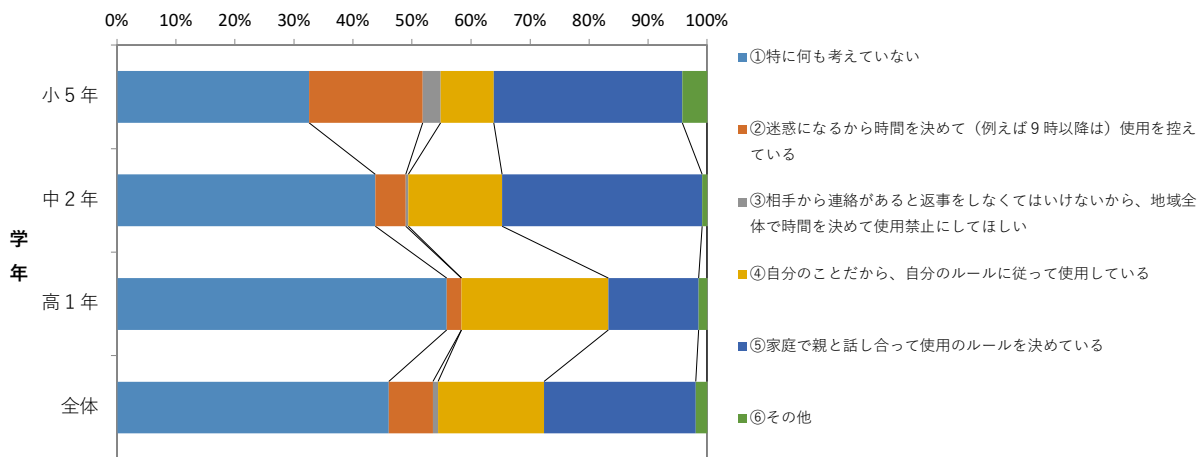


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	合計
小5年	27.7	21.1	16.3	9.6	6.0	9.0	10.2	100.0
中2年	6.9	15.0	23.6	24.5	9.4	13.7	6.9	100.0
高1年	0.7	11.0	26.3	21.7	18.9	18.9	2.5	100.0
全体	9.4	14.9	22.9	19.7	12.5	14.7	5.9	100.0

スマートフォンの使用時間では、「3時間以上」使用すると答えた割合の合計は、小5年25%(昨年21%)[男子27%:女子23%]、中2年は48%(昨年同様)[男子50%:女子46%]、高1年は60%(昨年同様)[男子56%、女子64%]と、小5年は昨年度より長時間使用が増加しているが中2年と高1年に変化はなかった。男女別で見ると小5年と中2年は男子の方が女子より長時間使用者が多いが、高1年では女子の方が多い。また、「5時間以上」使用すると答えたのは、小5年9%(昨年7%)、中2年14%(昨年17%)、高1年19%(昨年14%)となっており、小5年と高1年の長時間使用者が増えている。2時間未満にとどめているのは小5年が49%(昨年44%)、中2年が22%(昨年24%)、高1年についてはわずか12%(昨年15%)しかいなかった。

問10 【問7で①を選んだ人】 スマートフォンなどを夜間に利用することについてどう思いますか。一番当てはまるものを1つだけ選んでください。

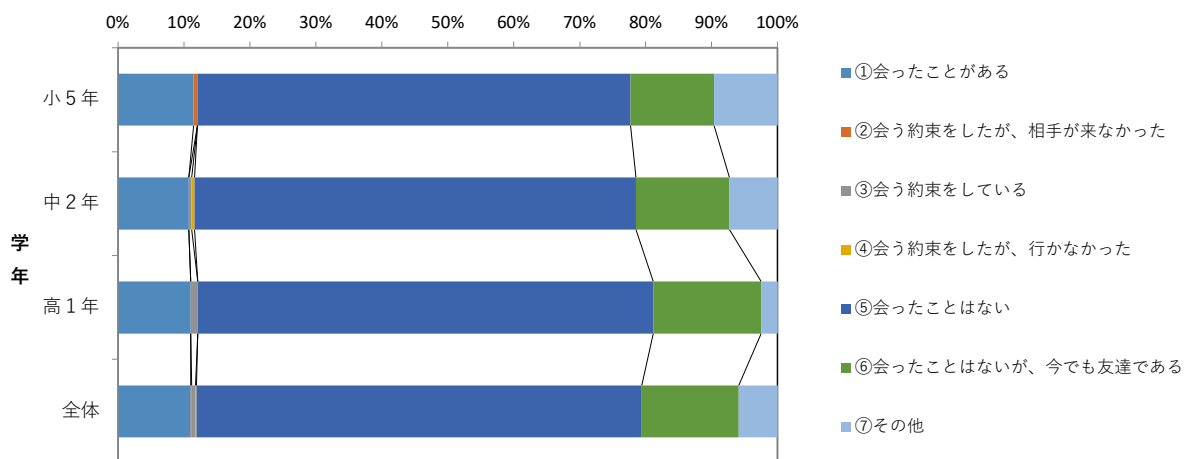


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
小5年	32.5	19.3	3.0	9.0	31.9	4.2	100.0
中2年	43.8	5.2	0.4	15.9	33.9	0.9	100.0
高1年	55.9	2.5	0.0	24.9	15.3	1.4	100.0
全体	46.0	7.5	0.9	17.9	25.7	1.9	100.0

スマートフォンの夜間の利用について「特に何も考えていない」と回答した全体の割合は、46%で昨年度の49%より減っている。学年別にみると、小5年33%(昨年30%)、中2年44%(昨年48%)、高1年56%(昨年60%)となっており、小5年以外は前年度より減少しているが、夜間利用に問題意識を感じていない子どもが多くいることがわかる。主体的に「迷惑になるから時間を決めて使用を控えている」と答えた割合は、小5年19%、中2年5%、高1年3%と中2年・高1年では非常に低くなっている。「家庭で親と話し合って使用のルールを決めている」と回答した割合は小5年・中2年では32～34%程あるが、高1年になるとわずか15%程しかおらず、高校生たちの多くは親との約束事もなく自由にスマホを利用していることがわかる。

問11 【問7で①を選んだ人】スマートフォンで知り合った人と会ったことがありますか。

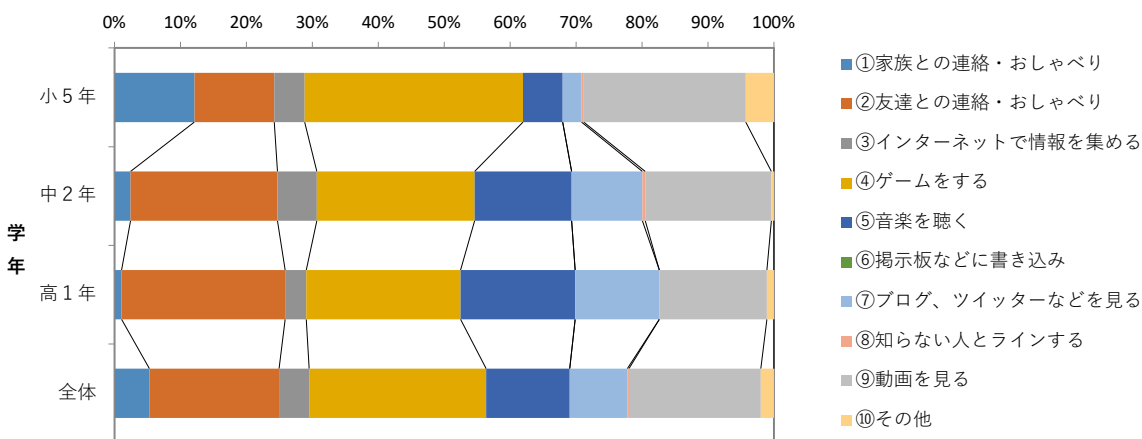


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	合計
小5年	11.4	0.6	0.0	0.0	65.7	12.7	9.6	100.0
中2年	10.7	0.0	0.4	0.4	67.0	14.2	7.3	100.0
高1年	11.0	0.0	1.1	0.0	69.0	16.4	2.5	100.0
全体	11.0	0.1	0.6	0.1	67.5	14.7	5.9	100.0

スマートフォンを通して知り合った人と実際に会ったことがあると回答した割合は、全体で11%（昨年8%）と増加しており、実人数は43名/680名（昨年60名/734名）だった。その割合を学年別でみると、小5年11%[男子14%（昨年6%）、女子9%（昨年同様）]、中2年11%[男子12%（昨年4%）、女子10%（昨年9%）]、高1年11%[男子10%（昨年12%）、女子13%（昨年6%）]となっており、今年度は全学年で増加しており、特に高1年女子の割合が7ポイント増えているのが気になった。SNSを通してトラブルや犯罪に巻き込まれたり、性的被害に遭ったりすることがないように、ネットで知り合った人と安易に会うことがないように、家庭や学校で継続的に指導するとともに、社会全体で被害防止に取り組む必要がある。

問12 インターネットで、一番多く利用していることは何ですか。

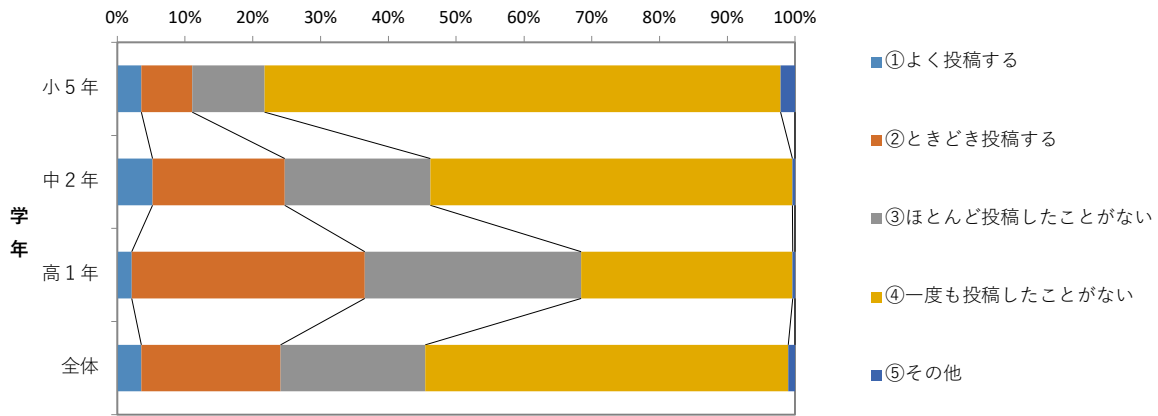


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計
小5年	12.1	12.1	4.6	33.1	6.0	0.0	2.8	0.4	24.6	4.3	100.0
中2年	2.4	22.3	6.0	23.9	14.7	0.0	10.8	0.4	19.1	0.4	100.0
高1年	1.1	24.8	3.2	23.4	17.4	0.0	12.8	0.0	16.3	1.1	100.0
全体	5.3	19.7	4.5	26.9	12.7	0.0	8.7	0.2	20.0	2.0	100.0

インターネットの利用で多かったのは、「ゲームをする」が全体の27%（昨年32%）、「動画を見る」が全体の20%（昨年27%）、「友達との連絡・おしゃべり」が全体の20%（昨年17%）となっており、この3つを合わせた割合だけで全体の67%にもなっている。「ゲームをする」と回答したのは男子が多く、その割合は小5年が49%、中2年が39%、高1年34%となっており、女子の小5年18%、中2年8%、高1年9%と大きな差があった。「動画を見る」と回答したのは女子が23%、男子が17%と女子の方がわずかに多かった。「家族との連絡・おしゃべり」は全体で5%（昨年同様）となっており、趣味や娯楽を楽しむためのツールとして使われていることが多いことがわかる。その他の少数意見として、塾の勉強をする、動画・小説の編集などの記述が見られた。

問13 あなたはインターネットのSNSに自分のプロフィールや写真・動画などを投稿したことがありますか。



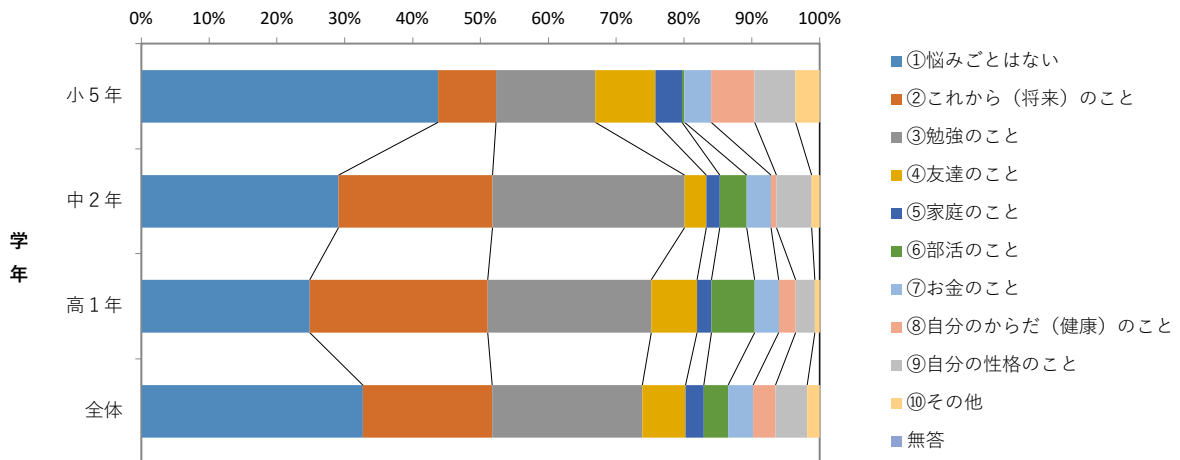
(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	合計
小5年	3.6	7.5	10.7	76.2	2.1	100.0
中2年	5.2	19.5	21.5	53.4	0.4	100.0
高1年	2.1	34.4	31.9	31.2	0.4	100.0
全体	3.6	20.5	21.4	53.6	1.0	100.0

近年インターネットのSNSや動画サイトを介して起こるトラブルやいじめ、誹謗中傷、性被害が後を絶たないことから、3年前からこの設問を加えた。「よく投稿する」「ときどき投稿する」と回答した割合を合わせると、全体で24%（昨年26%）となっており、その内訳を学年・男女別で見ると、小5年は11%（昨年9%）[男子11%：女子11%]、中2年は25%（昨年26%）[男子18%・女子32%]、高1年は37%（昨年42%）[男子26%：女子50%]となっており、学年が上がるにつれ投稿したことがある割合が高くなり、中でも中2年・高1年では女子が男子の割合を大きく上回っている。中2年、高1年の女子で「よく投稿する」「時々投稿する」と回答した実数は99名いるので、SNSの危険性や恐ろしさについて根気強く指導していく必要がある。

3 本人に関すること

問14 今、あなたが一番悩んでいることはどんなことですか。

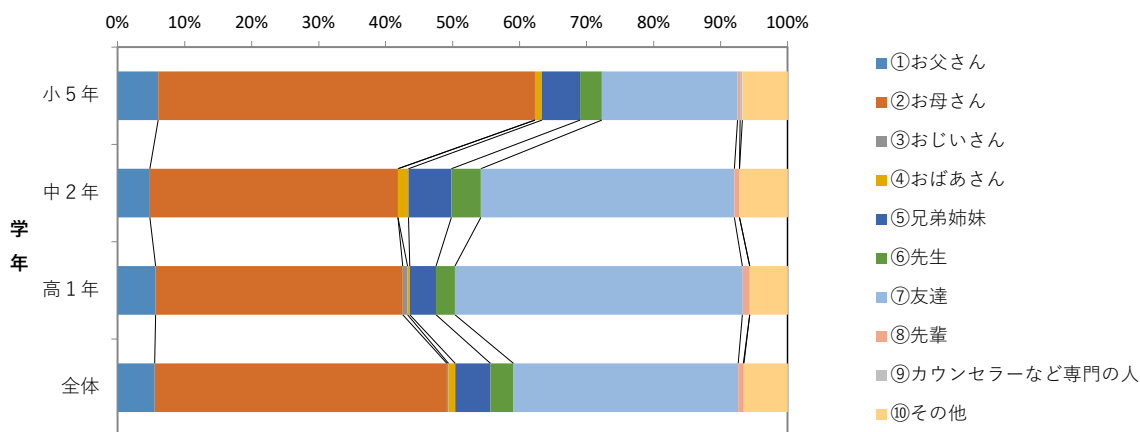


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計
小5年	43.8	8.5	14.6	8.9	3.9	0.4	3.9	6.4	6.0	3.6	100.0
中2年	29.1	22.7	28.3	3.2	2.0	4.0	3.6	0.8	5.2	1.2	100.0
高1年	24.8	26.2	24.1	6.7	2.1	6.4	3.5	2.5	2.8	0.7	100.0
全体	32.7	19.0	22.1	6.4	2.7	3.6	3.7	3.3	4.7	1.8	100.0

「悩みごとはない」と回答したのは、小5年44%（昨年40%）、中2年29%（昨年26%）、高1年25%（昨年33%）と、昨年と比べると小5年と中2年はわずかではあるが増えたが、高1年は8ポイント減少している。悩みごとで多いのはどの学年も「勉強のこと」「将来のこと」で、「勉強のこと」と回答した割合は、小5年15%（昨年同様）、中2年28%（昨年26%）、高1年24%（昨年13%）となっており特に今年度高1年で割合が大きく増加した。「将来のこと」と回答した割合は小5年9%（昨年16%）、中2年23%（昨年20%）、高1年26%（昨年31%）となっており、高1年は、「勉強のこと」と回答した割合が増えた分「将来のこと」と回答した割合が減っている。その他の意見として「自分のからだのこと」や「自分の性格のこと」などの記述が見られた。

問15 悩みごとを一番相談するのはだれですか。

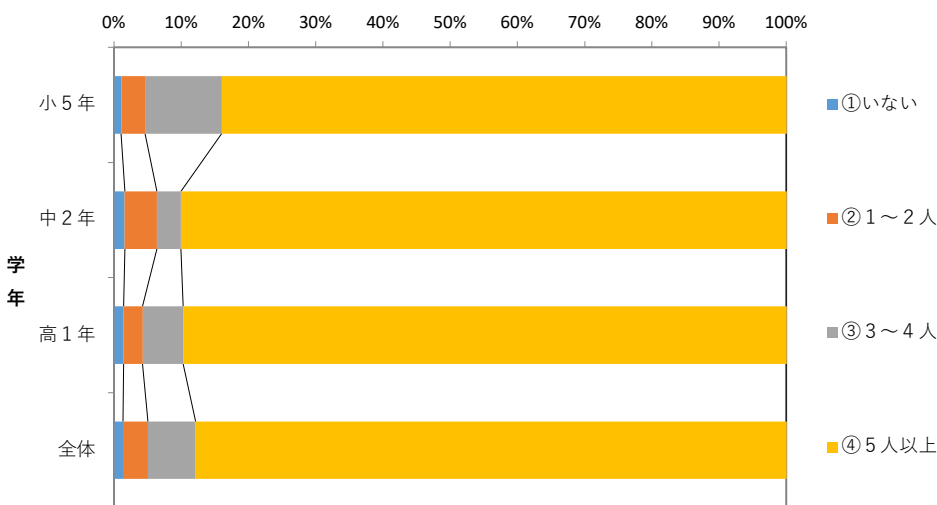


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計
小5年	6.0	56.2	0.0	1.1	5.7	3.2	20.3	0.4	0.4	6.8	100.0
中2年	4.8	37.1	0.0	1.6	6.4	4.4	37.8	0.8	0.0	7.2	100.0
高1年	5.7	36.9	0.7	0.4	3.9	2.8	42.9	1.1	0.0	5.7	100.0
全体	5.5	43.6	0.2	1.0	5.3	3.4	33.5	0.7	0.1	6.5	100.0

「悩み事を相談するのはだれですか」という問いに対して、今年も「お母さん」と答えた割合が全体で44%（昨年47%）と最も高く、次に高かったのが「友達」の34%（昨年31%）だった。学年別にみみると小5年は「お母さん」が56%（昨年60%）で「友達」が20%（昨年18%）、中2年は「お母さん」が37%（昨年同様）で「友達」が38%（昨年41%）、高1年は「お母さん」が37%（昨年42%）で「友達」43%（昨年35%）となっており、今年度「友達」と回答した割合が高1年で増えている。「お父さん」と回答したのは今年度も全体で6%ほどで、父親との会話が母親と比べて少ないことが想像できる。また、「先生」と回答した割合は全体でわずか3%ほどしかなく、子どもたちが先生に悩み事を相談することはほとんどないことがわかる。また、カウンセラーなどに相談する子どもはほとんどいなかった。

問16 友達（顔を見て話ができる）は何人くらいいますか。

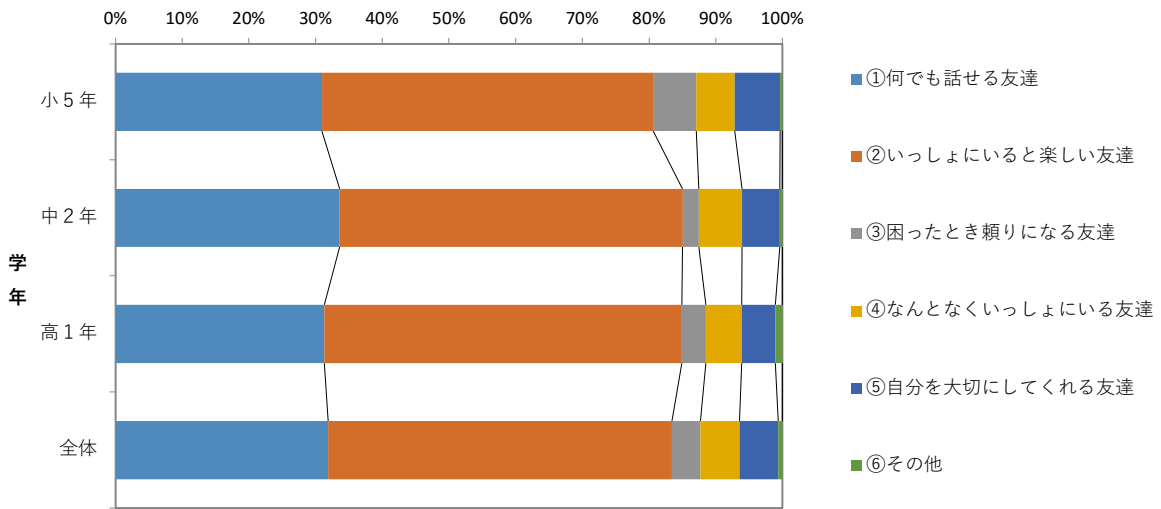


(単位：%)

	①	②	③	④	合計
小5年	1.1	3.6	11.4	84.0	100.0
中2年	1.6	4.8	3.6	90.0	100.0
高1年	1.4	2.8	6.0	89.7	100.0
全体	1.4	3.7	7.1	87.8	100.0

顔を見て話のできる友達が「5人以上」と答えた割合は、全体で88%（昨年83%）、小5年84%（昨年81%）、中2年90%（昨年83%）、高1年90%（昨年85%）となっており、すべての学年で昨年度より増えている。また、これに1人以上いると回答した割合を合わせると99%となり、ほとんどの子どもたちが一緒に遊んだりいろいろな会話をしたりする友達がいることがわかる。しかし、「いない」と回答した子どもが全体の1%[11名]いることを見逃してはならない。友達がいない理由はそれぞれ違うかもしれないが、孤立している子どもを見逃すことなく、適切な支援をしていく必要がある。

問17 【問16で②③④を選んだ人】あなたと友達の関係について、一番当てはまるものはどれですか。

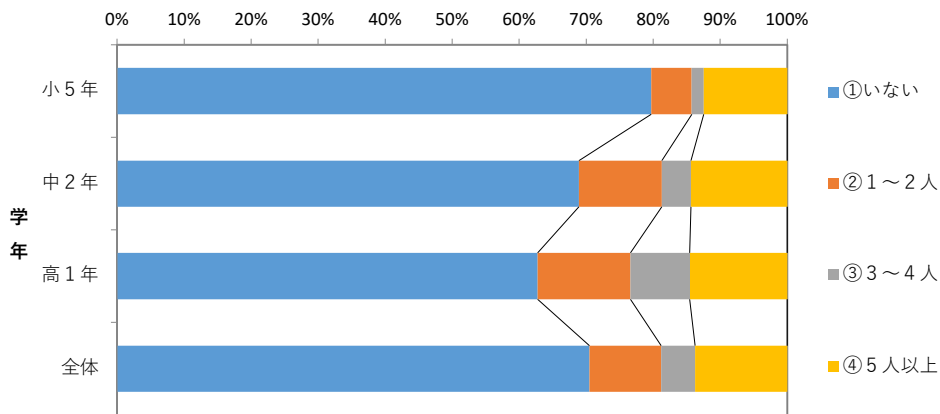


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
小5年	30.9	49.6	6.5	5.8	6.8	0.4	100.0
中2年	33.6	51.4	2.4	6.5	5.7	0.4	100.0
高1年	31.3	53.6	3.6	5.4	5.0	1.1	100.0
全体	31.9	51.6	4.2	5.9	5.9	0.6	100.0

友だちとの関係についてたずねたところ、「いっしょにいると楽しい友達」と答えた割合が全体で52%（昨年53%）と最も高く、次いで「何でも話せる友達」と回答した割合が32%（昨年27%）と高かった。「何でも話せる友達」と回答した割合は小5年は31%（昨年21%）、中2年34%（昨年30%）、高1年は31%（昨年同様）となっており、今年度は小学生の割合が大きく増えたのが目立った。「困ったときに頼りになる友達」は4%（昨年7%）、「自分を大切にしてくれる友達」は6%（昨年5%）と例年と同じように低い割合となった。また、親密な友人関係をそれほど強く求めていないのが「なんとなく一緒にいる」と答えた割合が6%（昨年5%）程いた。

問18 ネット上で知り合った友達は何人くらいいますか。

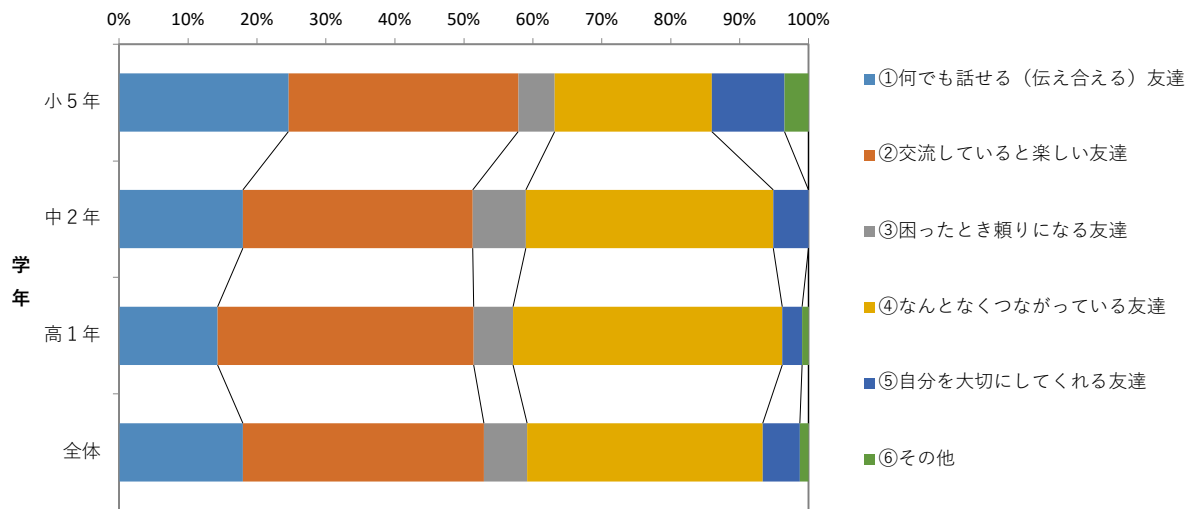


(単位：%)

	①	②	③	④	合計
小5年	79.7	6.0	1.8	12.5	100.0
中2年	68.9	12.4	4.4	14.3	100.0
高1年	62.8	13.8	8.9	14.5	100.0
全体	70.5	10.7	5.0	13.8	100.0

「ネット上で知り合った友達がいない」と答えた割合は全体の71%（昨年66%）で昨年度より5ポイント増えている。「1人以上いる」と答えた割合は、小5年20%（昨年21%）、中2年31%（昨年34%）、高1年37%（昨年36%）となっており、多少の増減はあるものの昨年度と大きな変化はなかった。「1人以上いる」と回答した割合を学年男女別に見てみると、小5年男子24%：女子17%、中2年男子26%：女子36%、高1年が男子33%：女子43%となっており、SNSによる性被害を受けやすい中2年と高1年の女子の割合が男子より10%も高いのが気になった。子どもたちがどのようなアプリを通してどんな人と知り合いになっているかを把握することは難しいので、SNSを使い始める前にSNSの危険や怖さについてしっかりと指導しておくことが重要になってくる。

問19 【問18で②③④を選んだ人】あなたとネット上の友達の関係について、一番当てはまるものはどれですか。

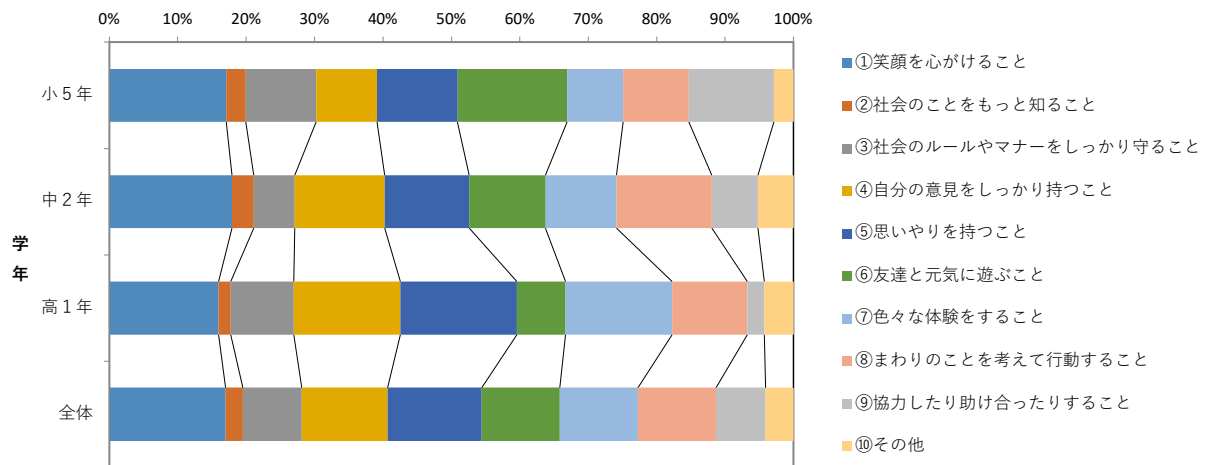


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
小5年	24.6	33.3	5.3	22.8	10.5	3.5	100.0
中2年	17.9	33.3	7.7	35.9	5.1	0.0	100.0
高1年	14.3	37.1	5.7	39.0	2.9	1.0	100.0
全体	17.9	35.0	6.3	34.2	5.4	1.3	100.0

ネット上の友達関係が一番多かったのは、「交流していると楽しい友達」で35%（昨年41%）、次いで「なんとなくつながっている友達」が34%（昨年35%）となっており、「交流していると楽しい友達」と回答した割合は昨年度より6ポイント減っている。また、「なんとなくつながっている」と回答した割合を学年別でみると、小5年のが23%（昨年22%）に対して中2年が36%（昨年34%）、高1年が39%（43%）と、中高生の割合が10ポイント以上高くなっている。一方「なんでも話せる友達」と回答した全体の割合は昨年度の1%から18%に増えており、中でも小5年が10%から25%、高1年が9%から14%と増えている。

問20 今の自分にとって、一番大切なことはなんですか。

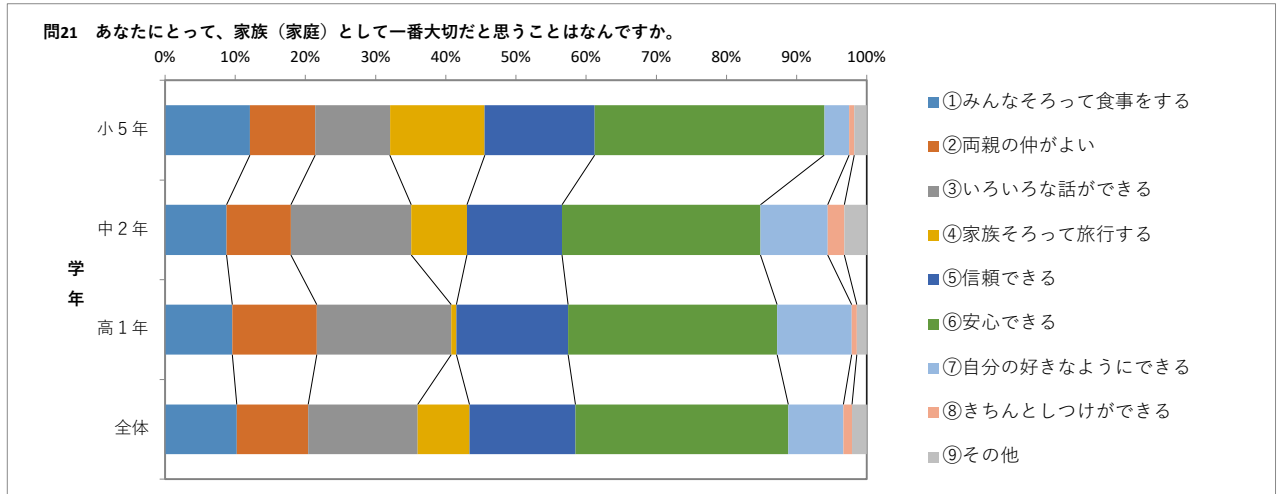


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計
小5年	17.1	2.8	10.3	8.9	11.7	16.0	8.2	9.6	12.5	2.8	100.0
中2年	17.9	3.2	6.0	13.1	12.4	11.2	10.4	13.9	6.8	5.2	100.0
高1年	16.0	1.8	9.2	15.6	17.0	7.1	15.6	11.0	2.5	4.3	100.0
全体	17.0	2.6	8.6	12.5	13.8	11.4	11.4	11.4	7.2	4.1	100.0

今の自分にとって一番大切なこととして全体での割合が高かったのは、「笑顔を心がけること」17%（昨年17%）、「思いやりを持つこと」14%（昨年13%）、「自分の意見をしっかり持つこと」13%（昨年12%）となっており、上位3項目に昨年度からの変化はなかった。大切にしていることは発達段階によって特色があり、小5年が「友達と元気に遊ぶこと」と回答した割合が16%だったのに対して、中2年は11%、高1年は7%と低くなっているが、「自分の意見をしっかり持つこと」と回答した割合は、小5年が9%だったのに対し中2年が13%、高1年が16%とより高まるなど、学年間で大きな差が出る項目がいくつかあった。

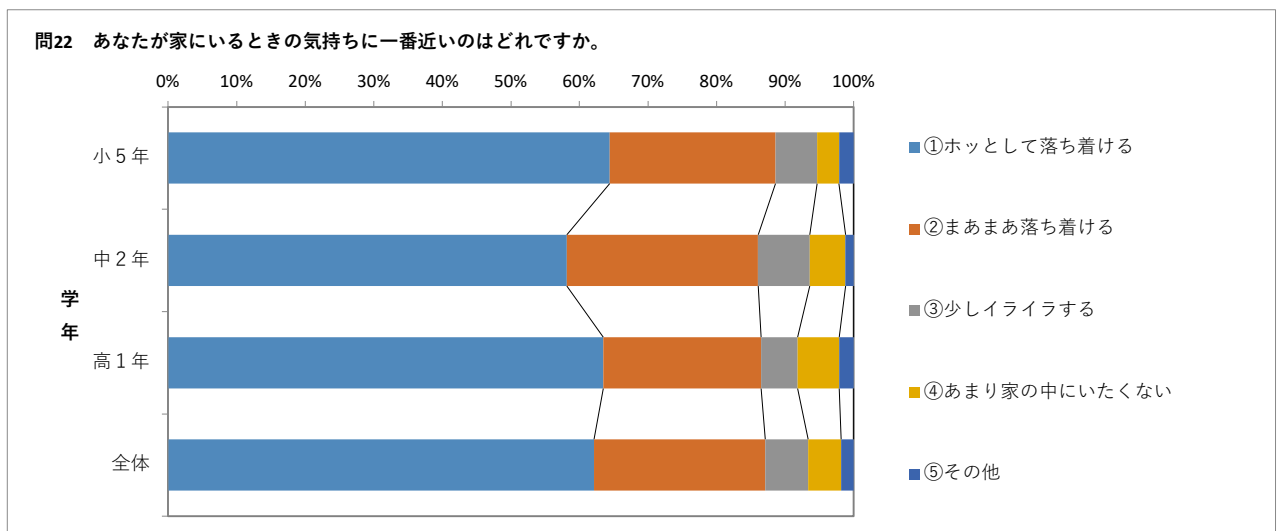
4 家庭・家族に関すること



(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	合計
小5年	12.1	9.3	10.7	13.5	15.7	32.7	3.6	0.7	1.8	100.0
中2年	8.8	9.2	17.1	8.0	13.5	28.3	9.6	2.4	3.2	100.0
高1年	9.6	12.1	19.1	0.7	16.0	29.8	10.6	0.7	1.4	100.0
全体	10.2	10.2	15.6	7.4	15.1	30.3	7.9	1.2	2.1	100.0

家族(家庭)として一番大切なことは何ですかという問いに対して、「安心できる」と答えた割合が30% (昨年32%)と最も多く、2番目に「いろいろな話ができる」が16% (昨年21%)、3番目に「信頼できる」が15% (昨年17%)と続いた。この3つは毎年必ず上位になっており、多くの子どもたちが家庭が安心して過ごせる安らぎの場となることを望んでいることがわかる。4番目に同率で「両親の仲がよい」と「みんなそろって食事をする」が10%となっており、家族の団らの時間が大切だと感じている。「自分の好きなようにできる」と回答した割合が8% (昨年6%)と低かったが、小5年4%、中2年10%、高1年11%と学年が上がるほど高くなった。ほとんどの子どもたちが家庭をどんなことでも受け入れてくれる安らぎの場として考えているが、その他に「家族はいなくていいと思う」「なんとも思わない」という家庭環境や家族関係の改善が必要と思われる記述も見られた。

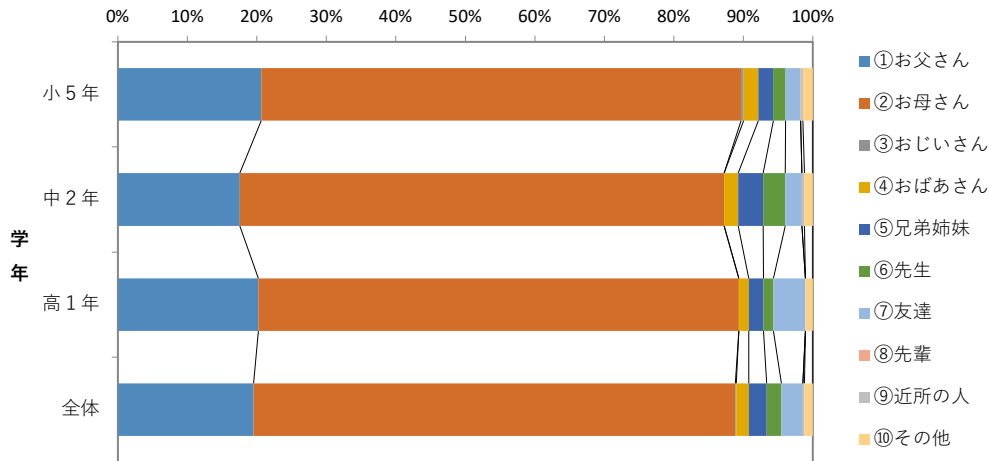


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	合計
小5年	64.4	24.2	6.0	3.2	2.1	100.0
中2年	58.2	27.9	7.6	5.2	1.2	100.0
高1年	63.5	23.0	5.3	6.0	2.1	100.0
全体	62.2	24.9	6.3	4.8	1.8	100.0

家で「ホッと落ち着ける」「まあまあ落ち着ける」と回答した割合は87% (昨年89%)となっており、ほとんどの子どもたちにとって家庭が落ち着ける居心地の良い場所となっていることがわかる。一方、「少しイライラする」「あまり家の中にいたくない」と感じている子どもは全体で11% (昨年10%)ほどおり、学年別の割合も小5年9%、中2年13%、高1年11%と昨年度と同じ割合だった。その中で「あまり家の中にいたくない」と回答した実際の人数は39名で、その子どもたちには、家庭の中で親からの虐待を受けていたり、親子関係が悪かったりすることも考えられる。家庭がすべての子どもたちにとって落ち着ける居場所となるよう、地域や関係機関のサポート体制を今以上に充実させていく必要がある。

問23 あなたの生活や行動を一番注意してくれるのはだれですか。

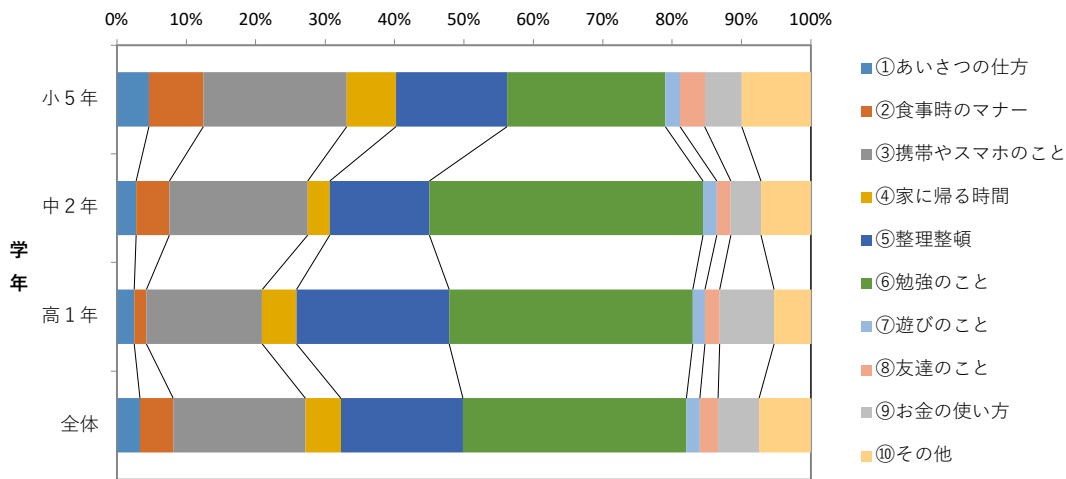


(単位: %)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計
小5年	20.6	69.0	0.4	2.1	2.1	1.8	2.1	0.0	0.4	1.4	100.0
中2年	17.5	69.7	0.0	2.0	3.6	3.2	2.4	0.0	0.4	1.2	100.0
高1年	20.2	69.1	0.0	1.4	2.1	1.4	4.6	0.0	0.0	1.1	100.0
全体	19.5	69.3	0.1	1.8	2.6	2.1	3.1	0.0	0.2	1.2	100.0

注意してくれるのはだれかという問いに対して、「お母さん」と回答した割合が69% (昨年72%)と最も高く、2番目に多かった「お父さん」の20% (昨年18%)と大きな開きがある。これは一緒に過ごす時間が相対的に母親の方が多いためだと考えられる。しかし、「お母さん」「お父さん」を合わせた割合は全体の89% (昨年同様)となり、子どもと最も深くかかわっているのは両親であることに変わりはなく。「おじいさん」「おばあさん」「兄弟姉妹」「先生」「友達」と回答した割合は、多少の増減はあるものの1~3%程度で推移している。核家族化が進み、地域の人間関係も希薄になってきている現代において、子どもの人間形成のために両親が果たす役割はますます大きくなっていくと考えられる。その他には「注意してくれる人はいない」「注意はされない」などの記述があった。

問24 あなたが両親から一番注意を受けることはなんですか。

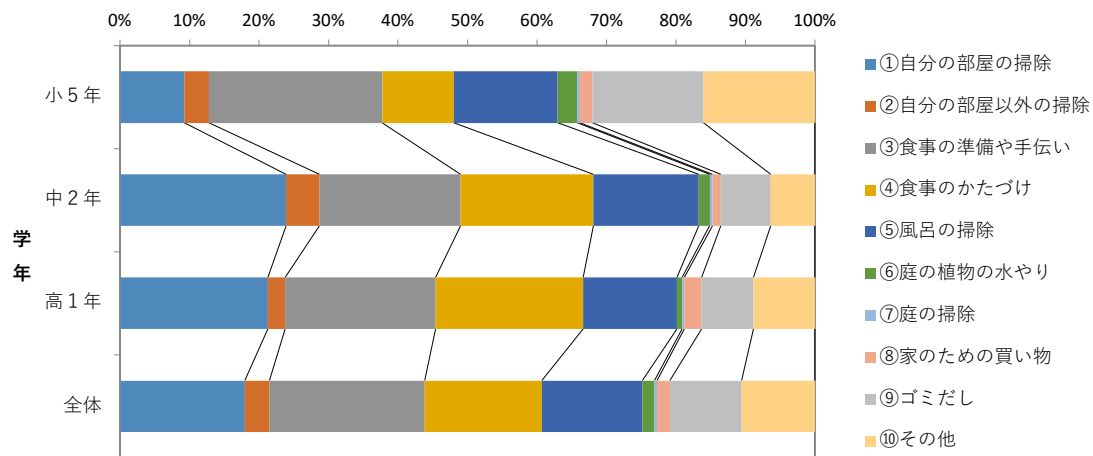


(単位: %)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計
小5年	4.6	7.8	20.6	7.1	16.0	22.8	2.1	3.6	5.3	10.0	100.0
中2年	2.8	4.8	19.9	3.2	14.3	39.4	2.0	2.0	4.4	7.2	100.0
高1年	2.5	1.8	16.7	5.0	22.0	35.1	1.8	2.1	7.8	5.3	100.0
全体	3.3	4.8	19.0	5.2	17.6	32.2	2.0	2.6	5.9	7.5	100.0

両親から一番注意を受けることとしては、今年度も「勉強のこと」と回答した割合が32% (昨年31%)と最も高くなっている。学年別で見ると小5年23% (昨年22%)、中2年39% (昨年35%)、高1年35% (昨年36%)と、中高生の割合が高くなっている。次に多かったのは「携帯やスマホのこと」で、小5年21% (昨年17%)、中2年20% (昨年22%)、高1年17% (昨年同様)という割合になっており、スマホの使い方が家庭の中での問題の一つになっている。三番目に多かったのは「整理整頓」で、全体で18% (昨年22%)おり、その内訳を学年男女別に見てみると小5年男子10%:女子22%、中2年男子13%:女子16%、高1年男子20%:女子25%となっており、「整理整頓」のことで注意されるのはすべての学年で女子の方が多かった。その他として「言葉遣い」「兄弟げんか」「態度・表情」「就寝時間」「時間の使い方」などの記述が複数見られた。

問25 あなたが一番行っているお手伝い(家事)はなんですか。



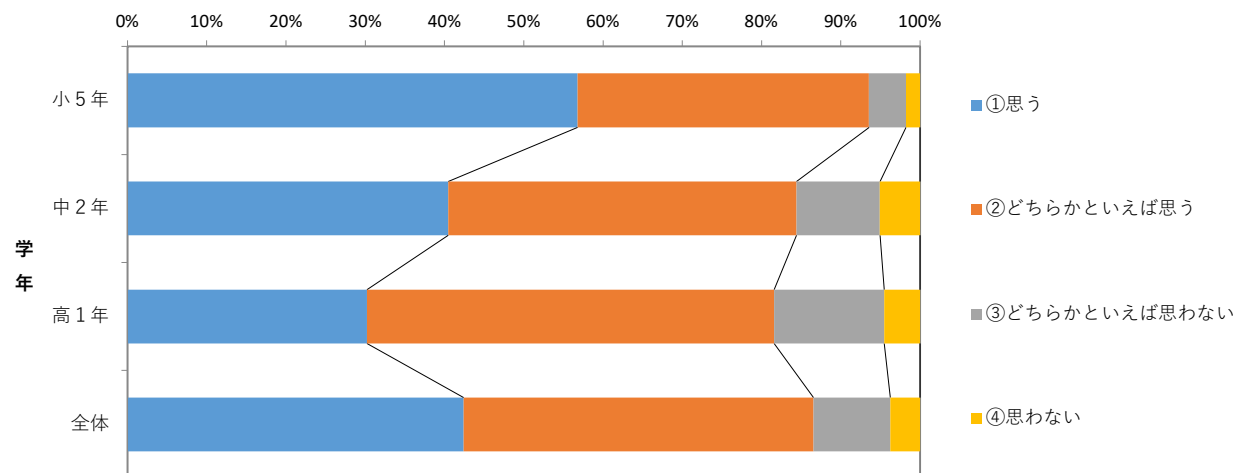
(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計
小5年	9.3	3.6	24.9	10.3	14.9	2.8	0.4	1.8	16.0	16.0	100.0
中2年	23.9	4.8	20.3	19.1	15.1	1.6	0.4	1.2	7.2	6.4	100.0
高1年	21.3	2.5	21.6	21.3	13.5	0.7	0.4	2.5	7.4	8.9	100.0
全体	17.9	3.6	22.4	16.8	14.5	1.7	0.4	1.8	10.3	10.6	100.0

一番行っている手伝い(家事)は、「食事の準備や手伝い」と回答した割合が全体で22%(昨年25%)と最も高かった。男女別で見ると、男子が16%だったのに対し女子は29%と女子の方が13ポイントも高い割合となっている。次いで高かったのは「自分の部屋の掃除」の割合で、全体で18%(昨年同様)、学年別で見ると小5年では9%(昨年同様)、中2年では24%(昨年16%)、高1年では21%(昨年27%)となり、昨年度と比べると中2年で増えている。3番目に高かったのは17%の「食事の片付け」で、食事に関するお手伝いは「食事の準備や手伝い」と合わせると39%になる。その他の手伝いとして最も多かったのは「洗濯関係」の手伝いで、「兄弟の世話」「ペットの散歩」「弁当作り」「布団の上げ下ろし」「トイレ掃除」などの記述も複数見られた。「何もしていない」と記述した子どもが14名ほどいたが、多くの子どもたちが家族の一員として何らかのお手伝いをしている。

5 学校や勉強に関すること

問26 先生は、あなたのことをわかってくれていると思いますか。

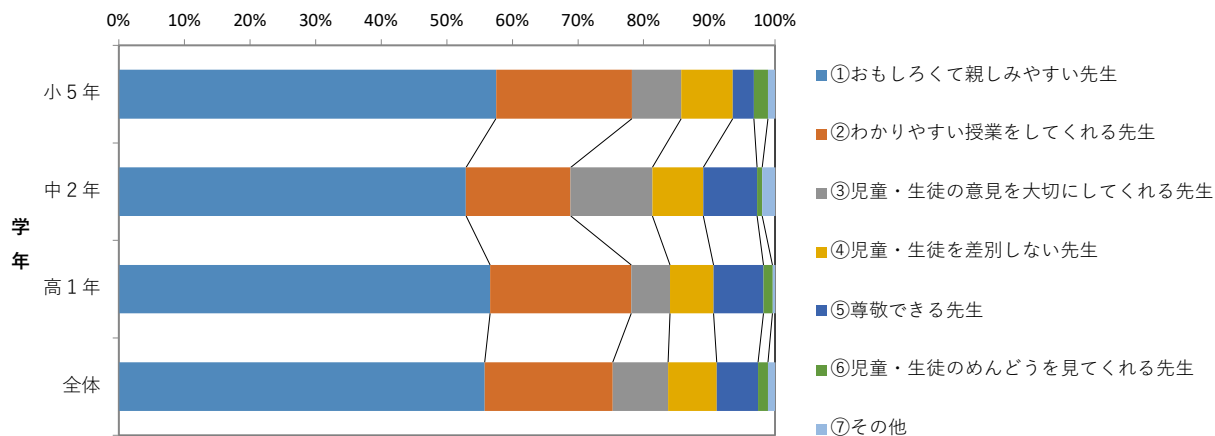


(単位：%)

	①	②	③	④	合計
小5年	56.8	36.8	4.6	1.8	100.0
中2年	40.5	44.0	10.5	5.1	100.0
高1年	30.2	51.4	13.9	4.5	100.0
全体	42.4	44.1	9.7	3.8	100.0

先生が自分のことをわかってくれていると「思う」「どちらかといえば思う」と回答した割合は、全体で87%(昨年86%)で、多くの子どもは先生が自分のことを理解してくれていると感じている。その中でも一日中担任と接している小5年が94%(昨年93%)と高い割合を示している。一方、教科担任制が取られ複数の先生と関わる機会が多くなっていく中高生でも、中2年が85%(昨年83%)、高1年が82%(昨年83%)と高い割合を示しており、学年を問わず学校の先生と比較的良好な関係が築けていることがわかる。「どちらかといえば思わない」「思わない」と答えた割合は全体で14%(昨年同様)ほどで、学年別で見ると小5年の割合は6%と比較的少ないのに対して、中2年は16%、高1年は18%と少し高くなった。

問27 どんな先生に一番教えてもらいたいですか。

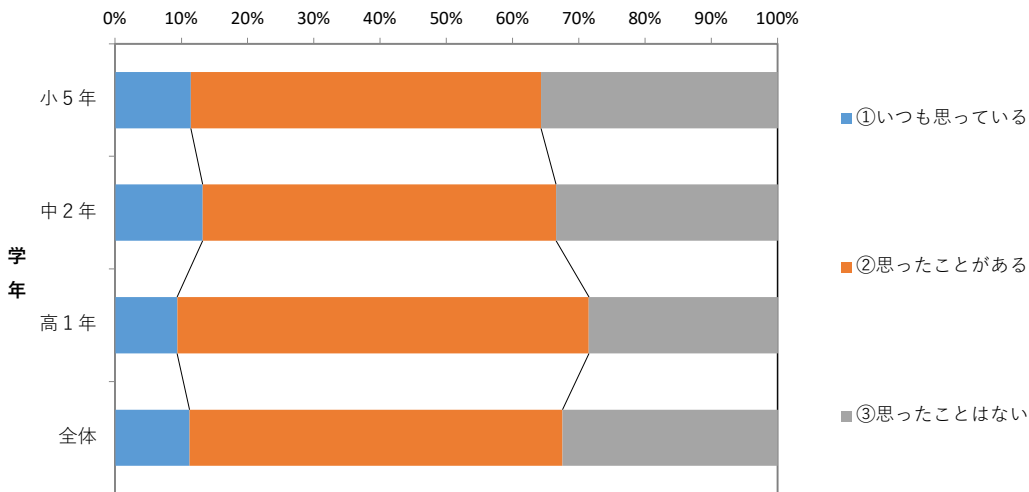


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	合計
小5年	57.5	20.7	7.5	7.9	3.2	2.1	1.1	100.0
中2年	52.9	16.0	12.5	7.8	8.2	0.8	1.9	100.0
高1年	56.6	21.5	5.9	6.6	7.6	1.4	0.3	100.0
全体	55.8	19.5	8.5	7.4	6.3	1.5	1.1	100.0

どんな先生に教えてもらいたいかという問いに対して、「おもしろくて親しみやすい先生」と答えた割合が最も高く、全体の56% (昨年53%)を占めている。次に多かったのが「わかりやすい授業をしてくれる先生」で、その割合は20% (昨年21%)となっている。多くの子もたちがおもしろく親しみやすい人柄で、わかりやすい授業をしてくれる先生を望んでいることがわかる。「児童・生徒の意見を大切にしてくれる先生」と回答した割合は9%、「児童・生徒を差別しない先生」と回答した割合は7%で、昨年度と同じであった。その他の少数意見として、「厳しい先生」「相談によく乗ってくれる先生」「先生をやっていて本当に楽しそうにしている先生」などの記述が見られた。

問28 学校に行きたくないと思ったことはありますか。

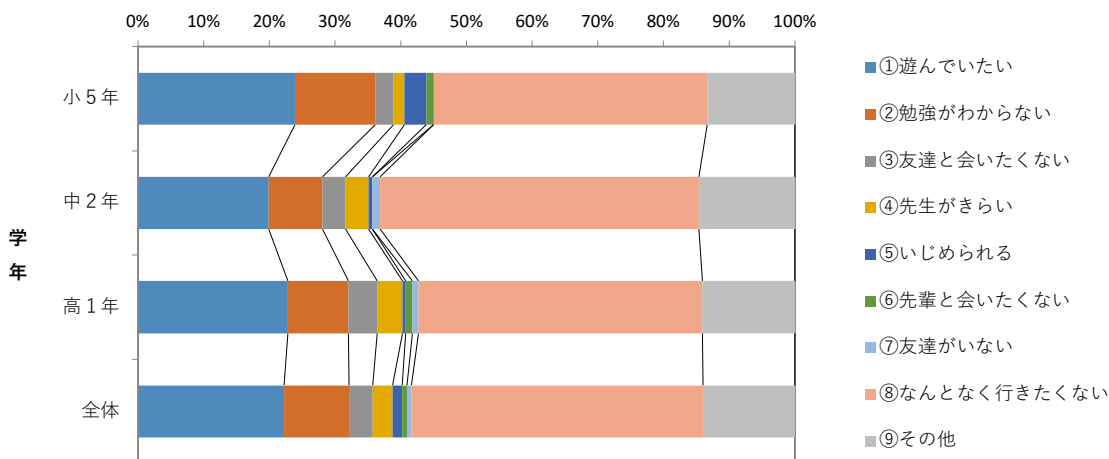


(単位：%)

	①	②	③	合計
小5年	11.4	52.9	35.7	100.0
中2年	13.2	53.3	33.5	100.0
高1年	9.4	62.2	28.5	100.0
全体	11.3	56.2	32.5	100.0

学校に行きたくないという「いつも思っている」「思ったことがある」と回答した割合は、小5年64% (昨年60%)、中2年67% (昨年65%)、高1年72% (昨年65%)、全体68% (昨年64%)となっており、すべての学年で昨年度より増えている。これは学習活動や行事・部活動などが充実してきた学校生活により負荷が増え、体や心が疲れやすくなる場面が増えたことも一つの要因と考えられる。「いつも思っている」と回答した子どもの割合も昨年度の8%から11%に増えている。一人一人が休息や気分転換の時間を適切に取り入れ、オーバーワークにならないように心がけるとともに、まわりの大人たちが一人一人の能力や適性に応じた支援を心がけることにより心身の健康を守ってきたい。

問29 【問31で①②を選んだ、学校に行きたくないと思ったことのある人】学校に行きたくない理由の一番は何ですか。

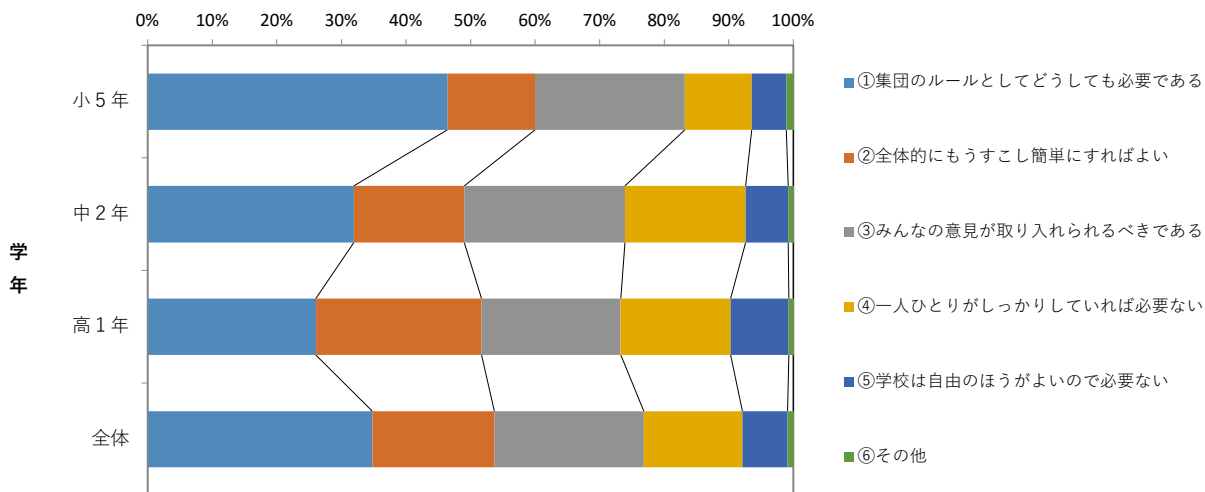


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	合計
小5年	23.9	12.2	2.8	1.7	3.3	1.1	0.0	41.7	13.3	100.0
中2年	19.9	8.2	3.5	3.5	0.6	0.0	1.2	48.5	14.6	100.0
高1年	22.8	9.2	4.4	3.9	0.5	1.0	1.0	43.2	14.1	100.0
全体	22.3	9.9	3.6	3.1	1.4	0.7	0.7	44.3	14.0	100.0

学校に「なんとなく行きたくない」と答えた割合は全体で44%（昨年42%）で、はっきりとした理由なくなんとなく休みたいと思うことはだれにでもある。具体的な理由で最も多かったのは「遊んでいたい」が全体の22%で、昨年度の18%からわずかではあるが増加している。「勉強がわからない」と回答した10%（昨年9%）の子どもに対しては、各学校での児童・生徒実態をしっかりと把握し、早急に対応していく必要がある。「友達と会いたくない」「先生がきらい」「いじめられる」などの人間関係に関する項目を全て合わせた割合は10%（昨年9%）程だが、そういった子どもが心地よく生活できる環境を整えていくことが不登校の減少にもつながると考えられる。その他としては、「学校に行くのがめんどくさい」「朝、眠い」「人と関わりたいくない」「部活で疲れたから」「悪天候だと行く気がなくなる」などの記述が複数見られた。

問30 学校の「きまり」や「規則」について、あなたの考えに一番近いのはどれですか。

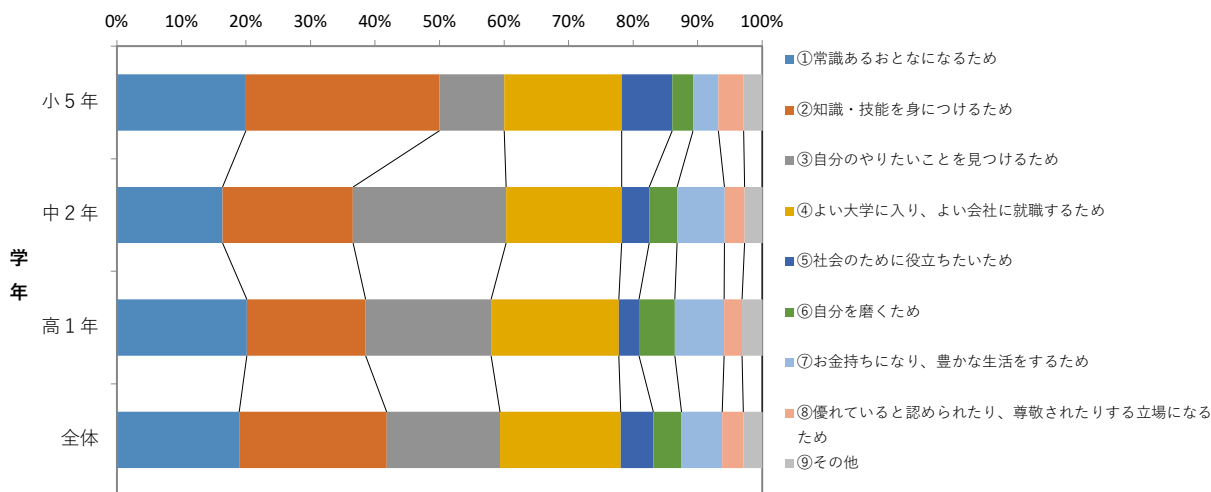


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
小5年	46.4	13.6	23.2	10.4	5.4	1.1	100.0
中2年	31.9	17.1	24.9	18.7	6.6	0.8	100.0
高1年	26.0	25.7	21.5	17.0	9.0	0.7	100.0
全体	34.8	18.9	23.2	15.3	7.0	0.8	100.0

学校の「きまり」や「規則」について、「集団のルールとしてどうしても必要である」と回答した割合が昨年32%から35%とわずかではあるが増加し、それに「全体的にもう少し簡単にすればよい」の19%を加えると54%になる。半数以上の子どもたちは多少の改善や簡略化が必要なものの、みんなで気持ちよく学校生活を送ったり、様々な活動を円滑に進めたりするためにはある程度の「きまり」や「規則」が必要であると考えている。2番目に多かった「みんなの意見が取り入れられるべきである」と回答した割合は昨年度の27%から23%へと減少した。その他として「決まりがないとできない人がいるからあった方がよい」「何のためにその規則があるかをはっきりさせることが必要」「時代遅れなルールはいらないと思う」などの記述があった。

問31 どうして勉強しなければならないと思いますか。1つだけ選んでください。



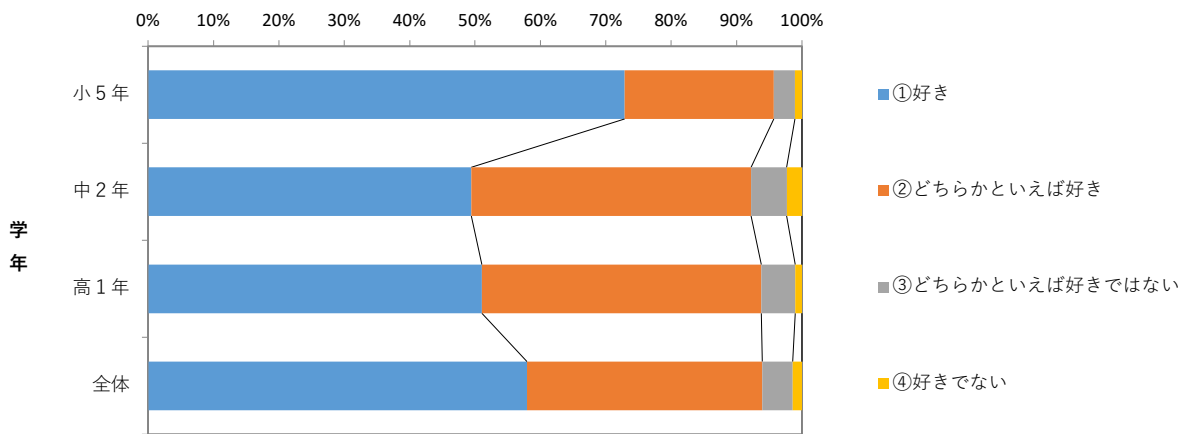
(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	合計
小5年	20.0	30.0	10.0	18.2	7.9	3.2	3.9	3.9	2.9	100.0
中2年	16.3	20.2	23.7	17.9	4.3	4.3	7.4	3.1	2.7	100.0
高1年	20.1	18.4	19.4	19.8	3.1	5.6	7.6	2.8	3.1	100.0
全体	18.9	22.9	17.6	18.7	5.1	4.4	6.3	3.3	2.9	100.0

どうして勉強をしなければならないかという問いに対して、今年度も「知識・技能を身につけるため」と答えた割合が、全体で23%（昨年25%）と最も高かった。続いて「常識あるおとなになるため」19%（昨年17%）、「よい大学に入り、よい会社に就職するため」19%（昨年17%）、「自分のやりたいことを見つけるため」18%（昨年同様）という順になっており、勉強が将来社会人として自立し豊かな生活を送るために必要なものであると考えていることがわかる。「お金持ちになり、豊かな生活をするため」と回答した割合は6%（昨年5%）程しかいなかった。「社会のために役立ちたいため」と回答した割合は、全体で5%（昨年8%）程で、学年別では小5年8%、中2年が4%、高1年が3%と学年が上がるほど低い割合となった。その他には、「自分の人生をよくするため」「いろいろなことを学ぶことによって夢を増やすため」「人生を楽しくするため」などの記述が見られた。

6 地域に関すること

問32 自分の住んでいるまちは好きですか。

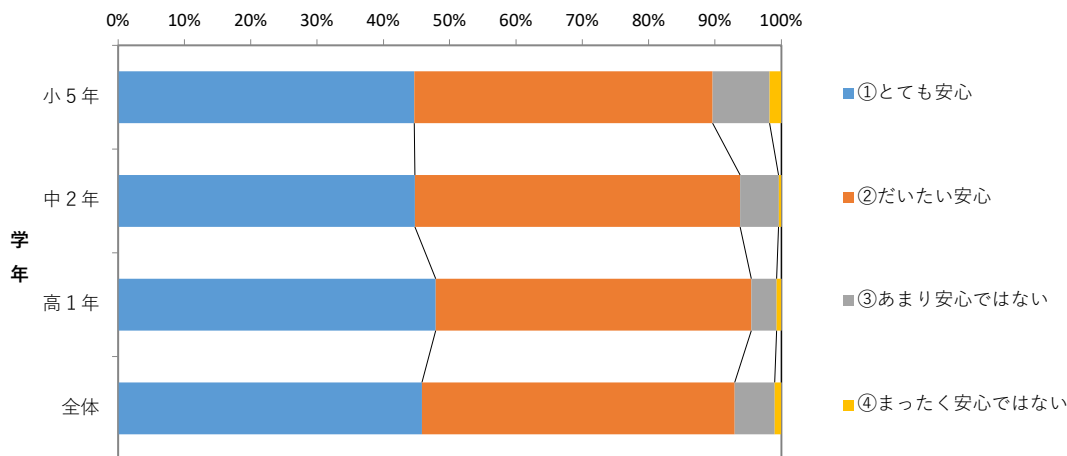


(単位：%)

	①	②	③	④	合計
小5年	72.9	22.9	3.2	1.1	100.0
中2年	49.4	42.8	5.4	2.3	100.0
高1年	51.0	42.7	5.2	1.0	100.0
全体	57.9	36.0	4.6	1.5	100.0

自分の住んでいるまちが「好き」「どちらかといえば好き」と回答した割合は94%（昨年92%）となり、子どもたちの自分たちが住んでいるまち（地域）への満足度が高い状況が続いている。その中でも地域で過ごす時間が多く、お祭りなどの地域行事に参加する機会が多い小5年は「好き」と回答した割合が73%と、中2年の49%、高1年の51%に比べて非常に高くなっている。一方「どちらかという」と好きでない「好きでない」と回答した割合が全体で6%（昨年8%）程いたので、そういった子どもたちの意識を変えるような魅力的な施策を今後も計画的に進めていく必要がある。

問33 いつでもどこでも安心して外出することができますか。

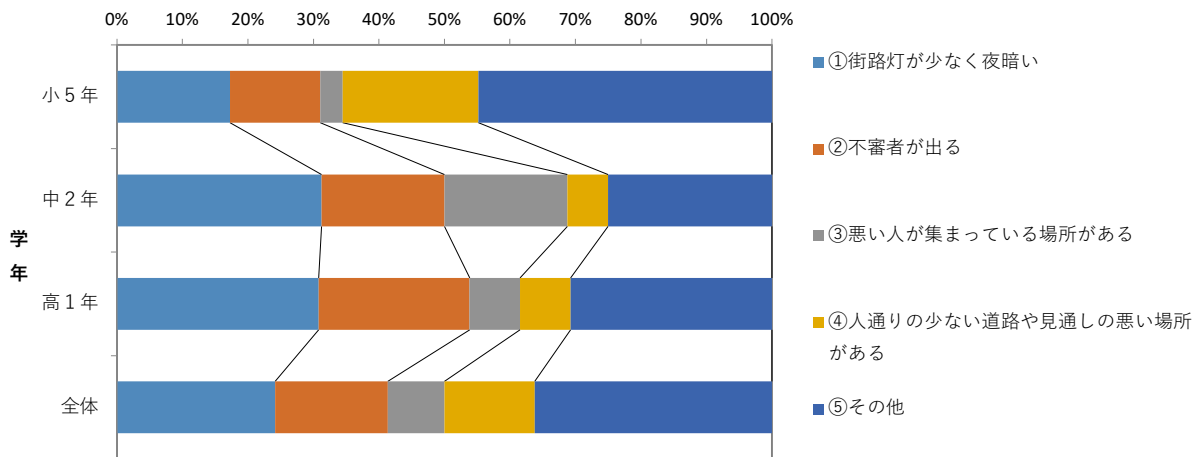


(単位：%)

	①	②	③	④	合計
小5年	44.6	45.0	8.6	1.8	100.0
中2年	44.7	49.0	5.8	0.4	100.0
高1年	47.9	47.6	3.8	0.7	100.0
全体	45.8	47.2	6.1	1.0	100.0

外出に対して、「とても安心」「だいたい安心」と回答した全体の割合は昨年度の89%より4ポイント高い93%となっている。その中で「とても安心」と回答した割合は昨年度の36%から46%へと大きく増えており、多くの子どもたちが地域の中で安心して生活できていることがわかる。そのため「あまり安心ではない」「まったく安心ではない」と答えた子どもは昨年度の11%から7%に減少している。その「あまり安心ではない」「まったく安心ではない」と回答した割合を男女別でみてみると、男子の5%に対して女子は10%と倍の割合となっており、外出に対して強い不安感や警戒感を持っているのは女子に多い。

問34 【問37で③④を選んだ人】安心して外出することができない理由の一番はなんですか。

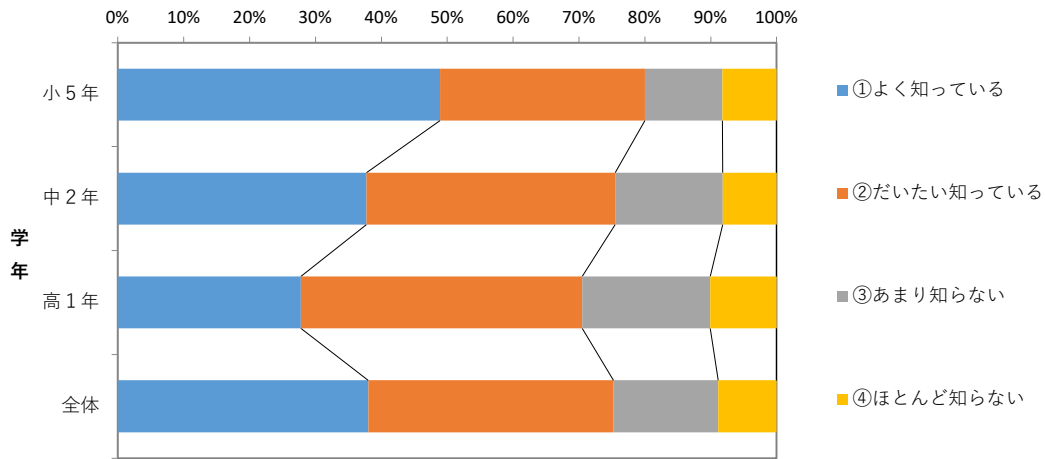


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	合計
小5年	17.2	13.8	3.4	20.7	44.8	100.0
中2年	31.3	18.8	18.8	6.3	25.0	100.0
高1年	30.8	23.1	7.7	7.7	30.8	100.0
全体	24.1	17.2	8.6	13.8	36.2	100.0

安心して外出できない理由として多かったのは、「街路灯が少なく夜暗い」と回答した割合の24%だったが、昨年度の39%から大きく減少している。学年別で見ると、帰宅時間が日没後になることが多い中2年が31% (昨年43%)、高1年が31% (昨年44%)と小5年の17% (昨年33%)と比べ高かった。今年度2番目に多かったのは「不審者が出る」と回答した割合で全体で17% (昨年11%)と昨年度より増えている。3番目が「人通りの少ない道路や見通しの悪い場所がある」で、全体で14% (昨年24%)ほどの割合であったが、その中で中2年の6%、高1年の8%と比べ、小5年の割合が21%と高かった。今年度は「その他」と回答した割合が36%と高く、「最近事件や事故が多いから」「暴走する車がいるから」「治安が悪いから」「知ってる人に会いたくないから」などの記述があった。

問35 隣に住んでいる人を知っていますか。

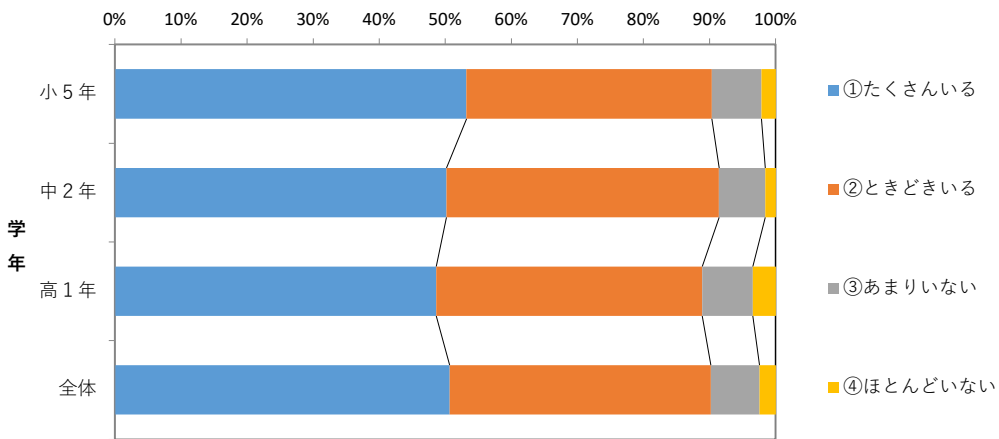


(単位：%)

	①	②	③	④	合計
小5年	48.9	31.1	11.8	8.2	100.0
中2年	37.7	37.7	16.3	8.2	100.0
高1年	27.8	42.7	19.4	10.1	100.0
全体	38.1	37.2	15.9	8.8	100.0

隣に住んでいる人を「よく知っている」「だいたい知っている」と回答した割合は全体で75% (昨年73%)と昨年度からわずかではあるが増加した。それを学年別でみてみると小5年80% (昨年78%)、中2年75% (昨年71%)、高1年71% (昨年70%)となっており、例年と同じように近隣地域で活動する機会の多い小学生の割合が高かった。「あまり知らない」「ほとんど知らない」と答えた全体の割合は25% (昨年27%)で、学年別では高1年の割合が30%と小5年より10ポイントほど高かった。隣近所との関わりが希薄になっている家庭が増えているのも事実だが、学年が上がるにつれて「あまり知らない」「ほとんど知らない」と回答する割合が高くなるのは、行動範囲が広がることで隣近所や地域の人と関わる機会が減ってきていることを表しているとも考えられる。

問36 あなたにいつも「おはよう」「こんにちは」など声をかけてくれる人はいますか。

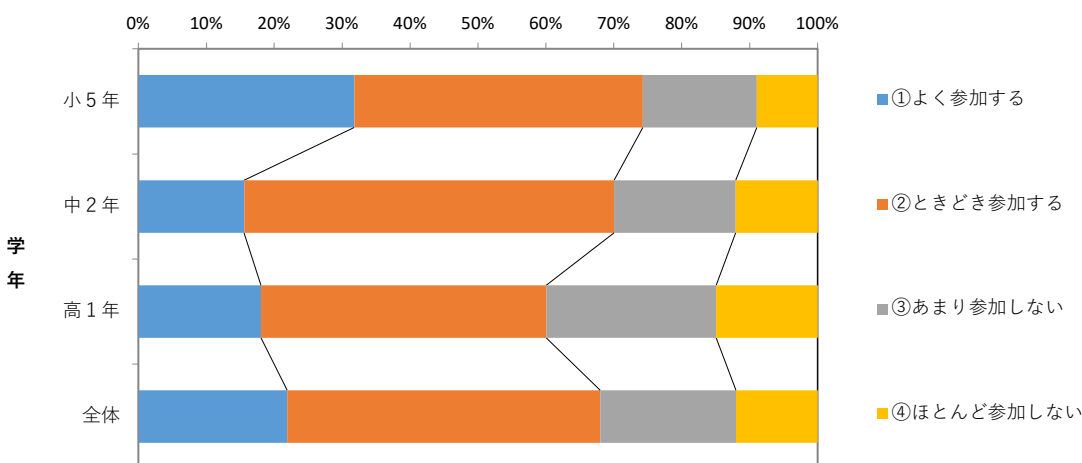


(単位：%)

	①	②	③	④	合計
小5年	53.2	37.1	7.5	2.1	100.0
中2年	50.2	41.2	7.0	1.6	100.0
高1年	48.6	40.3	7.6	3.5	100.0
全体	50.7	39.5	7.4	2.4	100.0

声をかけてくれる人が「たくさんいる」と答えた全体の割合は51% (昨年46%)で、「ときどきいる」と答えた40% (昨年42%)と合わせると90% (昨年88%)となり、多くの子どもたちがあいさつなどの声をかけてくれる大人たちに見守られていることがわかる。学年別で「たくさんいる」と回答した割合は小5年53% (昨年55%)、中2年50% (昨年49%)、高1年49% (昨年36%)とどの学年も高い割合を示しており、特に高校生の増加の割合が大きかった。これは市内全体の広範囲にわたるあいさつ運動や通学路での見守り活動に多くの地域の方々が参加し、子どもたちへの温かい声を続けてくれている成果といえる。一方「ほとんどいない」と回答する子どもも2% (昨年3%)とわずかではあるが毎年いるので、そういった子どもを一人でも減らしていけるよう、あいさつ運動を中心とした人と人との心をつなぐ活動をさらに継続・充実させていく必要がある。

問37 地域で行われる行事（盆踊り・お祭り・清掃活動・防災訓練など）に参加しますか。

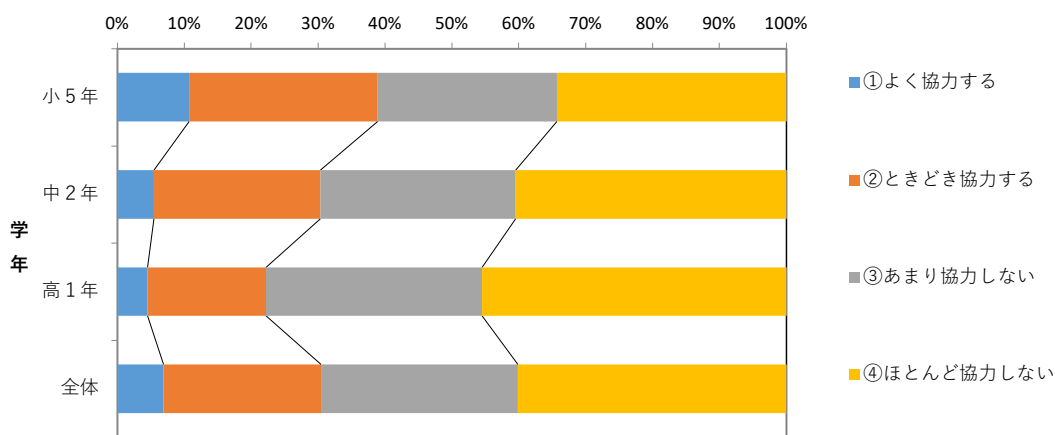


(単位：%)

	①	②	③	④	合計
小5年	31.8	42.5	16.8	8.9	100.0
中2年	15.6	54.5	17.9	12.1	100.0
高1年	18.1	42.0	25.0	14.9	100.0
全体	21.9	46.1	20.0	12.0	100.0

地域の行事に「よく参加する」と回答したのは全体で22%（昨年20%）、学年別では小5年32%（昨年31%）、中2年16%（昨年17%）、高1年18%（昨年14%）という割合となっており、小5年と高1年についてはわずかに増えている。地域の行事がコロナ禍前と同じように行われるようになって2年以上たつが、参加する子どもの割合はなかなか大きく増えていかない。「ほとんど参加しない」と回答した割合は全体で12%（昨年16%）だが、その中の高1年の割合が昨年度の21%から15%に減っている。地域行事への参加率がまだ高いとは言えないので、より幅広い年齢の子どもたちが楽しめるよう、今まで以上に魅力ある地域行事になるように工夫するとともに、学校・地域が中心となって参加意識を高めたい。

問38 地域で行われる行事（盆踊り・お祭り・清掃活動・防災訓練など）にお手伝いやボランティアとして協力しますか。

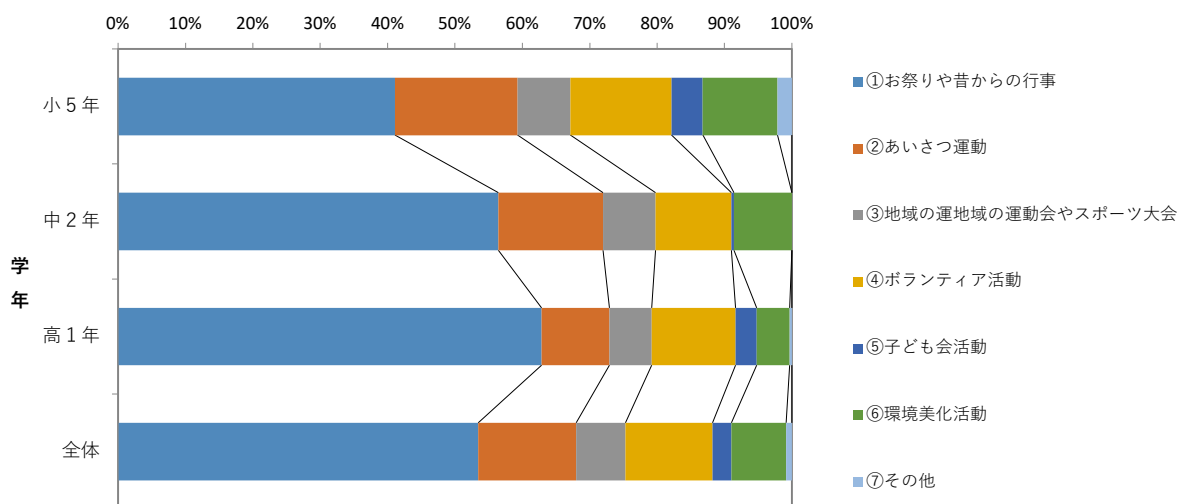


(単位：%)

	①	②	③	④	合計
小5年	10.7	28.2	26.8	34.3	100.0
中2年	5.4	24.9	29.2	40.5	100.0
高1年	4.5	17.7	32.3	45.5	100.0
全体	6.9	23.5	29.5	40.1	100.0

地域で行われる行事にお手伝いやボランティアとして企画や運営に協力しているかどうかという設問に対し、「よく協力する」「ときどき協力する」と回答した割合は30%（昨年33%）で昨年度よりわずかに減少している。学年別では小5年が39%（昨年43%）、中2年は30%（昨年35%）、高1年は22%（昨年同様）となっており、小5年と中2年での減少が目立った。「ほとんど協力しない」と回答した割合は全体で40%で昨年と変化はなかったが、学年別で見ると小5年34%（昨年33%）、中2年41%（昨年35%）、高1年46%（昨年51%）となっており、比較的地域の行事のお手伝いをする機会の多いと思われる中2年で増加した一方、行動範囲も広がり小・中学生の時とは生活スタイルが大きく変わっている高1年の割合が減少した。いずれにしろここ数年協力する子どもが増えていないので、ボランティア・お手伝いとして参加する意識を中学生のジュニア奉仕団や高校生のココボラ等を中心に高めていきたい。

問39 地域をよくするために、一番大切にしたい活動はなんですか。

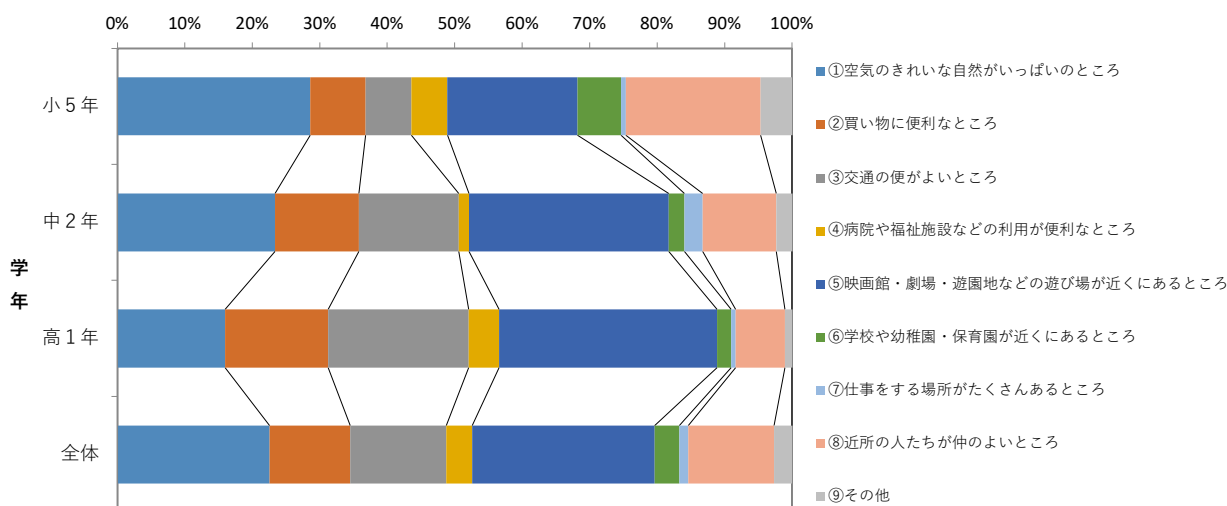


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	合計
小5年	41.1	18.2	7.9	15.0	4.6	11.1	2.1	100.0
中2年	56.4	15.6	7.8	11.3	0.4	8.6	0.0	100.0
高1年	62.8	10.1	6.3	12.5	3.1	4.9	0.3	100.0
全体	53.5	14.5	7.3	13.0	2.8	8.1	0.8	100.0

地域をよくするために一番大切にしたい活動として、「お祭りや昔からの行事」と回答した割合が54% (昨年49%)と最も高かった。内訳を学年別に見てみると小5年が41% (昨年39%)だったのに対し、中2年が56% (昨年51%)、高1年が63% (昨年57%)となっており、学年が上がるほどその割合が高くなっている。子どもたちにとって地域の「お祭りや昔からの行事」が、いつまでも思い出に残る特別なものになっていることが想像できる。多くの小中高生が地域の夏祭りや盆踊り、市民祭りなどに訪れている様子からも「お祭りや昔からの行事」のその重要性がわかる。2番目に多かったのは「あいさつ運動」の15% (昨年16%)で、3番目に多かったのは「ボランティア活動」の13% (昨年10%)で、昨年度3番目だった「環境美化活動」は13%から8%へと減少した。

問40 あなたは、どんなところに一番住みたいですか。

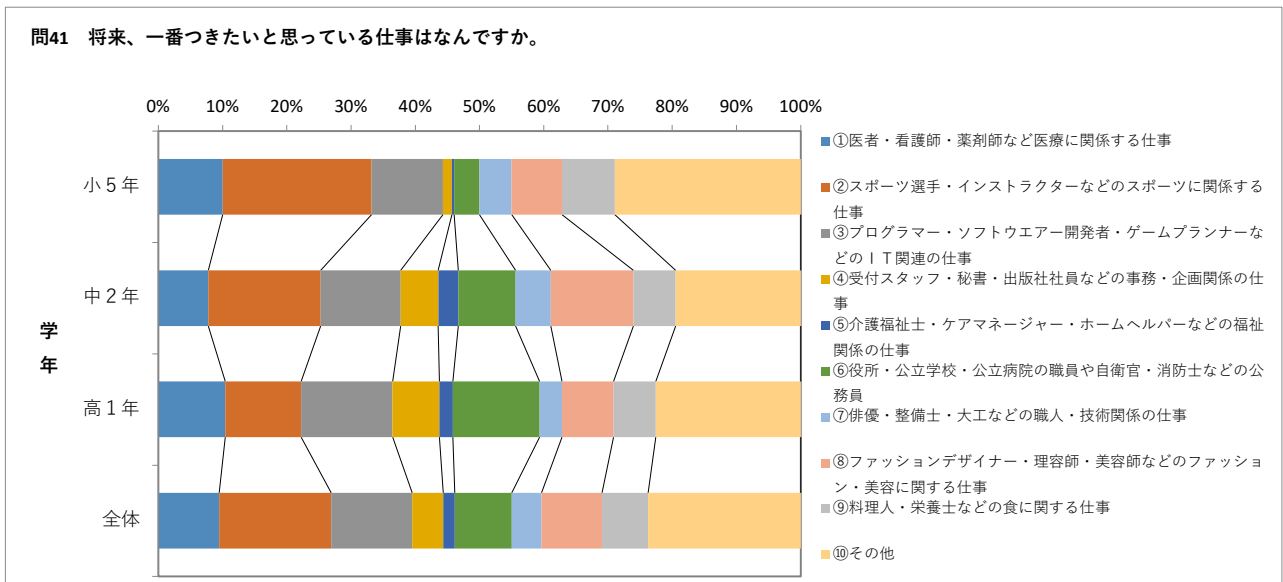


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	合計
小5年	28.6	8.2	6.8	5.4	19.3	6.4	0.7	20.0	4.6	100.0
中2年	23.3	12.5	14.8	1.6	29.6	2.3	2.7	10.9	2.3	100.0
高1年	16.0	15.3	20.8	4.5	32.3	2.1	0.7	7.3	1.0	100.0
全体	22.5	12.0	14.2	3.9	27.0	3.6	1.3	12.7	2.7	100.0

「映画館・劇場・遊園地などの遊び場が近くにあるところ」に住みたいと答えた割合が27% (昨年25%)と最も多く、内訳を学年別で見ると、小5年19% (昨年18%)、中2年30% (昨年同様)、高1年32% (昨年26%)となっており、中高生の割合が高かった。次に多かった「空気のきれいな自然がいっぱいのところ」の全体の割合は昨年と同じ23%で変化はなく、学年別では小5年の割合が29%と中高生に比べて高かった。3番目に多かったのは「交通の便がよいところ」で、全体で14% (昨年12%)で、学年別では特に行動範囲が広がる高1年が21%と、小中学生に比べて高かった。4番目は全体の割合が13%の「近所の人たちの仲の良いところ」だったが、中2年の11%、高1年の7%に対して生活圏が地域中心の小学生が20%と高かった。その他として「安心・安全な町」「個人のプライバシーが守られる町」などの記述があった。

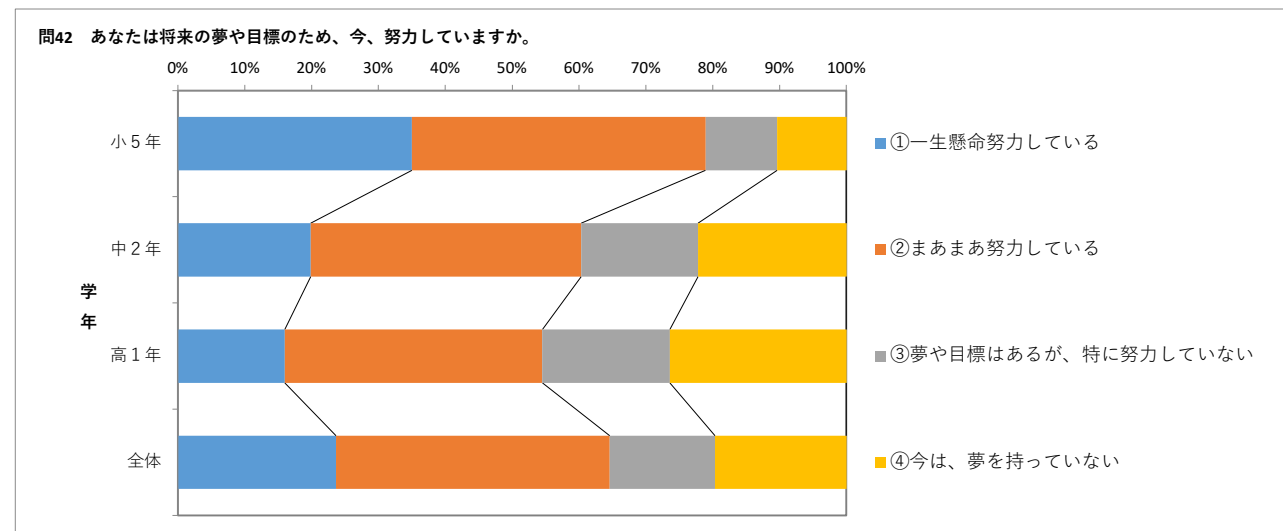
7 将来に関すること



(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計
小5年	10.0	23.2	11.1	1.4	0.4	3.9	5.0	7.9	8.2	28.9	100.0
中2年	7.8	17.5	12.5	5.8	3.1	8.9	5.4	12.8	6.6	19.5	100.0
高1年	10.4	11.8	14.2	7.3	2.1	13.5	3.5	8.0	6.6	22.6	100.0
全体	9.5	17.5	12.6	4.8	1.8	8.8	4.6	9.5	7.2	23.8	100.0

今年度回答数が多かった将来つきたいと思っている仕事は、「スポーツに関する仕事」18% (昨年16%) 「IT関連の仕事」13% (昨年同様) 「ファッション・美容に関する仕事」10% (昨年12%) 「医療に関する仕事」10% (昨年8%) 「公務員」9% (昨年7%) の順になった。将来つきたい仕事については男女で大きな違いがあり、男子は「スポーツ関係の仕事」27% (昨年26%) 「IT関連の仕事」21% (昨年22%) が多く、女子は「ファッション・美容に関する仕事」18% (昨年23%) 「医療に関する仕事」13% (昨年12%) が多かった。その他では「保育士」「イラストレーター」「動物に関する仕事」「YouTuber (VTuber)」「弁護士」「ウェディングプランナー」「歴史学者」「ゲーマー」「銀行員」「公認会計士」「小説家」「声優」「漁業」など多種多様な職業が記述されていた。



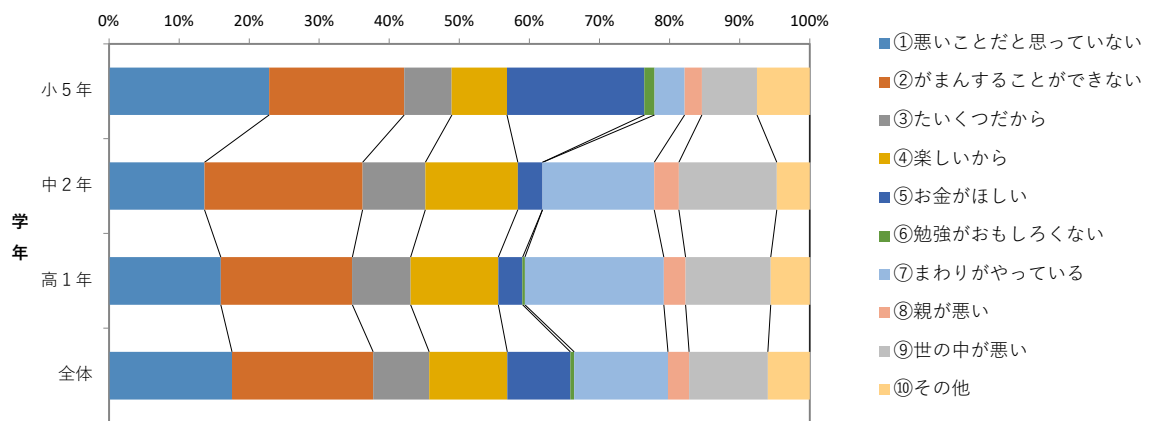
(単位：%)

	①	②	③	④	合計
小5年	35.0	43.9	10.7	10.4	100.0
中2年	19.8	40.5	17.5	22.2	100.0
高1年	16.0	38.5	19.1	26.4	100.0
全体	23.6	41.0	15.8	19.6	100.0

将来の夢や目標の実現のために、「一生懸命努力している」と回答した割合は全体で24% (昨年20%) で、学年別でも小5年35% (昨年34%)、中2年20% (昨年15%)、高1年16% (昨年10%) となっており、すべての学年において昨年度より増えている。中でも今年度は中2年と高1年の増加が目立った。「まあまあ努力している」を加えた全体の割合も昨年度の56%から65%へと増えている。一方「今は、夢を持っていない」と回答した割合は、小5年の10%に比べて、中2年が22%、高1年26%と学年が上がるにつれ高くなっていく。これは小学生が憧れとしての夢を描いているのに対して、自己理解が深まる中高生はより現実的な夢を探し始めることが一つの要因となっていると考えられる。今後AIの進歩や技術革新、少子化などにより、職種や働き方だけでなく生活様式も大きく変化していくことが予想される。時代の変化に柔軟に対応できるようしっかりと夢や目標を持ち粘り強く努力する子どもを育てていきたい。

8 少年非行や社会認識に関すること

問43 万引き、タバコ、シンナー、危険ドラッグ、薬物などの悪いこと（非行）をする一番の理由はなんでしょうか。

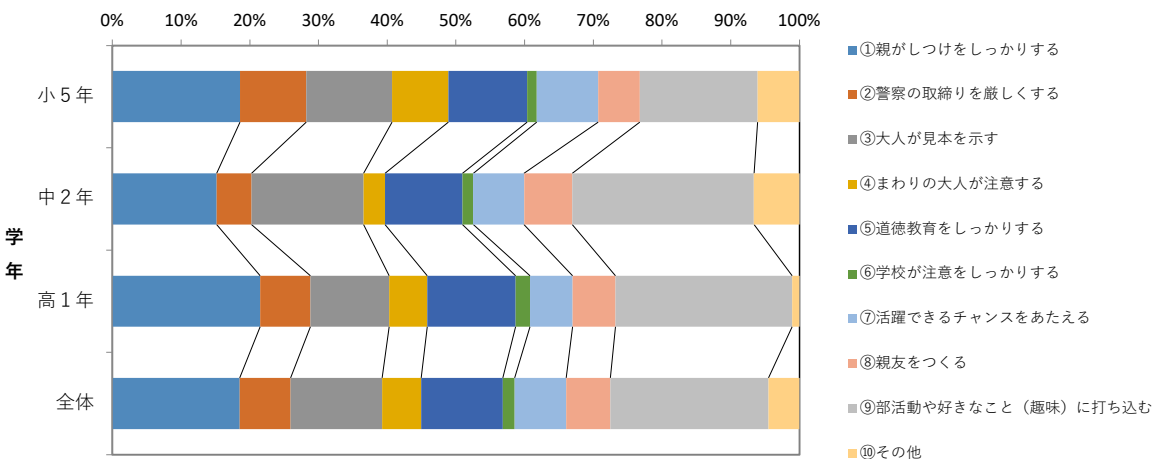


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計
小5年	22.9	19.3	6.8	7.9	19.6	1.4	4.3	2.5	7.9	7.5	100.0
中2年	13.6	22.6	8.9	13.2	3.5	0.0	16.0	3.5	14.0	4.7	100.0
高1年	16.0	18.8	8.3	12.5	3.5	0.3	19.8	3.1	12.2	5.6	100.0
全体	17.6	20.1	8.0	11.2	9.0	0.6	13.3	3.0	11.3	5.9	100.0

非行の理由を「がまんすることができない」と答えた割合が全体で20%（昨年23%）と最も多く、次いで「悪いことだと思っていない」が18%（昨年15%）、「まわりがやっている」が13%（昨年19%）と続いている。このことから、子どもたちは非行の理由を本人自身の問題として捉えている傾向が強いことがわかる。一方「世の中が悪い」と答えた割合は全体で11%（昨年10%）あり、非行に走る原因を単純に本人自身の問題としてだけでなく、環境や育ち方などの様々な要因が関係していると考えられる子どももいる。「親が悪い」と回答した割合はわずか3%（昨年同様）と、非行を親のせいだと考える子どもは少なかった。その他には「現実から逃げるため」「かっこいいと思っている」「認められていると感じられない世の中だから」「ストレスの発散」「反抗心」「断る勇気がなかったから」など様々な記述が見られた。

問44 悪いことをしないようにするために、一番大切なことはなんでしょうか。

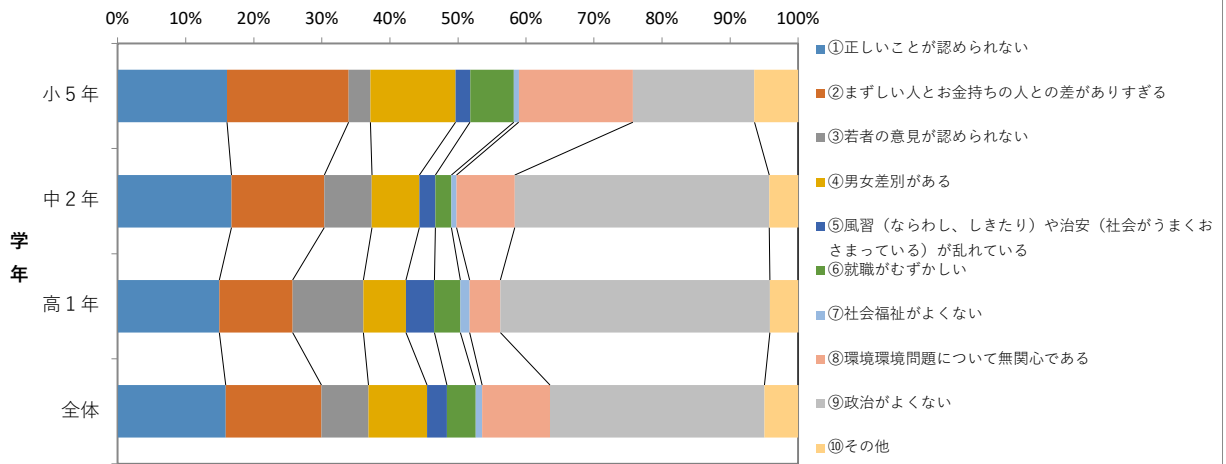


(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計
小5年	18.6	9.6	12.5	8.2	11.4	1.4	8.9	6.1	17.1	6.1	100.0
中2年	15.2	5.1	16.3	3.1	11.3	1.6	7.4	7.0	26.5	6.6	100.0
高1年	21.5	7.3	11.5	5.6	12.8	2.1	6.3	6.3	25.7	1.0	100.0
全体	18.5	7.4	13.3	5.7	11.9	1.7	7.5	6.4	23.0	4.5	100.0

悪いことをしないために大切だと思うこととして「部活動や好きなこと（趣味）に打ち込む」と答えた割合が全体で23%と（昨年25%）最も多く、次いで「親がしつけをしっかりとる」の19%（昨年16%）、「大人が見本を示す」の13%（昨年12%）の順になった。子どもたちは、非行の防止のためには部活動や趣味などに打ち込みストレスを上手に発散すると同時に、両親やまわりの大人達からの支えも必要だと感じている。また、最近の社会全体のモラルの低下を感じているのか「道徳教育をしっかりとる」と回答した割合が4番目となり、昨年と同じ12%程いた。その他には、「その人に寄り添ってあげる人が必要」「みんながほかの人を大切に」「居場所をつくる」「周りの環境をよくする」などの記述があった。

問45 日本の社会をみて、あなたが一番の問題だと思うことはどんなことですか。



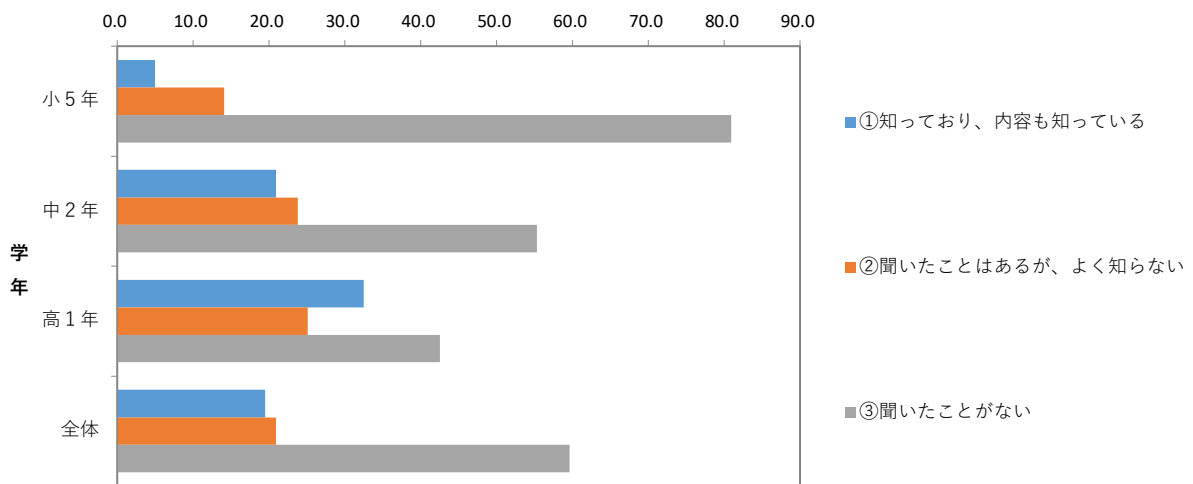
(単位：%)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	合計
小5年	16.1	17.9	3.2	12.5	2.1	6.4	0.7	16.8	17.9	6.4	100.0
中2年	16.7	13.6	7.0	7.0	2.3	2.3	0.8	8.6	37.4	4.3	100.0
高1年	14.9	10.8	10.4	6.3	4.2	3.8	1.4	4.5	39.6	4.2	100.0
全体	15.9	14.1	6.9	8.6	2.9	4.2	1.0	9.9	31.5	5.0	100.0

日本の社会で問題だと思うこととして、「政治がよくない」と回答した割合が最も高く、昨年度の21%から32%へ大きく増加している。これを学年別でみると小5年18%（昨年12%）、中2年37%（昨年24%）、高1年40%（昨年26%）と、学年が上がるにつれ割合、増加率ともに高くなっている。2番目に多かったのが「正しいことが認められない」の16%（昨年15%）で、3番目は「まずしい人とお金持ちの差がありすぎる」と回答した割合の14%（昨年18%）だった。「男女差別がある」と回答した割合9%（昨年10%）で、男女差別を感じている子どもはそれほど多くなかった。その他には、「若い人が政治に興味がないこと」「少子高齢化・円安」「物価高」「外国人問題」「正しくない情報を鵜呑みにする人がいること」など社会の問題について真剣に考えている記述も多数見られた。

9 ヤングケアラーに関すること

問46 「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがありますか。

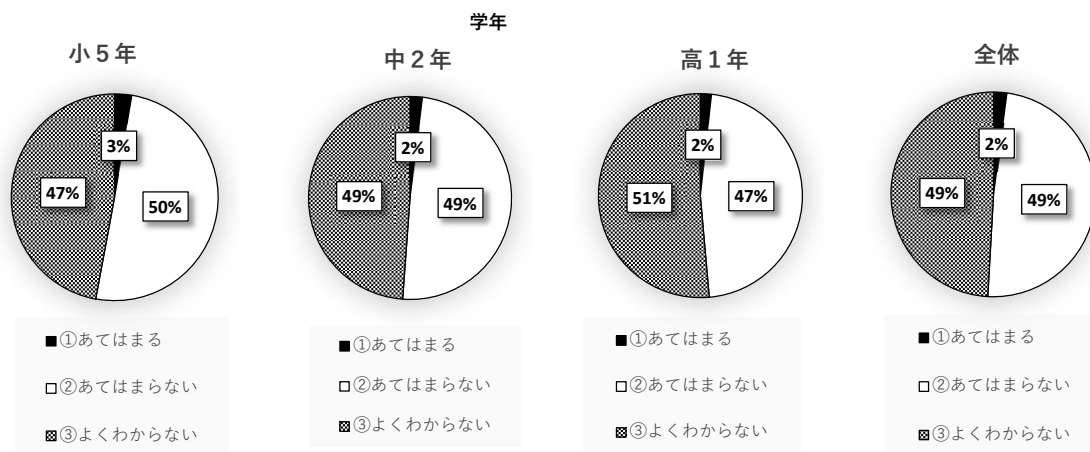


(単位：%)

	①	②	③	合計
小5年	5.0	14.1	80.9	100.0
中2年	20.9	23.8	55.3	100.0
高1年	32.5	25.1	42.5	100.0
全体	19.5	20.9	59.6	100.0

「ヤングケアラーという言葉を知っていますか」という問いに対して、「知っており、内容についても知っている」と回答した割合は昨年度の28%から20%へ減少している。それを学年別にみると、小5年が5%（昨年11%）、中2年が21%（昨年33%）、高1年が33%（昨年38%）となっており、特に中2年の割合が大きく減少した。「聞いたことがあるが、よく知らない」と回答した割合を含めても40%（昨年54%）程度にとどまり、新聞やテレビなどで取り上げられる機会が少なくなったためか、ヤングケアラーに対する認知度が昨年度より14ポイント下がっている。ヤングケアラーについては自己認識をすることが重要であることから、認知度を上げるための周知啓発を引き続き行っていく必要がある。

問47 あなた自身、「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか（本来大人が行う家事や家族のお世話などに時間がとられ、やりたいことができないような状態にあてはまりますか）。

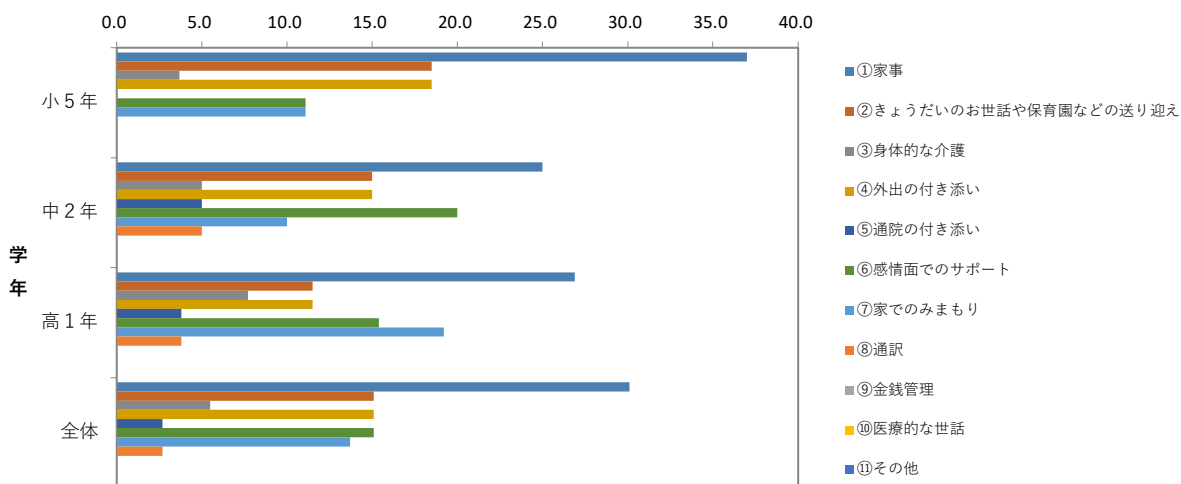


(単位: %)

	①	②	③	合計
小5年	2.7	50.3	47.1	100.0
中2年	2.0	49.2	48.8	100.0
高1年	1.8	46.8	51.4	100.0
全体	2.1	48.7	49.1	100.0

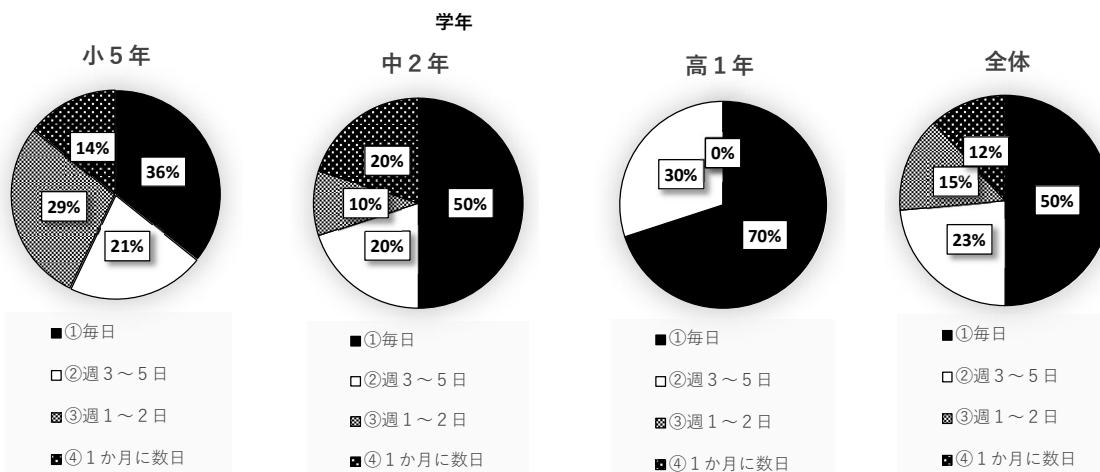
ヤングケアラーに「あてはまる」と答えた割合は全体で2% (昨年3%) で、学年別に見ると小5年が3% (昨年4%)、中2年が2% (昨年3%)、高1年が2% (昨年3%) となっており、どの学年もほぼ同じ割合となっている。小5年が3%と高くなっているが、後の設問の回答と併せてみると、お手伝いとヤングケアラーの区別がはっきりしていないと思われる者も何名かいた。小学生のヤングケアラーの実態を正確につかむためには学校での調査も必要だと考えられる。また、今年度は「よくわからない」と回答した割合が昨年度の18%から49%へと大きく増えており、最近メディアで話題として取り上げられることが少なくなったことも影響していると推察できる。

問48 【問54で「あてはまる」と回答した人】あなたがやっているお世話の内容について教えてください。（複数回答可）



複数回答可で質問したお世話の内容として割合が1番高かったのは「家事」の30% (昨年52%) で、「きょうだいのお世話や保育園などの送り迎え」「外出の付き添い」「感情面でのサポート」が同率の15%だった。また、学年によってお世話をしている内容に特徴があり、高1年が「家での見守り」が19%だったのに対し小5年、中1年は10%程度だった。「外出の付き添い」は小5年が19%だったのに対し中2年が15%、高1年が12%と学年が上がるとともに減少していた。昨年度23%と割合の高かった「通訳」は、本年度はアンケート実施者に外国籍の子どもが少なかったためか3%へと大きく割合を減少させた。「身体的な介護」は6%、通院の付き添いは3%と医療的なお世話をしている子どもは少なかった。

問49 お世話をしている日数を教えてください。また、一日にどれくらいお世話をしていますか。時間数を教えてください。

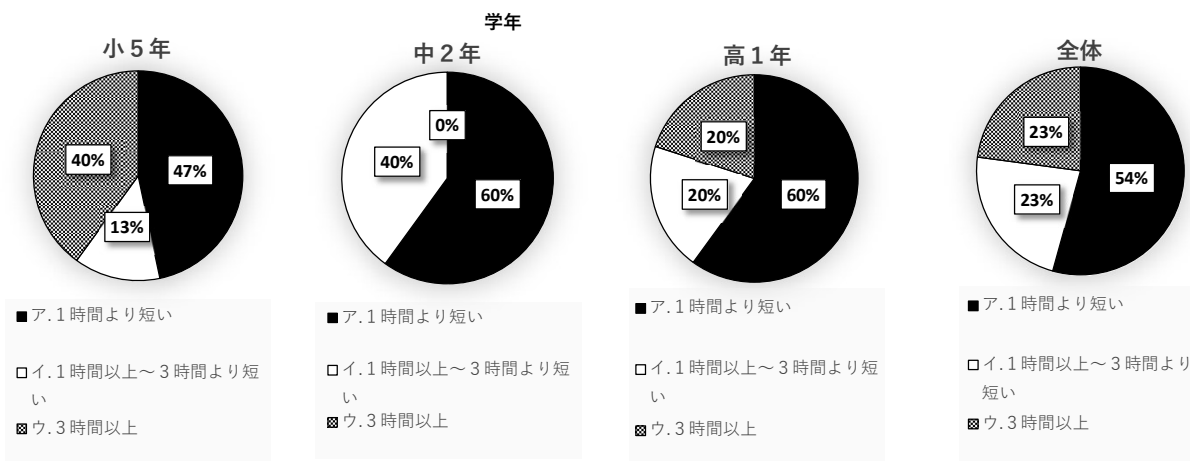


(単位: %)

	①	②	③	④	合計
小5年	35.7	21.4	28.6	14.3	100.0
中2年	50.0	20.0	10.0	20.0	100.0
高1年	70.0	30.0	0.0	0.0	100.0
全体	50.0	23.5	14.7	11.8	100.0

お世話している日数について「毎日」と答えた割合は、小5年が36% (昨年54%)、中2年が50% (昨年33%)、高1年が70% (昨年29%)、全体として50% (昨年39%)で、どの学年でも「毎日」と回答した割合が一番高かった。昨年度と比べると小5年が18ポイント減少したが、中2年と高1年ではそれぞれ17ポイントと41ポイントと大きく増加した。「週3～5日」と回答した割合も昨年度の22%から24%へ微増している。中でも高1年の回答は「毎日」と「週3～5日」のみとなった。ヤングケアラーに該当する多くの子どもがほぼ毎日何らかのお世話をしていることがわかる。

問50 お世話をしている日数を教えてください。また、一日にどれくらいお世話をしていますか。時間数を教えてください。



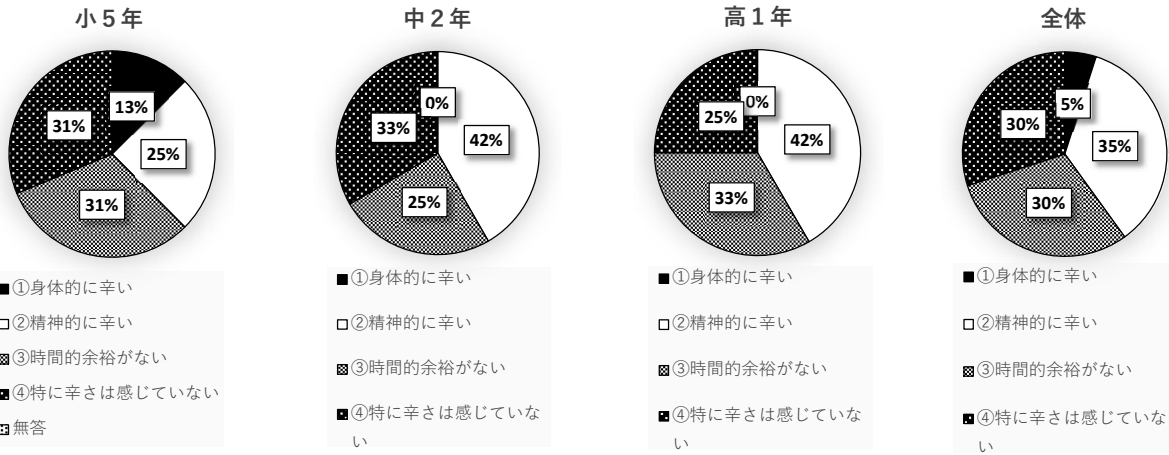
(単位: %)

	ア	イ	ウ	合計
小5年	46.7	13.3	40.0	100.0
中2年	60.0	40.0	0.0	100.0
高1年	60.0	20.0	20.0	100.0
全体	54.3	22.9	22.9	100.0

一日にお世話をしている時間が「3時間以上」と回答した割合は、小5年が40% (昨年15%)、中2年が0% (昨年33%)、高1年が20% (昨年38%)で、全体としては23% (昨年28%)だった。長時間お世話をする子どもの割合は昨年度より小5年で大きく増えているが、中2年、高1年では大きく減っている。一方「1時間より短い」と回答した割合は昨年の34%から54%に増えており、特に中2年と高1年が60%と高い割合となった。問49でお世話をしている日数を「毎日」と回答した割合の高かった中2年と高1年は、お世話をする日数は多いが、その分お世話する時間が短い傾向にある。

問51 お世話をすることに辛さを感じていますか。

学年 (複数回答可)

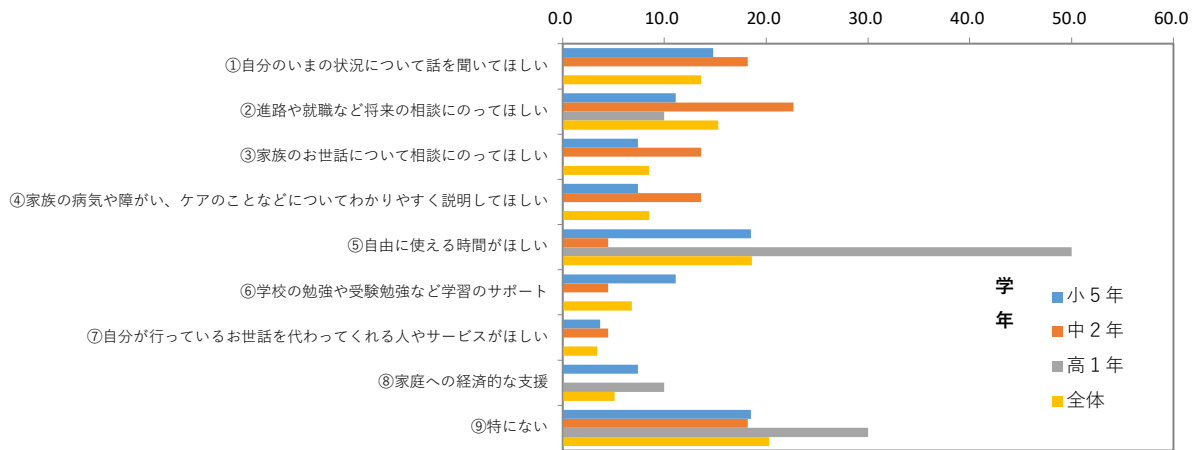


複数回答 (単位: %)

	①	②	③	④
小5年	12.5	25.0	31.3	31.3
中2年	0.0	41.7	25.0	33.3
高1年	0.0	41.7	33.3	25.0
全体	5.0	35.0	30.0	30.0

お世話することに辛さを感じていますかという問いに対して、「特に辛さを感じていない」と回答した割合は昨年の39%から30%へと減少している。辛さを感じているという中で「精神的に辛い」と回答した割合が35%と最も高く昨年度の21%から大きく増えている。次に多かったのが「時間的に余裕がない」と回答した割合で、30% (昨年27%)と昨年から大きな変化はなかった。「身体的に辛い」と回答した全体の割合は昨年の21%から5%へと大きく減少し、学年別では小5年は13%ほどいたものの、中2年と高1年においては0%であった。いずれにしても自分がヤングケアラーであると自認している子どもの多くが何らかの辛さを感じていることがわかる。

問52 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。 (複数回答可)



助けてほしいこと・支援してほしいことについては学年により異なり、「自由に使える時間がほしい」と回答した割合は小5年が19%、高1年が50%と高かったが、中2年はわずか5%程だった。「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」と回答したのは小5年と中2年に多く、高1年の0%に比べ小5年は15%、中2年は18%という割合だった。中2年では「進路や就職など将来の相談にのってほしい」が23%いた。高1年では「進路や就職など将来の相談にのってほしい」「家庭への経済的支援」が共に10%いた。上記の結果からヤングケアラーの支援については、本人の多様な意向に寄り添いながら、横断的、組織的に取り組む必要があると考えられる。

23 あなたが家にいるときの気持ちに一番近いのはどれですか。

- ① ホットして落ち着ける ② まあまあ落ち着ける ③ 少しイライラする
④ あまり家の中にいたくない
⑤ その他 ()

24 あなたの生活や行動を一番注意してくれるのはだれですか。

- ① お父さん ② お母さん ③ おじいさん ④ おばあさん ⑤ 兄弟姉妹
⑥ 先生 ⑦友達 ⑧ 先輩 ⑨ 近所の人
⑩ その他 ()

25 あなたが両親から一番注意をうけることはなんですか。

- ① あいさつの仕方 ② 食事時のマナー ③ 携帯やスマホのこと
④ 家に帰る時間 ⑤ 整理整頓 ⑥ 勉強のこと
⑦ 遊びのこと ⑧友達のこと ⑨ お金の使い方
⑩ その他 ()

26 あなたが一番行っているお手伝い(家事)はなんですか。

- ① 自分の部屋の掃除 ② 自分の部屋以外の掃除 ③ 食事の準備や手伝い
④ 食事のかたづけ ⑤ 風呂の掃除 ⑥ 庭の植物の水やり
⑦ 庭の掃除 ⑧ 家のための買い物 ⑨ ゴミ出し
⑩ その他 ()

27 「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがありますか。

- ① 知っており、内容も知っている。
② 聞いたことはあるが、よく知らない。
③ 聞いたことがない

28 あなた自身、「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか(本来大人が行う家事や家族のお世話などに時間がとられ、やりたいことができないような状態にあてはまりますか)。

- ①あてはまる ⇒32へ
②あてはまらない⇒質問は以上となります。
③よくわからない⇒質問は以上となります。
※①を選んだ人は、うらにも記載してください。

29 31で「あてはまる」と回答した人にお聞きします。

あなたが行っているお世話の内容について教えてください。

(あてはまる番号すべてにチェック)

- ①家事(食事の準備、洗濯、掃除など)
②きょうだいのお世話や保育園などの送り迎え
③身体的な介護(入浴やトイレのお世話、体拭きなど)
④外出の付き添い(買い物、散歩の補助) ⑤通院の付き添い
⑥感情面でのサポート(話し相手になる、悩みを聞く) ⑦家でのみまもり
⑧通訳 ⑨金銭管理 ⑩医療的な世話(薬の管理、たんの吸引など)
⑪その他

30 お世話をしている日数を教えてください。また、一日にどれくらいお世話をしていますか。時間数を教えてください。

(日によって異なる場合は最も長かった時間を教えてください。)

①毎日

ア. 1時間より短い イ. 1時間以上～3時間より短い ウ. 3時間以上

②週3～5日

ア. 1時間より短い イ. 1時間以上～3時間より短い ウ. 3時間以上

③週1～2日

ア. 1時間より短い イ. 1時間以上～3時間より短い ウ. 3時間以上

④1か月に数日

ア. 1時間より短い イ. 1時間以上～3時間より短い ウ. 3時間以上

31 お世話をすることに辛さを感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

①身体的に辛い ②精神的に辛い ③時間的余裕がない

④特に辛さは感じていない

32 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。(あてはまる番号すべてに○)

①自分のいまの状況について話を聞いてほしい

②進路や就職など将来の相談にのってほしい

③家族のお世話について相談にのってほしい

④家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい

⑤自由に使える時間がほしい ⑥学校の勉強や受験勉強など学習のサポート

⑦自分が行っているお世話を代わってくれる人やサービスがほしい

⑧ 家庭への経済的な支援 ⑨特にない

これで終わりです、回答を確認し送信してください。

ご協力ありがとうございました。

「少年の生活意識と行動」の実態調査Ⅱ

小牧市少年センター

この調査は、自分のこと、学校のこと、地域のこと、将来のこと、社会のことなどについてたずねたものです。この調査結果は、みなさんのこれからの生活に役立てていきたいと思っています。回答はすべて1つだけ選んで、あてはまる項目のラジオボタンにチェックを入れてください。

調査対象

1 あなたの学年、性別について教えてください。

- ① 小学校5年生 男子 ② 小学校5年生 女子 ③ 中学校2年生 男子
④ 中学校2年生 女子 ⑤ 高校1年生 男子 ⑥ 高校1年生 女子

質問内容

2 先生は、あなたのことをわかってくれていると思いますか。

- ① 思う ② どちらかといえば思う
③ どちらかといえば思わない ④ 思わない

3 どんな先生に一番教えてもらいたいですか。

- ① おもしろくて親しみやすい先生 ② わかりやすい授業をしてくれる先生
③ 児童・生徒の意見を大切にしてくれる先生 ④ 児童・生徒を差別しない先生
⑤ 尊敬できる先生 ⑥ 児童・生徒のめんどろを見てくれる先生
⑦ その他（ ）

4 学校に行きたくないと思ったことはありますか。

- ① いつも思っている ② 思ったことがある ③ 思ったことはない → → **質問6へ**
→ **質問5へ** → **質問5へ**

【4で①②を選んだ、学校に行きたくないと思ったことのある人のみ答えてください。】

5 学校に行きたくない理由の一番は何ですか。

- ① 遊んでいたい ② 勉強がわからない ③ 友達と会いたくない
④ 先生がきらい ⑤ いじめられる ⑥ 先輩と会いたくない
⑦ 友達がいらない ⑧ なんとなく行きたくない
⑨ その他（ ）

【この後は全員の方が答えてください。】

6 学校の「きまり」や「規則」について、あなたの考えに一番近いのはどれですか。

- ① 集団のルールとしてどうしても必要である
② 全体的にもうすこし簡単にすればよい
③ みんなの意見が取り入れられるべきである
④ 一人ひとりがしっかりしていれば必要ない
⑤ 学校は自由のほうがよいので必要ない
⑥ その他（ ）

7 どうして勉強しなければならないと思いますか。1つだけ選んでください。

- ① 常識あるおとなになるため
- ② 知識・技能を身につけるため
- ③ 自分のやりたいことを見つけるため
- ④ よい大学に入り、よい会社に就職するため
- ⑤ 社会のために役立ちたいため
- ⑥ 自分を磨くため
- ⑦ お金持ちになり、豊かな生活をするため
- ⑧ 優れていると認められたり、尊敬されたりする立場になるため
- ⑨ その他 ()

8 自分の住んでいるまちは好きですか。

- ① 好き
- ② どちらかといえば好き
- ③ どちらかといえば好きではない
- ④ 好きでない

9 いつでもどこでも安心して外出することができますか。

- ① とても安心 →→→質問11へ
- ② だいたい安心 →→→質問11へ
- ③ あまり安心ではない →→→質問10へ
- ④ まったく安心ではない →→→質問10へ

【9で③④を選んだ人のみ答えてください。】

10 安心して外出することができない理由の一番はなんですか。

- ① 街路灯が少なく夜暗い
- ② 不審者が出る
- ③ 悪い人が集まっている場所がある
- ④ 人通りの少ない道路や見通しの悪い場所がある
- ⑤ その他 ()

【この後は全員の方が答えてください。】

11 隣に住んでいる人を知っていますか。

- ① よく知っている
- ② だいたい知っている
- ③ あまり知らない
- ④ ほとんど知らない

12 あなたにいつも「おはよう」「こんにちは」などと声をかけてくれる人はいますか。

- ① たくさんいる
- ② ときどきいる
- ③ あまりいない
- ④ ほとんどいない

13 地域で行われる行事（盆踊り・お祭り・清掃活動・防災訓練など）に参加しますか。

- ① よく参加する
- ② ときどき参加する
- ③ あまり参加しない
- ④ ほとんど参加しない

14 地域で行われる行事（盆踊り・お祭り・清掃活動・防災訓練など）にお手伝いやボランティアとして協力しますか。

- ① よく協力する
- ② ときどき協力する
- ③ あまり協力しない
- ④ ほとんど協力しない

15 地域をよくするために、一番大切にしたい活動はなんですか。

- ① お祭りや昔からの行事
- ② あいさつ運動
- ③ 地域の運動会やスポーツ大会
- ④ ボランティア活動
- ⑤ 子ども会活動
- ⑥ 環境美化活動
- ④ その他 ()

16 あなたは、どんなところに一番住みたいですか。

- ① 空気のきれいな自然がいっぱいのところ
- ② 買い物に便利なところ
- ③ 交通の便がよいところ
- ④ 病院や福祉施設などの利用が便利なところ
- ⑤ 映画館・劇場・遊園地などの遊び場が近くにあるところ
- ⑥ 学校や幼稚園・保育園が近くにあるところ
- ⑦ 仕事をする場所がたくさんあるところ
- ⑧ 近所の人たちが仲のよいところ
- ⑨ その他 ()

17 将来、一番つきたいと思っている仕事はなんですか。

- ① 医者・看護師・薬剤師など医療に関係する仕事
- ② スポーツ選手・インストラクターなどのスポーツに関係する仕事
- ③ プログラマー・ソフトウェア開発者・ゲームプランナーなどのIT関連の仕事
- ④ 受付スタッフ・秘書・出版社社員などの事務・企画関係の仕事
- ⑤ 介護福祉士・ケアマネージャー・ホームヘルパーなどの福祉関係の仕事
- ⑥ 役所・公立学校・公立病院の職員や自衛官・消防士などの公務員
- ⑦ 俳優・整備士・大工などの職人・技術関係の仕事
- ⑧ ファッションデザイナー・理容師・美容師などのファッション・美容に関する仕事
- ⑨ 料理人・栄養士などの食に関する仕事
- ⑩ その他 ()

18 あなたは将来の夢や目標のため、今、努力していますか。

- ① 一生懸命努力している
- ② まあまあ努力している
- ③ 夢や目標はあるが、特に努力していない
- ④ 今は、夢を持っていない

19 万引き、タバコ、シンナー、危険ドラッグ、薬物などの悪いこと（非行）をする一番の理由はなんだと思いますか。

- ① 悪いことだと思っていない
- ② がまんすることができない
- ③ たいくつだから
- ④ 楽しいから
- ⑤ お金がほしい
- ⑥ 勉強がおもしろくない
- ⑦ まわりがやっている
- ⑧ 親が悪い
- ⑨ 世の中が悪い
- ⑩ その他 ()

20 悪いことをしないようにするために、一番大切なことはなんだと思いますか。

- ① 親がしつこくしつかりする
- ② 警察の取締りを厳しくする
- ③ 大人が見本を示す
- ④ まわりの大人が注意する
- ⑤ 道徳教育をしつかりする
- ⑥ 学校が注意をしつかりする
- ⑦ 活躍できるチャンスをあたえる
- ⑧ 親友をつくる
- ⑨ 部活動や好きなこと（趣味）に打ち込む
- ⑩ その他 ()

26 お世話をすることに辛さを感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- ①身体的に辛い ②精神的に辛い ③時間的余裕がない
- ⑥ 特に辛さを感じていない

27 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- ①自分のいまの状況について話を聞いてほしい
- ②進路や就職など将来の相談にのってほしい
- ③家族のお世話について相談にのってほしい
- ④家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい
- ⑤自由に使える時間がほしい ⑥学校の勉強や受験勉強など学習のサポート
- ⑦自分が行っているお世話を代わってくれる人やサービスがほしい
- ⑧ 家庭への経済的な支援 ⑨特にない

これで終わりです、回答を確認し送信してください。
ご協力ありがとうございました。

「ヤングケアラー」とは、「本来大人が行う家事や家族の世話などを日常的におこなっている子ども」とされています。具体的な例として以下のように紹介されています。

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟 / illustration : Izumi Shiga

30 「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがありますか。

- ① 知っており、内容も知っている。
- ② 聞いたことはあるが、よく知らない。
- ③ 聞いたことがない

31 あなた自身、「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか（本来大人が行う家事や家族のお世話などに時間がとられ、やりたいことができないような状態にあてはまりますか）。

- ① あてはまる ⇒ 32 へ
- ② あてはまらない ⇒ 質問は以上となります。
- ③ よくわからない ⇒ 質問は以上となります。

※①を選んだ人は、うらにも記載してください。

32 31で「あてはまる」と回答した人にお聞きします。

あなたが行っているお世話の内容について教えてください。

(あてはまる番号すべてに○)

- ①家事(食事の準備、洗濯、掃除など)
- ②きょうだいのお世話や保育園などの送り迎え
- ③身体的な介護(入浴やトイレのお世話、体拭きなど)
- ④外出の付き添い(買い物、散歩の補助) ⑤通院の付き添い
- ⑥感情面でのサポート(話し相手になる、悩みを聞く) ⑦家でのみまもり
- ⑧通訳 ⑨金銭管理 ⑩医療的な世話(薬の管理、たんの吸引など)
- ⑪その他

33 お世話をしている日数を教えてください。また、一日にどれくらいお世話をしていますか。時間数を教えてください。

(日によって異なる場合は最も長かった時間を教えてください。)

- ①毎日
 - ア. 1時間より短い イ. 1時間以上～3時間より短い ウ. 3時間以上
- ②週3～5日
 - ア. 1時間より短い イ. 1時間以上～3時間より短い ウ. 3時間以上
- ③週1～2日
 - ア. 1時間より短い イ. 1時間以上～3時間より短い ウ. 3時間以上
- ④1か月に数日
 - ア. 1時間より短い イ. 1時間以上～3時間より短い ウ. 3時間以上

34 お世話をすることに辛さを感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

- ①身体的に辛い ②精神的に辛い ③時間的余裕がない
- ④特に辛さは感じていない

35 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。

(あてはまる番号すべてに○)

- ①自分のいまの状況について話を聞いてほしい
- ②進路や就職など将来の相談にのってほしい
- ③家族のお世話について相談にのってほしい
- ④家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい
- ⑤自由に使える時間がほしい ⑥学校の勉強や受験勉強など学習のサポート
- ⑦自分が行っているお世話を代わってくれる人やサービスがほしい
- ⑧家庭への経済的な支援 ⑨特にない

これで終わりです、ご協力ありがとうございました。

「少年の生活意識と行動」の実態調査の設問について

以下の QR コードをスマホ等で読み取ることにより WEB アンケートにアクセスすることができます。

【令和 7 年度「少年の生活意識と行動」の実態調査 I へのアクセス】

<https://logoform.jp/form/uSYk/1081043>



【令和 7 年度「少年の生活意識と行動」の実態調査 II へのアクセス】

<https://logoform.jp/form/uSYk/1135099>



その他の意見

NO	質問	小学校5年	中学校2年	高校1年
	学年・性別			
1	寝る時間			
2	学校以外での勉強時間			
3	何日塾へ行っているか			
5	どれくらい好きなことをする時			
6	何冊の本を読むか			
7	休みの日の過ごし方で、一番多いことは	外で遊ぶ 野球をする	プール行くとバレーボールの練習する。	絵を描く
		ほとんど全部	サッカー	お出かけ
		マウンテンバイクをカスタムしたり乗ったり	トライアルバイクの練習	
		サッカー	土日祝はすべて野球のクラブ活動	
		1人でゲームずっとする	YouTube・Amazonprimeでアニメや動画を見る	
	お母さんの用事について行く	クラブチームの遠征		
8	自分専用の携帯・スマートフォン			
9	スマホを持ったのはいつ頃			
10	1日のスマホの利用時間			
11	スマホの夜間利用について	LINEをする時間はなるべく考えている	寝てる	親が全部時間も管理している
		あまり使わない	夜遅い時間、早朝の返信は控え、必要な時以外の使用時間を減らそうとし	翌日の目覚めが悪くなると思っている
		元々9時までしかできない。		夜間の使用は出来ないように親に設定されている
		使ってないから		返信などは自分が眠くなるまでするがゲームは10時以降はしないようにして
		夜中にスマートフォンを使うのはあまり良くないと思います		
		寝れるために9時以降はスマートフォンを触らない		
	夜間はケータイを使わないから分からない。			
12	携帯やスマホで知り合った人と会ったことがありますか	特に知り合っていない	知り合った人がいない	
		いない	スマートフォンを通して知り合った人がいない。	知り合った人いない
		スマホで知り合った人がいない	そもそもSNS上で知り合った人物がいない	知り合った人はいない
		スマートフォンを通して知り合った人がいない。	知り合ったことすらない	他人と知り合うことはしてない
		まず、スマートフォンを通して知り合った人がいない	会ったことはないが、よく通話する	ネットで知り合ったことがない
		そもそも知り合ったことがない	スマートフォンを通して知り合った人はいない	そんなアプリを使ったことがない
		あった事ない	スマートフォンを通して、人と知り合ったことがない	ない。
		そもそもSNSとかが、できない	インターネットで友達を作ったことがない	知り合った人がいない
		スマートフォンを通して知り合った人がいない	知り合えない	
		同じ小学校の事は会った	知らない人と話したことない	
		知り合った人はいない	なし	
		無い	知り合ったことがない	
		全くない	知り合ったこともない	
		知り合ったことがない	知り合ったことがない	
ない	知り合った人はいない			
会ったことある友達	スマートフォンを通して知り合った人がいない			
	スマートフォンを通して知り合った人はいない			

NO	質問	小学校 5 年	中学校 2 年	高校 1 年		
13	インターネット利用で一番多いここは	漫画や本を読む	動画の編集、小説の編集	ネット小説を読む		
		インターネットを使っていない		read online		
		わからないことを調べる		友達と話したりオープンチャットで話す		
		調べる				
		動画と音楽				
		持ってない				
		知らない				
		分からない言葉を調べたりします。またリコーダー練習のお手本を聞くため				
		自分が使えるインターネットがない				
		塾の勉強 両親との連絡				
14	SNSへの投稿	漫画アプリを使って漫画を読む				
		そもそも触らない				
		持ってない	したけど、もうやってない	LINE以外やってない。		
		SNSとかができない				
		インスタで非公開にしているから				
		何それ				
		SNSをやったことがない				
		お母さんがしている				
		15	今、一番の悩み事は何	習い事	自殺	将来のこともだし人間関係や自分の性格のことも悩んでいる
				勉強	喉がかわいた	バイト
ぜんぜん身長が伸びないこと	睡眠時間					
習い事						
みんなに話してないことがどうなのか。						
勉強とお金と健康と友達						
わからない						
お兄ちゃんのこと						
愛犬の未来(病気の疑いがかかけられているから)						
恋愛						
16	悩み事を一番に相談するのは誰	いない	悩み事がないので相談しない	信用している中学の時の担任の先生か彼氏		
		悩み事をあまり言わない	ない	したくない		
		相談は誰にもしない	大した相談したことがない	ない		
		放課後デーの先生方	いない	相談しない		
		相談しない	いない。	いない		
		そんな相談しない	しない	親		
		悩み事はないし、自分で解決できるので、相談しないです。	相談しない	相談しない		
		したことがない	特に相談しない	オープンチャットなどで聞いてもらう		
		相談しない	いない	家族		
		ぬいぐるみ	悩み事を話したことがない	しない		
		習い事の先生	塾の先生	誰にも相談しない		
		いない	相談する気がでない	中学のときは保健室の先生に相談していたけれど今はできていない最近はず		
		家族	いない	居ない		
		心の教室	相談しない	自分		
		自分	相談してない	いない		
		後輩	相談してない			
困ったことがない						
誰にも相談しない(悩み事がないから)						
17	友だち何人					

NO	質問	小学校 5 年	中学校 2 年	高校 1 年
18	あなたと友達の関係で一番近いもの	全部	気を使わなくてもいい人	一方的にその時思ったことを話せる友達
				自分より命が重いまたは同等 信頼性と関わりが深い最高の友人。
19	ネット上の友だちの人数			
20	ネット上の友だちとの関係は	知り合った事のあるだけで特に関係はない		一緒にゲームをする友達
		一回しか会っていない		
21	今、自分にとって一番大切にしていること	全力で楽しむこと	色々なことを頑張ること	勉強
		習い事	自分をしっかり持つこと	将来のために勉強
		サッカーを頑張ること	感謝を伝えること	後悔しないよう自分の赴くまま生きる
		習い事	サッカーをすること	自ら進んで行動する事
		家族	特に何も考えてない	いろんな人の考え方を理解すること
		命	高校に行けるように頑張る。	ストレス発散
		友達を大事にすること	自分らしくいること	周りに迷惑をかけないこと
		メンタル	バスケが上手くなること	自分に厳しく
			睡眠	友達にはっきり意見をいうこと、遠慮しないこと
			気を使うこと、優しくいること	もっとやるべきことをやれるようにすること
			自分を得意分野に関する技術や勉強で成長させること	野球のことしか考えない
	食事	筋トレ		
			みんな仲がいいこと	
22	今、家族にとって一番大切だと思うこと	一緒にいて楽しいしなんでも話せる	笑顔がある	どんな時でも受け入れてくれる
		やる時はやる、やらない時はやらないでメリハリをしっかりとつける	金	居心地が良い
		家族みんながいて元気に過ごすこと。	特に無い	心地が良い。
		大切にしている事が無い	家族はいなくていいと思う	
		家族みんな仲が良く、思ってることをちゃんと言えること	ない	
			楽しく過ごせること	
			お金	
23	あなたは、家にいるときの気分に一番近いものは	イラつくから	なんとも思わない	自分の部屋なら落ち着くし好き
		お兄ちゃんのせいで、めっちゃイライラする	引越したい	1人でいると落ち着く
		変な人が来ないか心配	離婚とか、喧嘩とかの話をしてほしくない	明日のことなど先のことを考えると少ししかくつろげない
		楽しい		虚無
		イライラする時もある、イライラしない時もある		弟とかかわるとイライラしますねー
		たくさん家族と話ができて楽しい。		家にはいたいけど、親や妹に対してイライラすることが多い、原因がわからない
24	生活や行動を一番注意してくれるのは？	注意されない	知らない	親
		両親	いない	家族
		家族全員	両親	とくにいない
		いない		
25	あなたが両親から一番注意されていることは	ゲームのやり過ぎ	家事の手伝いのこと	節電
		時間のこと	返事	朝起きる時間
		・人が嫌な気持ちに気持ちにならないことをしたら。	男	態度
		口が悪い	人生	ない
		兄弟との仲	特に無い	犬の散歩
		習い事	ない	注意を受けない
		あんまり外に出ないこと	特に何も注意されない。	薬を飲んだかの確認
		携帯とお金	言葉選び	家事
		兄弟で喧嘩した時	生活のこと	色々
		手伝いたら	人に嫌な思いをさせないように、思いやりを持つように	親いない。
		健康面	時間の使い方	就寝時間
		片付けなど	ない	部活
		声や足音のこと	しゃべること	部活のこと
		習い事	生活習慣	部活
		ない	注意を受けたことはありません。	ない
ない				

NO	質問	小学校 5 年	中学校 2 年	高校 1 年	
26	あなたが一番行っているお手伝いは	寝る時間			
		発言や行い			
		怒りっぽい態度			
		お風呂に入り始める時間			
		寝る時間、お手伝い			
		自分の生活のこと			
		暴力 妹に意地悪			
		洗濯物畳み	頼まれたとき以外はやらない	特にしていない	
		特にやってない	洗濯物	困った時に手伝う	
		妹の勉強を教えたり、部屋の掃除	洗濯物を取り入れる	とくにない	
		洗濯物たたみ、アイロン	買い物へ行った時の荷物持ち	洗濯物	
		何もやらない	洗濯、洗濯干し	洗濯物を干す	
		食事の皿だし	洗濯物	手伝ってない	
		草むしり	洗濯	ペットの世話	
		洗濯物を畳むこと	やってない	せんたくもの	
		なんもしてない	何もしていない	犬の散歩	
		洗濯物をほす	犬の散歩	洗濯物	
		弟、妹のお世話	そもそもやらない	洗濯物を入れる	
		洗濯たたみ	洗濯	洗濯物を干す、たたむ、しまう	
		洗濯物を干す	ない	洗濯物干し	
		洗濯物をしまっている	洗濯を畳むこと	洗濯物	
		洗濯物たたみ	洗濯物をたたむ。	洗濯物を干す	
		ご飯を作る	洗濯	洗濯	
		洗濯物		洗濯物干し	
		していない		洗濯物	
		洗濯物を畳む		八百屋の手伝い	
		机ふきとゴミ出しと卵焼きと掃除機とクイックワイパーとお米の精米と雑用		洗濯 ご飯の準備 ゴミ出し	
		なし		洗濯	
		洗濯物を干す		ご飯を炊く	
		皿洗いと鳥のおせわヘアのそうじママのお手伝い		とくにない	
		布団を出す		洗濯、皿洗い、掃除、	
		布団を敷く		してない	
洗濯物たたみ					
ペットの世話					
覚えてない					
靴ならべ					
つくえふき、洗濯物					
風呂の準備					
皿洗い					
掃除機					
洗濯物					
弟のお世話					
猫のお世話					
洗濯物を干す					
トイレ掃除					
洗濯物を畳む					
料理を作ったりする					
トイレ掃除					
お手伝いをしていない					
洗濯物をたたむ					
トイレ掃除					
色々などころの整理整頓					

NO	質問	小学校 5 年	中学校 2 年	高校 1 年
27	先生はあなたのことをわかって			
28	どんな先生に教えてもらいたいか	自分達のために動いてくれて親しみやすい先生	制服をきちんと着ることを当たり前として、厳しくしてくれる先生。授業で、な	特になし
		面白くて、わかりやすい授業をしてくれて、遊んでくれて、差別をしない先生	相談によく乗ってくれる先生	
		親しみやすく皆さんの意見を大切に、尊敬できる先生	先生をやっている本当に楽しそうな先生	
			いちいち「心配だった」とか「みんな会いたがってる」とか言わない先生	
29	学校に行きたくないと思ったこ			
30	学校へ行きたくない理由は	ない	行くまでがめんどくさいから。坂あるし雨の日はカッパ着ないといけないから	疲れるから
		委員会や、その他諸々の活動が辛いです。	人とのコミュニケーションが苦手、人と話したくない	学校まで行くのが面倒臭いから。
		足が痛い	体調が治りきっていない時。	眠たい
		会いたくない人がいる	周りがうるさくてストレスを感じるから。	部活やなんとなく
		勉強出来るけどめんどくさい	だるい。気が湧かない。	人間関係
		給食が苦手	朝だるい	教科書の内容でしかなく、授業を聞く必要性を感じないから
		園芸委員会の先生が苦手	自分でもよくわからないが、最近よく学校に行く前に下痢を起こしているの	眠たい。
		習い事で疲れて行きたくないと思うことがある	通常級についてわからないことが多い	友達や先生以外とコミュニケーションがとりたくない
		家でごろごろしたいから	いつもの自分を知っている人と会いたくない	学校があまり好きではない
		月曜日になって「ダラダラしていたい」と思ったことがある	朝起きるのがめんどくさい 友達と遊びたい 家でゆっくりしたい。	朝起きるのがきつい
		裏でぶっつぶって言われている事を知っているから	眠い	朝学校に行こうとすると体調が悪くなるから。
		めんどくさい	朝早く起きなきゃだ	部活が面倒くさい
		学校で勉強するのがめんどくさい	気持ち的につらい	登下校に時間がかかる
		ストレスが溜まっているから	寝る	ねむいとき
		委員会の先生が怖い	友達だけではなく“人”と話したくない	自転車漕ぐのがしんどいから
		嫌いな教科やりたくない、友達との関係	怖い	行く準備をするのがめんどくさいし、授業で当てられるのが嫌だから
		家族と一緒にいたいから	学校で勉強するよりもいろんなところに行って勉強したほうが楽しいと思うから	登下校が楽でないため
		眠いから	不安、ストレス	人と接することがあまり好きではないから
		宿題がやだ	眠い	なんとなくだらだらしたくて行きたくない日もあるけど大体は体調が良くな
		家でゲームをしたい	暑いから	人と開わりたくない
		勉強をしたいから	寝むたい	学校の授業中などで、うるさい時や悪口や暴力的などをよく見ることがあり、
		いじめられてはいないけどこそこそこちちを見て話してくる友達がいて嫌だ	変な名前前で呼ばれてた時	嫌いな人がいる
		めんどくさいって思うことがある	学校に絶対いけない気なのに休校にしないから	登校時の坂がきつい
		雨だから行きたくない	誰も信用できないから	家でゲームしている方が楽
				部活でつかれて
				登校がめんどくさい
				クラスに仲の良い人がいない
				時代遅れなルールはいらないと思う
		31	規則や決まりについて	よくわかりません
		みんな なかよくしたほうが良い	何のためにその規則があるのかをはっきりさせなければならない。そしてそ	
		ヘアゴムを自由にして欲しい		
32	どうして勉強しなければならないのか	将来苦労しないため	将来やりたいことが変わったとしても幅広い選択肢を選べるようにするため。	お金がないと生きていけないから。
		家族を働かなくても暮らせるようにしてあげたい	自分の人生をよくするため	学校を卒業するため
		自分のやりたいことを見つけた、知識・技能を身につけるため、良い会社に	周りの人達の迷惑にならないようにするため	より楽しく生きるため
		授業もそうだけど、やりたいことを見つけて(そのやりたいことと合う授業とか	みんながしているから。	なぜか優先順位が高いから
		勉強ができると、勉強があまりできない人に教えることもできるし、自分の助	自分たちにいるいろんなことを体感させることで夢を増やすためだと思う。	しておいて損はないから。
		お家のお金をもう少しだけ余裕があるようにするため	なりたい自分に近づくため	あまり勉強をしても意味がないと思う
		自分のやりたいことができるようになるため	国がやれというから	理由なんてない
33	自分の住んでいる町は好きか			
34	安心して外出できるか			
				がんばるといふことを学生のうちにやるため。
				選択肢を増やすため

NO	質問	小 学 校 5 年	中 学 校 2 年	高 校 1 年
35	安心して外出することができない理由	暗くなる外に灯りがなく、暗いから辺りがよく見えないし、家の近くで前に知	人に会いたくない	道に迷う
		ちよつと変だなという人にあつたことがあつて、それから、あまり一人では、外	人混みが苦手だから	人があまり好きではない
		ダメと言われる	知り合いに会うかもしれない	治安が悪い(自転車を盗まれたことがある)
		嫌なことがいろいろあつて知らない男の人やおじさんがいると少し怖くなる	知ってる人に会いたくない	人が多いところがあまり好きではないから
		ニュースなどの情報で、いっどこで不審者が出るかはわからないからです。		
		横断歩道を歩こうとしたら猛スピードで信号無視をした車がいたので		
		近所に二人、不審者かはわからないけど、変な行動する人をしょっちゅう見		
		知り合いがいる可能性があるから		
		夜が静かすぎて昼が怖い		
		夜が静かすぎて昼も怖い		
外に出ると緊張してしまう				
疲れるから				
最近近くで事件が起きている				
36	隣に住んでいる人を知ってい			
37	おはよう・こんにちはと声をか			
38	地域の行事に参加するか			
39	地域の行事に協力するか			
40	地域をよくするために一番大切にしたい活動は	わからない		ない
		子供会、お祭り、スポーツ大会など		
		祭りとか積極的にいく		
		ない		
		ない		
犯罪禁止地域 この地域以外にもありますが毎日のようにニュースで犯罪が				
41	あなたはどんなところに一番住みたいですか	友達が、いっぱいいるところ	アメリカ	安心安全の町
		都会に住みたいです。	自然と住みやすさが充実しているところ	暮らしていて難がないところ。地価や治安など
		タムタムの近くやゲームセンある店の近く	人が少ないところ	友達がいるところ
		中古ショップなどがあるところ	静かなところ	
		どこでもいい	個人のプライバシーの尊重が第一なところ	
		自然が多く、近くに小さな可愛い駅があり、博物館が近く、広い土地があり、土地が安くて敷地が広い所など	都会	
		空気の綺麗な自然、交通便利、遊び場があるところ		
		友達がいっぱい、いるところ		
		みんなが平和に安心して楽しく生活できるところ		
		優しい人たちがいるところ		
一番仲良しな人の家が近くにある所				
友達がたくさんいるところ				

NO	質問	小学校 5 年	中学校 2 年	高校 1 年
42	将来尽きたい仕事は	小説家など物語をかく仕事	わかんない	トラックの仕事など
		発明	保育士	空港で働くか、キャビンアテンダントか、ホテルで働いてる人
		特にないが、数学者や、行動経済学者にはなりたいかも	保育士	特にないけど人と関わるしごとがしたい
		まだ考えていない	特にない	学芸員、アーティスト、イラストレーター、芸術家などの美術に関する仕事
		ドットレイナー	音楽系	歌手
		イラストレータなどイラストに関すること	獣医	配達
		学校の先生	無い	ジム経営かアニメ作り
		↑よりも簡単な仕事	ない	理系の化学に関する仕事
		文具デザイナー	今はない	生物学科の研究職
		警察	外国との貿易をする仕事	まだ決まっていないから。
		JRの車掌	決まってない	お金に困らない会社
		ダンスに関係すること(ダンスの先生など)	動物園の飼育員	まだ決まっていない
		イラストレータ	美容師	動物園の飼育員
		特にない。大人になったら探す	心理カウンセラー	まだ決まっていない
		YouTubeなどでの配信活動	YouTuberまたは声優	心理カウンセラー
		戦国武将の歴史学者	建築士	色々
		ロボットの作成構築	就きたい職業がない	公認会計士
		音楽関係の仕事	保育士	未定
		イラストレー	イラストレーター	命を守る仕事
		パティシエ	イラストレーターなどのイラストに関する仕事	英語教師
		イラストレーター	今はあまり具体的に考えたことはない	特に決まっていない
		歯科衛生士	イラスト関係の仕事	テーマパークのキャスト
		決まってない。	トリマーとか獣医とかの動物関係の仕事	芸術系
		ふつうの会社	保育	会社員
		バンドマン でもファッションデザイナーとかイラストレーターとかもやってみ	イラストレーター	銀行員など稼げる仕事
		飛行機のシーエーさん	まだわからない	経営
		わかんない	弁護士	楽器リペア、音楽に関する仕事
		漁業など魚に関する仕事	まだない	銀行員などの経済に関する仕事
		バンドなどの音楽関係の仕事	塾教師	ない
		パン屋さんやケーキ屋さん	ゲーム実況者、歌手	飼育員
		イラストレーター	研究者	ホテルフロント
		サラリーマン	音楽	力仕事
		無職	動物保護	決まっていない
		動物の飼育員やじゅうい	芸能人	保育系
		プロのパレリーナ	外資系企業	トリマー
		小説家になりたい。	まだ悩んでいるが、診療心理士か教師	この中では特にない
		食肉解体作業員	ペットトリマー	決まっていない
		キャスト	イラストレーター	声優
		日本ガイシ	マジシャン	クリエイター
		保育士	絵を描く仕事	パイロット
		VTube(ブイチューバー)	ユーチューバーになりたいけどどれかわからなくてそのほかにしました。見てく	記者、先生
		ない	音楽関係の仕事(歌手、シンガーソングライターなど)	決まってない
ペット屋	社長	未定		
水族館の人	ない	写真家		
決まっていない	ペットショップなどの動物関係の仕事	特にない		
ない	薬剤会社などの研究員	企業、外国と関係したりしてるもの		
できれば研究したい	フリータ	電車の運転手		
まだ持っていない	イラストレーター	わからない		
ペットショップの定員さん	まだ決まっていません。	動物に関する仕事		
ゲーマ、YouTube	わからない	まだ決まっていない		
小説をかく人		コンサルタント		
保育士		第二言語を使う職業		

NO	質問	小学校 5 年	中学校 2 年	高校 1 年	
		誰かを救える職業		分からない	
		科学者		デザイナー	
		遊び場のスタッフさん		国際的な内容の仕事	
		生命保険会社		TOYOTA	
		サーティワンで働きたい		営業・販売などの仕事	
		まだ決まっていない		建築関係	
		宇宙に関わること		楽な仕事	
		ゆうちゅーばー		イラスト系	
		軍事評論家		迷っている	
		マウンテンバイクの選手		子供食堂や児童館の先生など	
		警察官		保育士	
		ピアノの先生		まだ決めていない	
		保育園		プログラマー	
		ない			
		経営者			
		漫画家			
		トリマー			
		宇宙に関係している仕事			
		会社員 社会の皆さんとのコミュニケーションや空気の良い職場にして給料			
		保育士			
		まだ決まっていない。			
		まだ決まっていない			
		数学の先生			
		スポーツに入るかわからないけど競技かると言うもの。			
		アイドル			
		Youtubeに関する仕事			
		昆虫学者			
		イラストレーター			
		アクセサリーや綺麗なものを作る先生			
		万引き、タバコ、シンナー、危険ドラッグ、薬物、などの悪いことをする一番の理由は	お金を盗んで、楽しいことをいっぱいしたいと、思っている人や「自分は薬を欲に囲まれていて欲しいものをもらうとまた新しいものなどに目を持って行く	それは、やってる人にしかわからない。わかっちゃったらだめだと思う。反抗心	親と世の中が悪い。ぐれるのにはなにかしら理由がある したこと無いから分からない
			買うお金がないからと、闇バイト	周りが悪い	身の回りの環境に影響されていると思う。親、先輩、近所の人など
			わからんから僕はバカがやっていると思う	精神が保たなくなり楽になろうとするから	かっこいいと勘違いしてる連中がおるから
	自分が意識していないから	育ってきた環境でだめだと教えてもらえなかったから。	断れないでやってしまって、依存してしまうから。		
	悪を犯す人々	判断ができていないこと	かっこいいと思っている		
	周りの環境	スリル	つらいことから逃げたいと感じているから。		
	気持ちいいから	その人を取り巻いてきた環境が悪かったから。(親など)	気持ちいいから		
	しない	いろいろなことがあって現実逃避をするために薬をやっていると思う	辛いから		
	面白そうだから	現実逃避がしたい	なんとなくという気持ち		
	ストレスが溜まっている	逆張り	好奇心		
	周りの影響やお金や中毒性のあるものもあるからやってしまうと思う	法律	かっこいいと思ってる		
	世の中が楽しくないから		そうするしかなかったから、かっこいいと思っているから		
	気になってついやってしまう		かっこいいと思うから		
	それをする事によっての、デメリットより、メリットの方が大きいと考える人が		悪いことだとわかっていたとしても、どうしてもそうするしかなかったという精		
	お金がないから		なんとなく		
	苦しいから				
	生きるため				
	ストレス				
	お金がなくてなんも買えないから。				
	そのようなことをやって見たくてそしてハマる				

NO	質問	小学校 5 年	中学校 2 年	高校 1 年
44	悪いことをしないため、一番大切なことは	そのような事がないような、世の中にする。	自分が思っていること	周りが少しでもその子に寄り添う。毒親を辞める。否定しない
		欲に導かれないように	その子のことを分かってくれるような人、寄り添う人が必要だと思う。	みんなの意見を聞く
		自分がしっかり気をつけること	悪いことをしている人とかかわらないようにする。	寄り添ってくれる人が近くにいること(親や友達)
		危険なことをしない	そもそもその存在を知らなければ良い。知らなければやりたくなくなることもなく	
		自分が意識する	何が悪いか、なぜそれをしてはいけないのかを説明する。	
		全ての法律を見直しみんながしわあせに生きていけばいいと思う	自分がダメなことをしていると理解させること	
		自分で意識すればいいと思うんだけど…??	自分で我慢する	
		自分磨き	そいつのやりたいようにやらせる	
		給料などでお金をもらえるように努力する	長期的に自分の人生を考えたうえで、合理的にそれがいいことかわるいこと	
		自分で意識して悪いことをしないようにする	その子のことを認めてあげる(悪いことをしているのを認めるのとは違う)	
		それをやることによるデメリットが大きいことを、ポスターなどで表示する	世の中を変える	
		周りの環境を良くする	暇をさせない	
		自分が気をつける	自分自身で気を付ける	
		1人1人注意すること。	ちゃんとした日常生活をおくこと	
		悪いことはダメと、その悪いことをした人が見直す	自分自身で意識する	
		45	日本の社会をみて、あなたが一番の問題だと思うこと	物価高・日本が外国に対して甘い気がする
失礼な態度をとる大人がいる	少子高齢化 円安			政治家がいるだけで国民の意見をききいれる気などないところ。
食べ物問題	権力者にお金が行く仕組み、国民搾取されすぎ			社会のためと言いながら結局は自分の地位のことしか考えていない政治家
偉い人が全てを操れる	学歴社会			全部よくない特に政治
総理がまぼほもしていないこと	政治家がよくない			日本の一番偉い人をこくみんなが決めれないこと
貧しい人とお金持ちの人の差がありすぎる、就職が難しい、社会福祉が良	石破総理			外国人問題
そうりだいじん	官僚、政治家などの国を中心として考えなければならない人たちが、自分の			個人の人格や意見がない(協調性しか見ていない)
スーパーの商品の値上がり	円安、物価高なのにながっていかない給料			若い人が政治に興味がないこと
悪いことをした人の将来が優しすぎる	国民からは金を巻き上げる癖に外国人には惜しみなく金を使う政府			就職してもすぐ若者が辞めること。
お金を稼いでもほとんど稼いだお金が税金で取られてしまう	子供が増えない			全部
ないと思う	すべての人が手を取り合って生きていけない。			情報の精査
環境問題への意識はあるが、その改善への取り組み姿勢があまり見えない				現代の、悪い方に目立つ情報を鵜?みにするような人がそこそこいることが
男女差別がある気がする				
SDGsが達成されなきゃいけないのに、SDGsに無関				
薬物中毒者がいる				
税金50%				
若い人の意見や国民の意見を取り入れたり、政治がもう少し裏金とかの間				
少子高齢化				